

# 銀座第2 遺跡

## Ginza 2 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書20

2005

宮崎県埋蔵文化財センター

## 銀座第2 遺跡

Ginza 2 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書20



銀座第2遺跡周辺地形遠景（北から）

## 序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書は、その発掘調査報告書であります。

本書に掲載した銀座第2遺跡は平成14年7月から平成15年3月にかけて発掘調査を行い、後期旧石器時代の遺構・遺物、縄文時代早期・弥生時代・中世の遺物、近世の遺構・遺物を確認することができました。

特に、近世の掘立柱建物や陶磁器等を確認することができました。また、礫の流れ込みによって運ばれた多数の弥生土器の出土によって近隣に弥生時代の遺跡が存在した可能性もでてきました。

ここに報告する内容は、今後当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になると思われます。

本書が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力頂いた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成17年9月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 宮園淳一

## 例　　言

1. 本書は平成14年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に係る埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は日本道路公団から委託を受けて宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 現地での実測等の記録は、永田和久、山田洋一郎、成相景子、今塙屋毅行、可児直典が行ったほか発掘作業員が補助した。
4. 本書使用の遺物実測図は、永田和久が行ったほか整理作業員が補助した。
5. 本書に使用した実測図等の済書は、永田和久が行ったほか整理作業員が補助した。
6. 現地での写真は永田和久、山田洋一郎、成相景子、今塙屋毅行、可児直典が、遺物写真は永田和久、今塙屋毅行が撮影した。
7. 測量・空中写真・自然科学分析・石器実測等は次の機関に委託した。

地形測量・基準杭・グリッド杭設定：㈲進藤測量設計事務所

空中写真撮影：㈱スカイサーベイ九州

テフラ分析・樹種同定・年代測定：㈱古環境研究所

石器実測：㈱九州文化財研究所

8. 本書で使用した略記号は以下の通りである。

S B・・・掘立柱建物 S C・・・土坑 S E・・・溝状遺構

S X・・・不明遺構 S I・・・礫群 S H・・・柱穴

9. 本書で使用した位置図は、日本道路公団作成の2万5千分の1地形図と同千分の1の図を使用した。
10. 本書で用いた標高は海拔絶対高であり、方位は座標北（G.N.）を基本とし、位置図等の一部に磁北（M.N.）を使用した。
11. 土器の色調及び土層については農林水産省農林水産技術會議事務局監修「新版 標準土色帖」に準拠した。
12. 出土遺物の石材については、本センター調査第二課調査第四係の赤崎広志が同定を行った。
13. 本書の執筆及び編集は永田が担当した。
14. 出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管してある。

## 凡　　例

1. 掘図は以下の縮尺を基本とする。

土器	1/3	陶磁器	1/3	石器	1/2、2/3
礫群	1/20、1/40	掘立柱建物	1/40、1/80	土坑	1/40
溝状遺構	1/100	不明遺構	1/40		

## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査の組織 .....	1
第Ⅱ章 遺跡の環境 .....	2
第Ⅲ章 調査の経過と方針 .....	4
第1節 確認調査の概要 .....	4
第2節 発掘調査の方法 .....	4
第3節 整理作業及び報告書作成 .....	7
第Ⅳ章 調査の記録 .....	8
第1節 調査の概要 .....	8
第2節 基本層序 .....	8
第3節 旧石器時代の遺構と遺物 .....	13
1 旧石器時代第Ⅰ文化層 .....	13
2 旧石器時代第Ⅱ文化層 .....	16
3 旧石器時代第Ⅲ文化層 .....	21
第4節 縄文時代早期の遺構と遺物 .....	37
第5節 K-Ah降灰以降の遺構 .....	40
1 概要 .....	40
2 C区北西部黒色土(Ⅱb)面検出の 遺構と遺物 .....	40
3 その他の遺構 .....	51
第6節 K-Ah降灰以降の出土遺物 .....	60
1 磚流れ込み堆積層出土遺物 .....	60
2 その他の出土遺物 .....	62
第7節 E・F区の調査 .....	76
第Ⅴ章 自然科学分析結果 .....	82
第VI章まとめ .....	85

## 挿図目次

第1図 遺跡分布図 .....	3
第2図 銀座第2遺跡周辺図 .....	5
第3図 確認調査トレンド配置図 .....	5
第4図 調査区 .....	10
第5図 調査区層別範囲図 .....	10
第6図 土層記録位置図 .....	11
第7図 B区東壁土層断面図 .....	11
第8図 C区西壁土層断面図 .....	11
第9図 C区南壁土層断面図 .....	12
第10図 D区東西ベルト土層断面図① .....	12
第11図 D区南北壁土層断面図 .....	12
第12図 D区東西ベルト土層断面図② .....	12
第13図 SI 1実測図及び石材・赤化度 .....	13
第14図 旧石器時代第Ⅰ文化層遺物・礫分布図 .....	14
第15図 旧石器時代第Ⅰ文化層石器実測図 .....	15
第16図 旧石器時代第Ⅱ文化層遺物・礫分布図 .....	17
第17図 SI 2実測図及び赤化度 .....	18
第18図 SI 3実測図及び赤化度 .....	18
第19図 旧石器時代第Ⅱ文化層石器実測図① .....	19
スクレイパー・細石核・剥片 .....	
第20図 旧石器時代第Ⅱ文化層石器実測図② .....	20
剥片 .....	
第21図 旧石器時代第Ⅲ文化層遺物分布図 .....	22
第22図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図① .....	23
ナイフ形石器・スクレイパー .....	
第23図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図② .....	24
台形石器・二次加工剥片 .....	
第24図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図③ .....	25
使用痕剥片 .....	
第25図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図④ .....	26
細石核・敲石 .....	
第26図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑤ .....	27
石核 .....	
第27図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑥ .....	28
接合資料 .....	
第28図 接合資料1分布図 .....	28
第29図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑦ .....	29
剥片① .....	

第30図	旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑧ 剥片②	30
第31図	旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑨ 剥片③	31
第32図	旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑩ 剥片④	32
第33図	旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑪ 剥片⑤	33
第34図	礫集中区赤化度	37
第35図	礫集中区接合資料赤化度	37
第36図	縄文時代早期遺物・礫分布図	38
第37図	縄文時代早期出土遺物実測図	39
第38図	K-Ah灰化以降の遺構分布図	41
第39図	C区北西部黒色土面遺構配置図	43
第40図	SB 1 実測図	44
第41図	SB 1 出土遺物実測図	44
第42図	SB 2 実測図	45
第43図	柱穴群出土遺物実測図①	45
第44図	柱穴群出土遺物実測図②	46
第45図	土坑実測図	46
第46図	SC 3 出土遺物実測図	46
第47図	SX 1 実測図	47
第48図	SX 1 出土遺物実測図	47
第49図	包含層出土遺物①	48
第50図	包含層出土遺物②	49
第51図	SB 3 実測図	51
第52図	土坑実測図①	54
	SC 4 ~ SC 9	
第53図	土坑実測図②	55
	SC 10 ~ SC 15	
第54図	土坑実測図③	56
	SC 16 ~ SC 21	
第55図	溝状遺構実測図①	57
	SE 1 ~ SE 2	
第56図	溝状遺構実測図②	58
	SE 3 ~ SE 4	
第57図	礫流れ込み堆積層範囲図	63
第58図	礫流れ込み堆積層断面図	63
第59図	弥生土器実測図① 豆①	64
第60図	弥生土器実測図② 豆②、壺、鉢	65
第61図	弥生土器③、土師器、須恵器、磁器実測 図	66
第62図	石器実測図① 砥石・石鏃①	67
第63図	石器実測図② 石鏃②・石包丁	68
	・二次加工剥片・スクレイバー・剥片	
第64図	陶磁器実測図	69
第65図	その他の出土遺物実測図①	70
第66図	その他の出土遺物実測図②	71
第67図	表土及び擾乱土出土石器実測図	76
第68図	E区旧石器層出土遺物分布図	78
第69図	E区旧石器層出土石器実測図	78
第70図	E区自然流路出土遺物実測図	79
第71図	E区出土遺物実測図	80
第72図	F区出土遺物実測図	80

## 目次

第1表	基本層序図	9
第2表	旧石器時代第Ⅰ文化層	15
	石材別石器組成表	
第3表	旧石器時代第Ⅰ文化層	15
	石器計測表	
第4表	旧石器時代第Ⅱ文化層	16
	石材別石器組成表	
第5表	旧石器時代第Ⅱ文化層	18
	石器計測表	
第6表	旧石器時代第Ⅲ文化層①	24
	石器計測表	
第7表	旧石器時代第Ⅲ文化層②	26
	石器計測表	
第8表	旧石器時代第Ⅲ文化層	33
	石材別石器組成表	
第9表	旧石器時代第Ⅲ文化層(Ⅶ層)	34
	石器計測表 剥片	
第10表	旧石器時代第Ⅲ文化層(Ⅷ層)	34
	石器計測表 剥片	
第11表	國化資料以外の石器計測表①	35
第12表	國化資料以外の石器計測表②	36
第13表	縄文土器観察表	39
第14表	縄文時代早期出土石器計測表	39

第15表	SB 1 出土遺物観察表	49	SC 5 完掘（東から）
第16表	柱穴群出土遺物観察表	49	SC 6 完掘（東から）
第17表	SH 7 出土石器計測表	49	SC 7 完掘（北東から）
第18表	SC 3 出土遺物観察表	50	SC 8 完掘（北東から）
第19表	SZ 1 出土遺物観察表	50	SC 9 完掘（東から）
第20表	包含層出土遺物観察表	50	SC 10（北から）
第21表	包含層出土石器計測表	50	SC 11 完掘（東から）
第22表	土坑・溝状遺構出土遺物観察表	59	図版3 ..... 89
第23表	弥生土器観察表①	72	SC 12 完掘（東から）
第24表	弥生土器観察表②	73	SC 13 完掘（東から）
第25表	土師器観察表	73	SC 14 完掘（南から）
第26表	須恵器観察表	73	SC 15 完掘（北から）
第27表	中世磁器観察表	73	SC 16 完掘（東から）
第28表	礫堆積層出土石器計測表	74	SC 17 完掘（南から）
第29表	礫堆積層出土遺物観察表	74	SC 18（東から）
第30表	その他の遺物観察表	75	SC 19 完掘（東から）
第31表	表土及び攢乱土出土石器計測表	76	図版4 ..... 90
第32表	E 区旧石器層出土石器計測表①	80	SC 20 完掘（東から）
第33表	E 区出土石器計測表① 図化資料外	81	SC 21 完掘（南西から）
第34表	E 区出土遺物（自然流路）観察表	81	SE 1・2 完掘（東から）
第35表	E 区出土石器計測表②	81	礫堆積層検出状況
第36表	E 区出土遺物（表土・耕作土）観察表	81	礫堆積層断面
第37表	E 区出土石器計測表③	81	礫堆積層出土遺物
第38表	F 区出土遺物観察表	81	E 区自然流路完掘（南から）
			E 区旧石器層遺物出土状況（西から）
			図版5 ..... 91
			旧石器第Ⅰ文化層出土遺物
			旧石器第Ⅱ文化層出土遺物①
			旧石器第Ⅱ文化層出土遺物②
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物①
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物②
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物③
			図版6 ..... 92
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物④
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物⑤
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物⑥
			図版7 ..... 93
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物⑦
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物⑧
			旧石器第Ⅲ文化層出土遺物⑨

## 図版目次

### 巻頭図版

遺跡遠景（北から）

図版 1 ..... 87

SI 1（北から）

縄文時代早期層礫集中区（西から）

C 区北西部黒色土遺構検出状況（南から）

SC 1 完掘（南東から）

SC 2（南東から）

SC 3（南東から）

SX 1（北から）

SB 3 完掘（西から）

図版 2 ..... 88

SC 4 完掘（南西から）

旧石器第Ⅲ文化層出土遺物⑩	
旧石器第Ⅲ文化層出土遺物⑪	
繩文時代早期層出土遺物	
図版 8	94
SB 1 出土遺物①②	
柱穴群出土遺物①②	
SC 3・SX 1 出土遺物	
C 区黒色土（Ⅱb）出土遺物①	
図版 9	95
C 区黒色土（Ⅱb）出土遺物②	
C 区黒色土（Ⅱb）出土遺物③	
C 区黒色土（Ⅱb）出土遺物（図化資料外）	
SC17・SE 1 出土遺物	
礫堆積層出土弥生土器①	
礫堆積層出土弥生土器②	
図版 10	96
礫堆積層出土	
弥生土器③④、土師器、須恵器、陶磁器、	
石器	
遺跡内出土陶磁器①	
図版 11	97
遺跡内出土陶磁器②	
表土及び攪乱土出土石器	
E 区旧石器時代層出土石器	
E 区自然流路・F区出土陶磁器	
E 区自然流路内出土遺物	
E 区表土出土遺物	

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道（延岡～清武間）は平成元年2月に基本計画がなされ、それに基づき、宮崎県教育委員会（以下県教委）では予想されるルート周辺の分布調査を行い多くの遺跡が確認されている。その中の一区間である都農～西都間にについては、平成9年12月に施行命令が出され、それに伴い平成10年度に県教委が路線上の分布調査を行い、多数の遺跡の存在が推定された。そこで県教委では、平成11年度から日本道路公団の委託を受け、建設工事で影響を受ける遺跡の発掘調査を実施することになった。平成11年度には3遺跡の確認調査を実施し、平成12年度より本調査を実施してきたところである。

銀座第2遺跡は、川南町と都農町を隔てる名貫川右岸の尾鈴山系の上面木山裾部に位置する。本調査に先立ち、平成14年5月2日から30日に確認調査を行った結果、B区は近くの蔵座村に尾鈴銀座2号ファームボンド建設工事を行う工事事務所が設置されたままだったので十分な調査ができなかつたが、A区やC区でクロボク面から近世遺構、D区で縄文時代早期層下の旧石器時代層から包含層が確認された。遺跡を半分に分断するように走る町道の西側では、K-Ah下に筋状の流水跡が確認され、また全体で地層の不統一が見られることから、縄文時代早期以前は、生活地として適していなかつたが、アカホヤ降灰後時代を追う毎に遺物や遺構が増加していることから、徐々に生活条件が整ってきた様子が伺える。確認調査後の協議で遺構や遺物の出土していない区域があり、調査面積を減らすことが検討されたが、その区域を挟む南北の両端で遺構が確認されていたために全面で本調査を実施することになった。本調査では、平成14年11月から着手されるボックス工事に伴い調査区を南北に分け、先に南半分（A・B区）を7月8日から10月21日にかけて調査した後、10月22日から15年3月28日にかけて北半分（C～F区）の調査を実施した。引き続き、平成15～16年度に整理作業を実施した。

## 第2節 調査の組織

調査の組織は次の通りである。

調査主体 宮崎県教育委員会

発掘調査：平成14年～平成15年

整理作業：平成15年～平成16年

埋蔵文化財センター

所長 米 良 弘 康（平成14～15年度）  
宮 園 淳 一（平成16～17年度）

副所長兼

総務課長 大 薗 和 博（平成14～16年度）

副所長兼

調査第二課長 岩 永 哲 夫（平成14～17年度）

総務課長 宮 越 尊（平成17年度）

総務係長 野 邊 文 博（平成14年度）

主幹兼

総務係長 石 川 恵 史（平成15～17年度）

調査第一課長 児 玉 章 則（平成14～15年度）  
山 富 雄（平成16～17年度）

調査第一課

調査第一係長 谷 口 武 範（平成14～16年度）

主幹兼

調査第一係長 長 津 宗 重（平成17年度）

主幹兼

調査第二係長 長 津 宗 重（平成14～16年度）

主幹兼

調査第二係長 菅 付 和 樹（平成17年度）

調査担当 主査 永 田 和 久（平成14～17年度）

主査 山 田 洋 一郎（平成14年度）

調査員 成 相 景 子（平成14年度）

調査指導

小畑弘己（熊本大学） 泉 拓良（京都大学）

本田道輝（鹿児島大学） 田崎博之（愛媛大学）

柳沢一男（宮崎大学）

広瀬和雄（国立歴史民俗博物館）

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 1 地理的環境

銀座第2遺跡は、尾鈴山塊に属する上面木山の麓に広がる台地からなる川南町の北西部に位置し、宮崎県児湯郡川南町大字川南字黒岩に所在する。川南町は、上面木山（1,040m）を中心とする山地とその東麓にかけて広がる段丘に二分することができる。段丘は、広い平坦面をを持っているが、一連の平坦面ではなく、数段に区分され、14面が識別できる。その中の一つに、唐瀬原面がある。本遺跡は、名貫川右岸の唐瀬原付近（海拔70～135m）に分布し、新田原Ⅱ面の上位に模式的に発達する扇状地面である。本遺跡は、唐瀬原面上の、山地と段丘の境にある標高120m付近、上面木山裾部にヤツデ状に派生する丘陵間の扇状地上に位置し、小規模な谷状地形を有する。調査地は南西から北東に向かって緩やかに下降する。調査区内には、礫の流れ込み跡や自然流路の跡が多く見られる。湧水や水の流れ込みやすい場所で、現在も調査区北側に小川が流れている。調査開始時には、段々に田畠が広がっていたが、上流の竹林などから、地形や自然環境を考慮した対策や開発が徐々になされてきたことが分かる。

### 2 歴史的環境

川南町の遺跡は、地理的環境でも前述した段丘上に多く分布する。

旧石器時代の発掘調査は、後牟田遺跡と霧島遺跡でのみ実施されているが、大野寅男氏の積極的な踏査によって白鷗遺跡（ナイフ形石器・細石核）、番野地C遺跡（尖頭器・細石核・剥片）、旭ヶ丘遺跡（尖頭器）、椎原遺跡（尖頭器・細石核・剥片）、大久保（通山）遺跡（細石核・ナイフ形石器）が表採されており、1982年の川南町の分布調査（以下分布調査）によって新たに谷ノ口遺跡（細石核）、住吉B遺跡（細石核）、卒手遺跡（尖頭器）、樋風呂遺跡（石刃）が追加された。遺跡は山地及び山麓に形成されている。

縄文時代の遺跡は、蔵庄村遺跡が平成11年～12年にかけて調査されており、縄文時代早期の集石遺構

が7基検出されている。分布調査により、60ヶ所の遺跡が確認された。主に早期の山形押型文・横円押型文土器が出土し、焼石や共伴土器によって集石遺構の存在が推定される遺跡もあり、その多くが山地及び山麓に形成されている。

弥生時代の遺跡は、弥生時代の中溝式土器に類似した土器が出土している蔵庄村遺跡があげられる。前期・中期の遺跡の発掘調査は行われていないが、分布調査によって下ノ原遺跡が確認されている。刻目突帯を有する下城式で、口線がLの字口線を呈する壺が出土している。遺跡は山麓の縁辺部に立地している。後期の遺跡では、昭和53年の中ノ迫A遺跡の調査によって、壺・甕・高环等の後期の弥生土器と共に方形石庖丁等が出土している。

歴史時代の遺跡（古代～近世）は確認されている数が少ない。当方は、古代には韓家卿の一部に比定され、韓人（渡来人）との関係を思わせる所であり、また去飛（都農町）の駅と児湯（木城町高城）の駅を結ぶ古代の官線道や高鍋藩の御手山等の直轄林の搬送経路も想定される。また、各時代の寺跡の位置も推定できると考えられる。

本遺跡は、旧石器時代のナイフ形石器や弥生時代終末期の弥生土器（甕・壺）等が出土しており、山地に近接した地域であることからも川南町の遺跡のこの期の特徴を有している。さらに近世の遺構や中世・近世の陶磁器類も多数出土しており、川南町の中世や近世の様相が少しでも解明できるのではないかと期待できる。

#### 参考文献

- 宮崎県「宮崎県史 資料編 考古Ⅰ」、1989
- 宮崎県「宮崎県史 通史編 原始・古代Ⅰ」1997
- 宮崎県「宮崎県史 通史編 近世Ⅰ」1997
- 宮崎県埋蔵文化財センター第53集「蔵庄村遺跡」2002
- 川南町教育委員会「川南町文化財調査報告書」1983



第1図 遺跡分布図 (S=1/50,000)

0

5km

1 銀座第2遺跡	2 銀座第1遺跡	3 銀座第3A遺跡
4 蔵座村遺跡	5 旭ヶ丘遺跡	6 椎原遺跡
7 谷ノ口遺跡	8 霧島遺跡	9 下ノ原遺跡
10 住吉B遺跡	11 谷ノ口遺跡	12 松ヶ迫遺跡
13 白壁遺跡	14 中ノ迫A遺跡	15 野鶴尾遺跡
16 卒手遺跡	17 後牟田遺跡	18 大久保遺跡
19 前ノ田村上第1遺跡	20 把言田遺跡	21 畑野地C遺跡
22 上ノ原遺跡	23 川南古墳群	24 渕牟田遺跡

### 第III章 調査の経過と方針

#### 第1節 確認調査の概要

##### 1 調査の方法と調査区の設定（第3図）

確認調査は、調査区の中央を走る町道を中心にして南北をA（本調査では、A・C区）・B（本調査ではB・D区）の2区に分割し、トレンチによる調査を実施した。2m×4mのトレンチを基本にしながら計35箇所設定した。本遺跡は、調査前一部を除き田畠であったため、人力で耕作土の厚さや下層の残存状況を6箇所で確認した。耕作土下にクロボク層が残存することが分かったため、表土を重機で掘削し、クロボク上面を精査した後、手鎌と両面鎌を交互に使いながら掘り下げた。調査区が南西から北東に向かって緩やかに下降し、段違いに田畠となっているため、全ての区画にトレンチが入るよう設定した。その際、A区においては、トレンチ毎の土層の関連が把握できるように南北につながる配置とした。第一章第1節で述べたとおり、一部（B区南半）については、重機によるトレンチを入れ、1日だけの確認調査となった。

##### 2 確認調査の結果

A区南半では、クロボク上面で2間×2間の掘立柱建物を1棟検出した。また、瓦を出土したピットを1基検出した。遺構や遺物の確認できなかったトレンチは、さらに層ごとに掘り下げてみたが、遺構・遺物ともに確認できなかった。中央部には、K-Ah下部に筋状の流水跡が含まれる区域が広がっていた。範囲を確認するため、当初設定したトレンチを拡張して流水跡と思われる面まで掘り下げてみたところ、その範囲においても堆積していることが確認できた（T1）。また、T2、T14、T18においても流水跡が確認された。砂質土で粘性があり、その厚さは1~2cm程度しかなく、網目状に広がっていた。50cm~70cmの流水跡の含まれる黒色層の下部を掘り下げると湧水したため、貯水穴を設定し掘り下げたところ、尾鉛酸性岩が厚く堆積する礫層に達した。北部は、K-Ahが存在しない区域があり、K-Ahが薄く堆積する西側では、半径50cmのピットを

3基検出した。

A区北半は、T27とT20を結ぶ線より北側には、K-Ahは確認できなかった。耕作土下のクロボク層から溝状と思われる遺構が3条、土坑状遺構が1基確認された（本調査の結果自然流路の一部と判明した）。また、古代の土師器や近世の陶磁器が多数出土した。T7からは掘立柱建物と思われる2柱穴を検出し、その1柱穴より寛永通寶が1点出土した。レベルのやや高い西部には、耕作土下に多量の礫が集中する面で弥生土器が広がる区域を確認したので、掘り下げを中止した。中央部にかけても、色調が微妙に異なる黒色土層が何層か重なっており、その下部に礫層を確認したため、掘り下げを中止した。黒色層では弥生時代後期の土器片や近世陶磁器が出土した。

B区北半（本調査ではD区）はクロボク層の下部にK-Ahが残存していたが、B区の中央部はK-Ahが確認できなかった。遺構・遺物ともにクロボク層からMBOまで確認できなかったが、T22、T35の褐色土層より剝片が4点出土した。

#### 3 調査範囲の決定

A区は、中央部で遺構・遺物共に確認されなかつたものの、南端で掘立柱建物が1棟、北西部で柱穴が並ぶ区域や土坑が検出された。B区北半からは、旧石器時代相当層より剝片が出土している。これらの状況から、未調査区のB区南半を含めて、全域での本調査が必要となった。なお、次年度に予定していた調査区（本調査では、E・F区）についても、本調査に入れて急速調査の必要が出てきたため、調査を実施することになった。

#### 第2節 発掘調査の方法

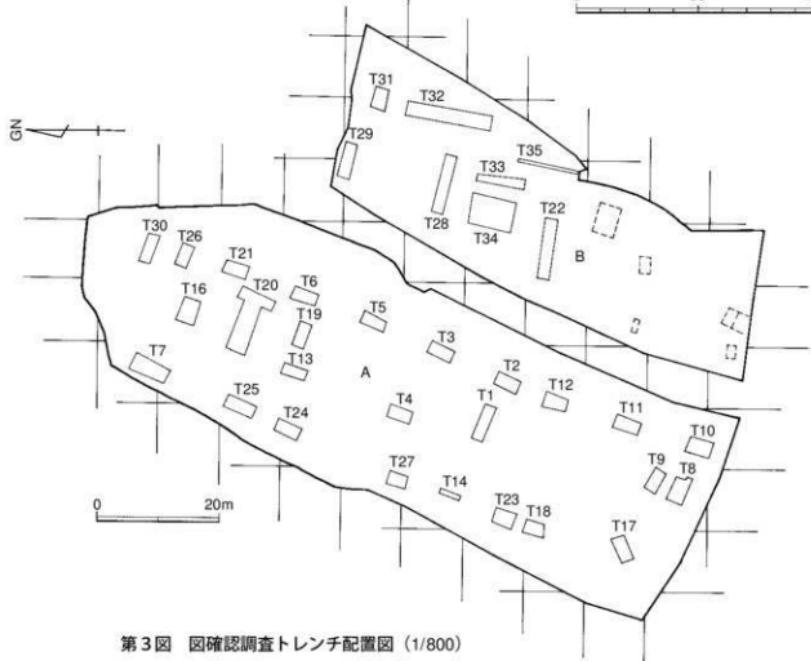
##### 1 調査の方針及び調査区の決定

調査区全面で層毎に掘り下げていく予定であったが、表土除去時の排土の搬出地がなく、反転することになったため町道を挟んで、西側の南半分をA区、北半分をC区、東側の南半分（確認調査の未実施区）をB区、北半分をD区と設定し、A・B区を先に調査することにした。A・B区の調査終了後、C・D



第2図 銀座第2遺跡周辺図 (1/2,000)

0 50 100m



第3図 図確認調査トレンチ配置図 (1/800)

区の表土や排土をA・B区の埋め戻し用とし、残土は予定路線の近接地に搬出した。

## 2 調査の手順

A区は、表土である耕作土を除去し、IV層から人力でK-Ah上面まで掘り下げ、MBO以下の層は、トレーナー調査を基本とし、遺構・遺物が確認できた際にその範囲を拡張することにした。

B区は確認調査で地層が確認できていない南半は表土である攪乱土のみ重機で除去し、土層を確認した後、北半の層とそろった段階で同時に調査を進めることにした。北半は表土のみを重機で除去した後、手鋤及び両面鎌等を使って掘り下げることにした。

C区は、K-Ahの残存する区域はK-Ah上面まで、K-Ahの残存していない区域は耕作土下まで重機で除去した。その後、手鋤と両面鎌を使って掘り下げた。

D区は遺構・遺物共に確認できなかったK-Ah上面まで重機で除去し、遺構や遺物が無いかどうかを確認した後、K-Ahを重機で除去した。MBOから手鋤を使って、幅1mのベルトを残して10mグリッド毎に層をそろえながら掘り下げていくことにした。

しかし、A・B区は9月から高速道路建設に伴う町道を確保するためのボックス工事を始めることが調査開始後判明した。また、B区の遺構や遺物の出土量が多かったため、A区のK-Ah以下の調査は中止することにした。C・D区の調査は、平成15年5月以降に予定されていた東九州自動車道建設に伴う用水路建設が調査中に決まったため、平成15年度に計画されていた区域の一部（E・F区）と合わせて調査することになった。さらに、C区及びD区のどちらかに用水路工事やボックス工事に伴う搬入・搬出路を設定することになったため、C区を平成15年2月末調査終了することになった。したがってC区のMBO以下の調査はできなかった。これらの状況から、基本的に2人ないし3人の調査員で2区（時には4区）をそれぞれ担当し、約20人の発掘作業員を作業量や作業内容によって配分し、並行して調査を進めた。また、早期に終了する必要のある区を優先して調査することになったため、当初の計画とは

異なる面も多く、週毎に調査の方針が変更になることもあった。

## 3 調査の内容・調査の進捗状況

A区では、確認調査時の掘立柱建物1棟に加えてK-Ah面で土坑を6基検出したが、遺物は何れからも出土しなかった。

B区は、南半部はV層まで削平されていたが、北半はIV層から良好に残存していた。IV層上面で土坑、ピットを、K-Ah上面で土坑や多数のピットを検出した。柱穴と思われるピットも存在したが、掘立柱建物として認定できるものがなく、ピットとして処理した。MBOでは、礫の集中する区域や14基の土坑を検出した。礫はまとまって確認される区域も見られたが、集石遺構のようなまとまりや掘り込みは見られなかった。埋土や遺物の状況によって、土坑は、近世以降の新しい時期のものと認定した。旧石器層では、遺構が検出されず、礫層上の褐色層で礫の流れ込み跡が確認されたため、調査を終了した。

C区では、K-Ah面で溝状遺構4本と土坑3基、掘立柱建物2棟、不明遺構1基が検出された。

D区では、IX層で礫群2基、XI層で礫群1基が検出された。

E・Fにおいては、遺構は確認されず、E区で旧石器時代層から石器が出土している。

平成15年2月1日（土）に隣接する3遺跡（銀座第1一次、銀座第1三次、銀座第2）合同で現地説明会を実施した。本遺跡では、調査区の立地や検出された遺構の状況を説明した後、D区の旧石器時代について土層や遺物の出土位置の説明を中心に行い、最後に出土した石器、弥生土器、陶磁器について説明した。見学者は65名だった。

#### 4 日誌抄

平成14年

- 7月8日 調査事務所及び駐車場整備（D区）。
- 7月8日 重機による表土除去。
- ～16日
- 7月23日 A区クロボク面で新たに掘立柱建物の2柱穴を確認。
- 7月30日 B区攪乱土層より、近世の陶磁器及び銭貨出土。
- 8月7日 B区クロボク上面でピット検出。
- 8月9日 B区クロボク上面で土坑6基検出。
- 8月12日 第1回空撮（A・B区クロボク面）。
- 8月19日 重機によるクロボク層除去。
- ～20日
- 8月21日 A区より土坑4基、B区より土坑8基検出。
- 8月26日 9月以降の調査工程について道路公団と協議。
- 9月4日 A区の埋め戻し及び排土置き場について道路公団と協議。
- 9月6日 第2回空撮（A・B区K-Ah上面）。
- 9月10日 B区K-Ah層除去。
- 9月11日 A区重機による埋め戻し及び整地。
- ～19日 B区縄文時代早期層調査開始。
- 9月12日 埋め戻し及び整地等について道路公団と協議。
- 9月13日
- 9月18日 起工式について道路公団と協議。
- 9月20日 E・F区確認調査開始。
- 9月24日 B区礫多数出土。
- 9月28日 都農～西都間起工式（本遺跡）。
- 10月2日 調査事務所等設置（A区）。
- 10月7日 B区縄文時代早期層調査終了、旧石器層調査開始。
- 10月15日 C・D区表土除去、B区埋め戻し。
- ～25日
- 11月6日 C区中央部より弥生土器集中区、北側より掘立柱建物検出。
- 11月21日 D区東側の調査開始。調査工程について、道路公団と協議。
- 11月26日 E区本調査開始。

- 12月2日 D区西側、K-Ah上面で土坑及び溝状遺構を検出したが、ビニールやガラス瓶等が出土、午後より重機で、K-Ahを除去。
- 12月3日 D区東側より散礫出土。
- 12月24日 F区調査開始。
- 平成15年
- 1月14日 C区より不明遺構検出。
- 1月20日 E・F区の調査終了。
- 2月1日 現地説明会、参加者65名。
- 2月18日 調査区の引き渡し時期について道路公団、事業者と協議。
- 2月26日 C区の調査終了及びC・E・F区の重機による埋め戻し。
- 3月3日 D区西側の縄文時代早期層より礫出土。
- 3月10日 縄文時代早期層の調査を終了し、旧石器層の調査開始。
- 3月17日 D区のAT面まで調査終了。
- 3月25日 D区MB2上面で礫群出土。
- 3月28日 調査終了。調査事務所等撤去。

#### 第3節 整理作業及び報告書作成

発掘調査終了後、平成15年7月から埋蔵文化財センターにて遺物（石器、土器、陶磁器、銭貨等）の整理、平成16年1月から東畦原整理作業所にて礫の整理作業を開始した。

平成15年

- 7月 遺物水洗い
- 8月 遺物（土器・陶磁器類）注記
- 8～10月 遺物（土器・陶磁器類）接合
- 10月～16年2月 遺物（土器・陶磁器類）実測

平成16年（1～4月は東畦原整理作業所）

- 1月 磨洗净
- 2月 磨器種分類・重量計測
- 3～4月 磨接合
- 7～10月 石器実測委託（実測・トレース）
- 9～10月 遺構・遺物（土器・陶磁器類）トレース

## IV章 調査の記録

### 第1節 調査の概要

遺構検出状況及び遺物の出土状況を、層・区毎にまとめてみると以下のような。

A～D区

II～IV層	掘立柱建物2棟、土坑21基、柱穴多数検出、弥生土器、陶磁器、銭貨、砥石等出土（A～C区）。
VI層	礫の集中区、縄文土器、石鐵や剥片出土（B・D区）。
VII層	石核、使用痕剥片、二次加工剥片、敲石、ナイフ形石器等出土、遺構なし（B・D区）。
VIII層	石核、細石核、台形石器、ナイフ形石器、二次加工剥片等出土、遺構なし（B・D区）。
IX層	礫群2基検出、石核、スクレイパー、剥片出土（D区）。
XI層	礫群1基検出、ナイフ形石器、剥片出土（D区）。

E区

VI層以上は削平され、耕作土直下にVII・VIII層が見える。遺物量はわずかで、旧石器時代の自然流路と同じレベルの近接した位置に出土していることから、流れ込みの可能性があり、遺物による時代比定に頼らざるを得ない。

F区

IV層から残存していたが、C区の礫の流れ込みの一部がF区のK-Ahを削平するように流れ込んでいる。表土～IV層では、陶磁器が数点含まれていたが、VI層以下では遺物が出土しなかった。

以上のような結果から本遺跡では、以下のような文化層を設定した。

#### 1. 文化層の設定

本遺跡では、後期旧石器時代を3文化層に分け、縄文時代早期層及びK-Ah降灰後についてそれぞれまとめた。

#### 旧石器時代第Ⅰ文化層（XI層）

MB2である。B区ではXI層の確認ができずD区のみで調査している。

#### 旧石器時代第Ⅱ文化層（IX層）

礫群2基の他、散礫が見られる。D区東端に集中している。

#### 旧石器時代第Ⅲ文化層（VII～VIII層）

以下の理由により、1つの文化層とした。

① VII層は、自然科学分析の結果、縄文時代草創期に相当するが、土器は出土していない。

② B区では、VII・VIII層間に接合する遺物が存在する。

③ 旧石器第Ⅰ・Ⅱ文化層や縄文時代早期層に出土している尾鈴酸性岩製の礫が確認されていない。

#### 縄文時代早期の文化層（VI層）

A・C区は調査しておらず、D区では遺構が検出されていない。

#### K-Ah降灰以降

C区の北西部の黒色土（IIb）面で遺構や遺物が確認され、近世の特徴を有しているため、K-Ah降灰後の他の遺構や遺物とは別に報告する。

## 第2節 基本層序

銀座第2遺跡は、扇状地特有の礫の流れ込みや湧水による土砂の流入や流出により不安定な堆積状況を呈し、上から下まで基本的な層序を形成する場所が少なく、場所によって堆積状況が異なる。

#### 第Ⅰ層

畑の耕作土及び客土。攪乱土を含む。

#### 第Ⅱa層

黒褐色土に、暗褐色粒子を含む。ややキメが粗く、粘性は低い。現在の畑以前の耕作土と思われる。

#### 第Ⅱb層

黒色粘質土で、C区の北西部のみに堆積している。キメが粗く粘性は低いが、Ⅱa層よりも高い。ブロックや礫を全く含まない。陶磁器片や銭貨等が主に出土しており、若干土師器などの古い遺物も出土している。C区の掘立柱建物の柱穴や土坑は、この層より掘り込まれている。

#### 第Ⅲ層

暗褐色土。粒が細かくしまっている。主にB区で確認されている。遺物等は出土していない。

## 第IV層

黒褐色土。いわゆるクロボク土で、粒が細かくしまっている。場所によって若干異なり、黒みが弱く、キメの粗い区域も見られる。

## 第V層

K-Ah土。良好な一次堆積であるが、調査区中央部の自然流路が流れる区域は流出しており、残存していない。

## 第VI層

クロニガ（MBO）。黒褐色を呈す。キメが細かい。粘性が強く、よくしまっている。

## 第VII層

黒褐色土。細かい粒子で、粘性が強い。放射性炭素年代測定の結果、B.P10、 $810 \pm 70$ 年であり、後期旧石器時代から縄文時代草創期に相当する。

## 第VIII層

黄褐色土。粘性の強いローム層である。放射性年代測定の結果、B.P12、 $150 \pm 70$ 年であり、後期旧石器時代に相当する。

## 第IX層

にぶい黄燈色土。細かい粒子で、粘性が強い。

## 第X層

にぶい暗褐色土。IX層よりもやや軟性である。東九州基本土層のAT層。

## 第XI層

にぶい黄燈色土。細かい粒子で、粘性が強い。固くしまっており、1~2mm大の白色粒を少量含む。東九州基本土層のMB 2に相当する。

## 第XII層

暗褐色土～黒褐色土。やや粘性あり。XI層のMB 2層に相当すると思われるが、XI層よりも暗い。E区でのみ確認された。

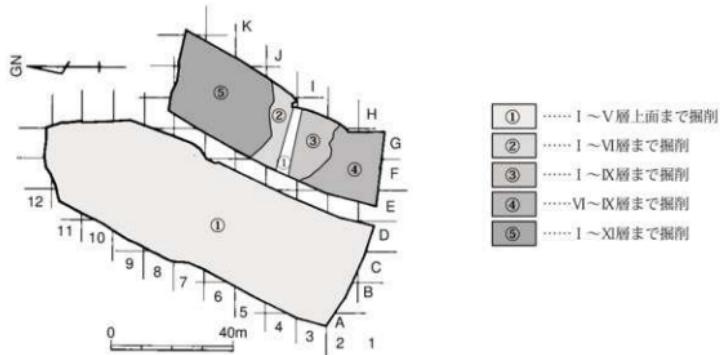
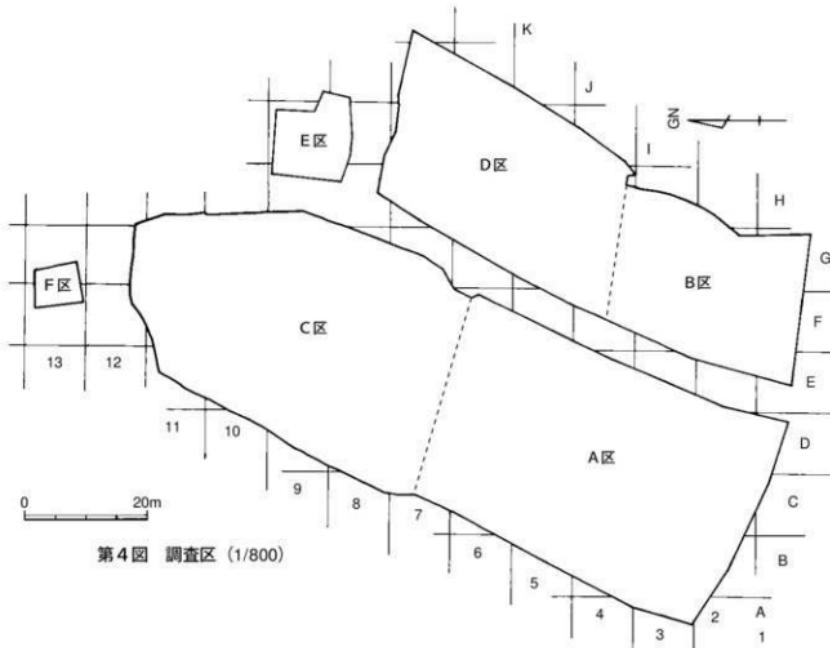
## 第XIII層

にぶい黄褐色土。橙色の粒子を少量含む。粘性あり。E区でのみ確認された。

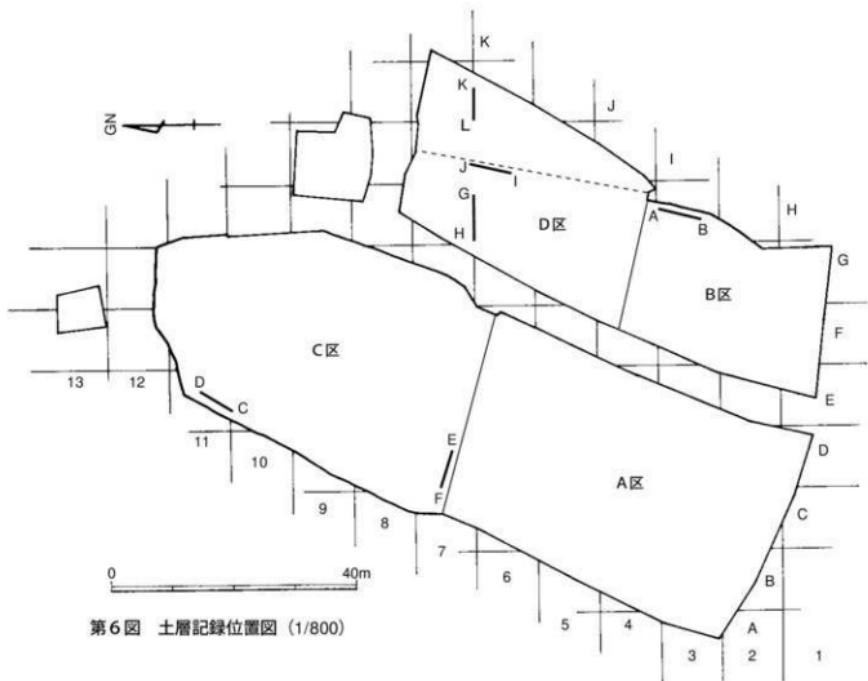
第1表 基本層序図

層	銀座第2遺跡土層	東九州基本土層
I	表土及び耕作土	表土
II a	古い耕作土 (Hue7.5YR2/2)	クロボク（黒色土） Kr-Th（高原スコリア） <u>AD1235</u>
II b	黒色土 (Hue10YR2/1)	
III	暗褐色土	
IV	クロボク (Hue10YR2/1)	クロボク
V	K-Ah	K-Ah（鬼界アカホヤ） <u>6.5Ka</u>
VI	MBO (Hue10YR3/2)	MBO（黒褐色ローム）
VII	黒褐色土 (Hue10YR2/2)	ML 1（暗褐色ローム）
VIII	黄褐色土 (Hue10YR5/8)	桜島薩摩 <u>11Ka</u> 褐色ローム
IX	にぶい黄燈色土 (Hue10YR7/3)	Kr-Kb ML 2
X	にぶい暗褐色土 (Hhu10YR3/1)	AT（姶良Tn） <u>24.5Ka</u>
XI	にぶい黄燈色土 (Hue10YR7/4)	MB 2（暗褐色ローム） 姶良深港 <u>26.5Ka</u>
XII	暗褐色～黒褐色土 (Hue10YR3/4~3/2)	姶良大塚 <u>30Ka</u> MB 3（暗褐色ローム）
XIII	にぶい黄褐色土 (Hue10YR5/4)	ML 3（褐色ローム） 赤褐色ローム Kr-Aw（アワオコシ） <u>41Ka</u> ML 4（明褐色ローム） Kr-Iw（イワオコシ） <u>50Ka</u>

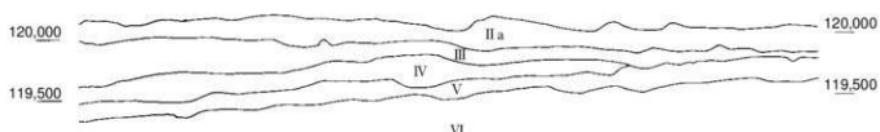
※下線付き斜体字は、年代を表す。1Kaは約1,000年前。年代は、奥野充・福島大輔・小林哲夫（「南九州のテフロクリノロジー」『人類史研究』12 2000）による。



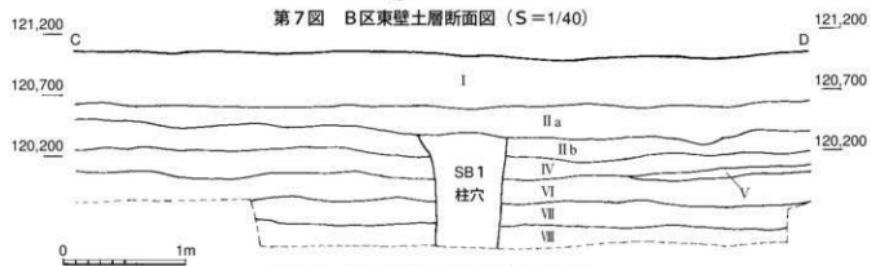
第5図 調査区層別範囲図 (1/1,600)



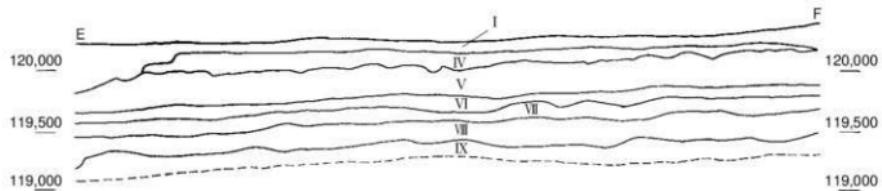
第6図 土層記録位置図 (1/800)



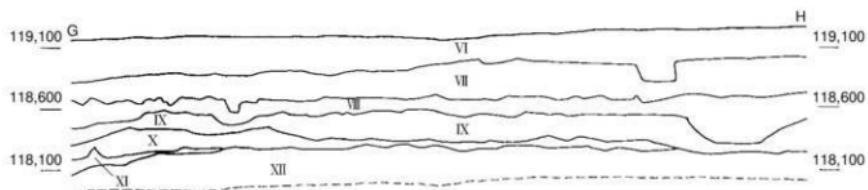
第7図 B区東壁土層断面図 ( $S = 1/40$ )



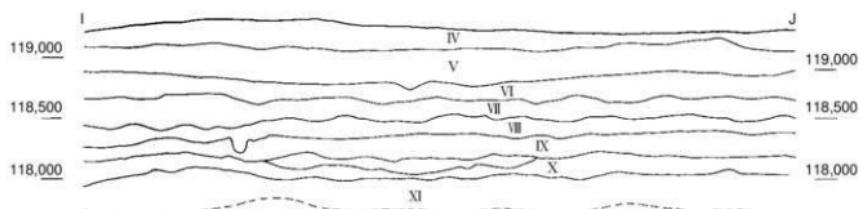
第8図 C区西壁土層断面図 ( $S = 1/40$ )



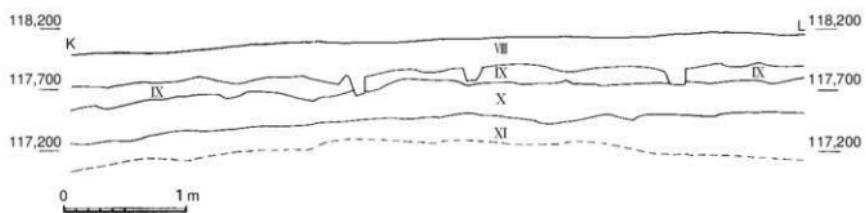
第9図 C区南壁土層断面図 ( $S = 1/40$ )



第10図 D区東西ベルト土層断面図① ( $S = 1/40$ )



第11図 D区南北壁土層断面図 ( $S = 1/40$ )



第12図 D区東西ベルト土層断面図② ( $S = 1/40$ )

### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

#### 1 旧石器時代第I文化層—MB2—（第14図）

第I文化層では、全体の約16%を掘り、礫群1基が検出されている。出土総石器数は8点である。

##### (1) 遺構

###### SI1(第13図)

SI1は、H6グリッド周辺のD区北側に位置し、XI層で検出された。3.2m×3.5mの範囲内に10点の尾鈴酸性岩製の礫で構成されている。接合した礫が2点あったが、炭化物等は確認されておらず、火熱による赤化度が低く煤の付着も確認できなかった。

##### (2) 遺物

第I文化層より出土した遺物は、包含層より頁岩製2点、流紋岩製6点の計8点である。ナイフ形石器1点、剥片7点で、D区の北部で確認され、その内剥片6点は、SI1近辺で出土している。5点焼化した。

#### ナイフ形石器（第15図1）

D区北側、H6グリッドの西側で出土した。片縁調整のナイフ形石器と思われるが、一部調整がなされておらず、剥片の基部を利用している点が特徴的である。先端部が折れている。

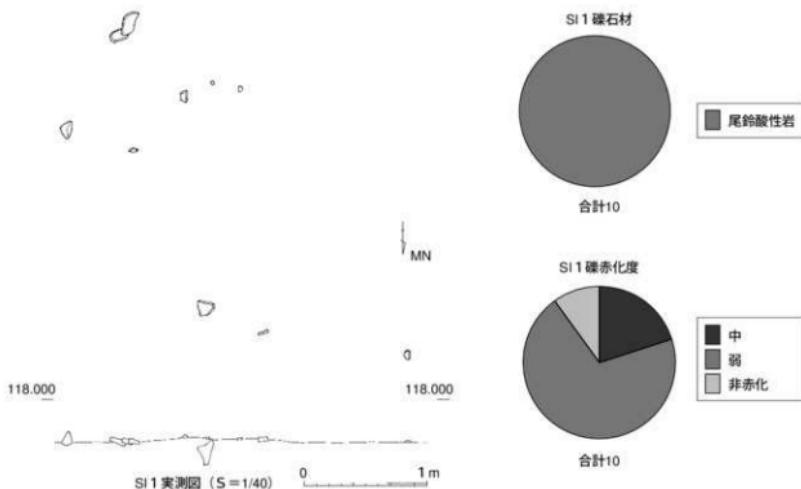
#### 剥片（第15図2～5）

いずれも、流紋岩製である。2は、D区西側で出土した。剥片を打面転移しながら剥出した後に残された石核から剥出された剥片であると考えられる。

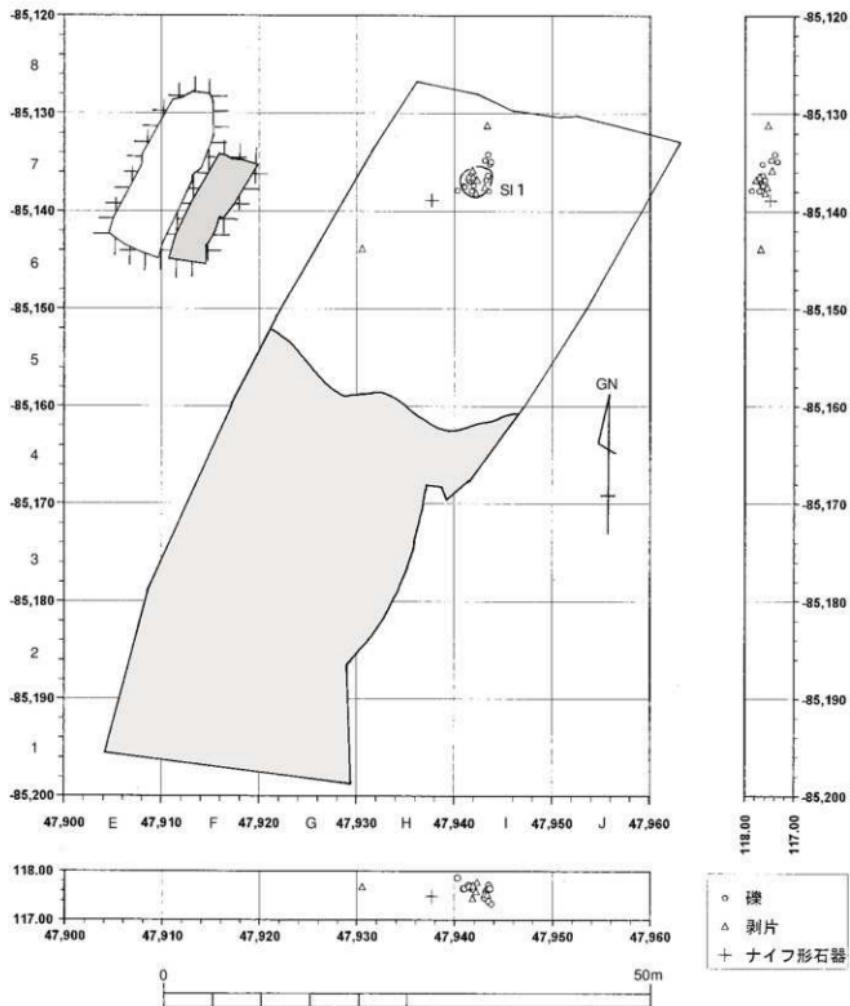
3～5はいずれも小型で、4は半折れしており、5は白っぽい。

##### (3) 小結

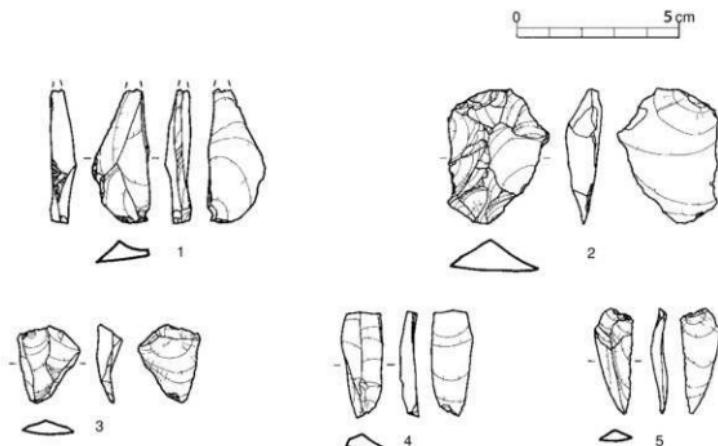
礫は、すべて尾鈴酸性岩であり、出土量も少ない。礫の赤化度が低く、礫群内外に炭化物や石器も出土していないが、一部に礫が集中している点で人意的な可能性がある。



第13図 SI1実測図及び石材・赤化度



第14図 旧石器時代第Ⅰ文化層 遺物・礫分布図 ( $S=1/500$ )



第15図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図 (S=2/3)

石 器	ナイフ形石器	台形石器	尖頭器	スクレイバー	2次加工剥片	使用痕剥片	剥片	碎片	石核	細石核	敲石	石鏃	計
頁岩							2						2
流紋岩	1						5						6
計	1						7						8

第2表 旧石器時代第Ⅰ文化層 石材別石器組成表

遺物番号	区	グリッド	層位	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル(m)
1	D	H 7	XI	ナイフ形石器	流紋岩	(4.10)	1.75	0.80	4.1	-85138.92	47937.72	117.479
2	D	H 6	XI	剥片	流紋岩	4.15	3.10	1.10	11.7	-85143.86	47930.55	117.681
3	D	I 7	XI	剥片	流紋岩	2.40	1.90	0.80	2.3	-85135.82	47941.87	117.450
4	D	I 7	XI	剥片	流紋岩	3.25	1.30	0.55	2.0	-85137.48	47941.88	117.549
5	D	I 7	XI	剥片	流紋岩	3.20	1.20	0.55	1.2	-85131.18	47943.37	117.527
	D	I 7	XI	剥片	頁岩	1.82	1.31	0.76	1.1	-85138.11	47942.19	117.590
	D	I 7	XI	剥片	頁岩	1.31	0.86	0.39	0.4	-85136.75	47942.32	117.776
	D	I 7	XI	剥片	流紋岩	2.07	1.31	0.67	1.8	-85136.46	47941.88	117.715

第3表 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器計測表

## 2 旧石器時代第II文化層—ML2相当層—

第II文化層では、IX層より礫群2基が検出されている。出土総石器数は、33点である。

### (1) 遺構

#### SI2 (第17図)

SI2は、J 6 グリッドの北西側に位置し、IX層中で検出した。径約0.6m×0.7m範囲内に24点の尾鈴酸性岩製の礫で構成されている。遺物は含まれていない。炭化物等は確認されていないが、礫2点に煤の付着が見られ、1点接合した。礫の赤化度は低く、赤化していない礫も含まれた。

#### SI3 (第18図)

SI3は、J 5 グリッドの中心より南側に位置し、径0.6m×1.1mの範囲内に尾鈴酸性岩製の礫15点で構成されている。遺物は含まれていない。炭化物等は出土していないが、礫2点に煤の付着が見られた。1点が接合した。赤化度は低く、中～弱程度であった。

### (2) 遺物

第II文化層より出土した遺物は33点である。スクレイバー1点、細石核1点の他はすべて剥片である。D区の北部には剥片が集中している。また北東部の礫を出土した範囲からも剥片15点とスクレイバー、石核をそれぞれ1点ずつ出土している。13点を図化した。

#### スクレイバー (第19図6)

泥岩がホルンフェルス化したと考えられる。横長の原石の両端を切断し、幅の広い方に、刃部を形成している。まず裏面の刃部を一回だけ剥いだ後、表面を大まかに剥離している。そのため、表裏面とも上部は自然面が残っている。

#### 石核 (第19図7)

やや白みがかった流紋岩製である。上側面の作業

面を90度転移し、打面として剥片剥離作業を行っている角錐状の残核である。剥離した剥片は、確認できていない。

#### 剥片 (第19図8～11、第20図12～18)

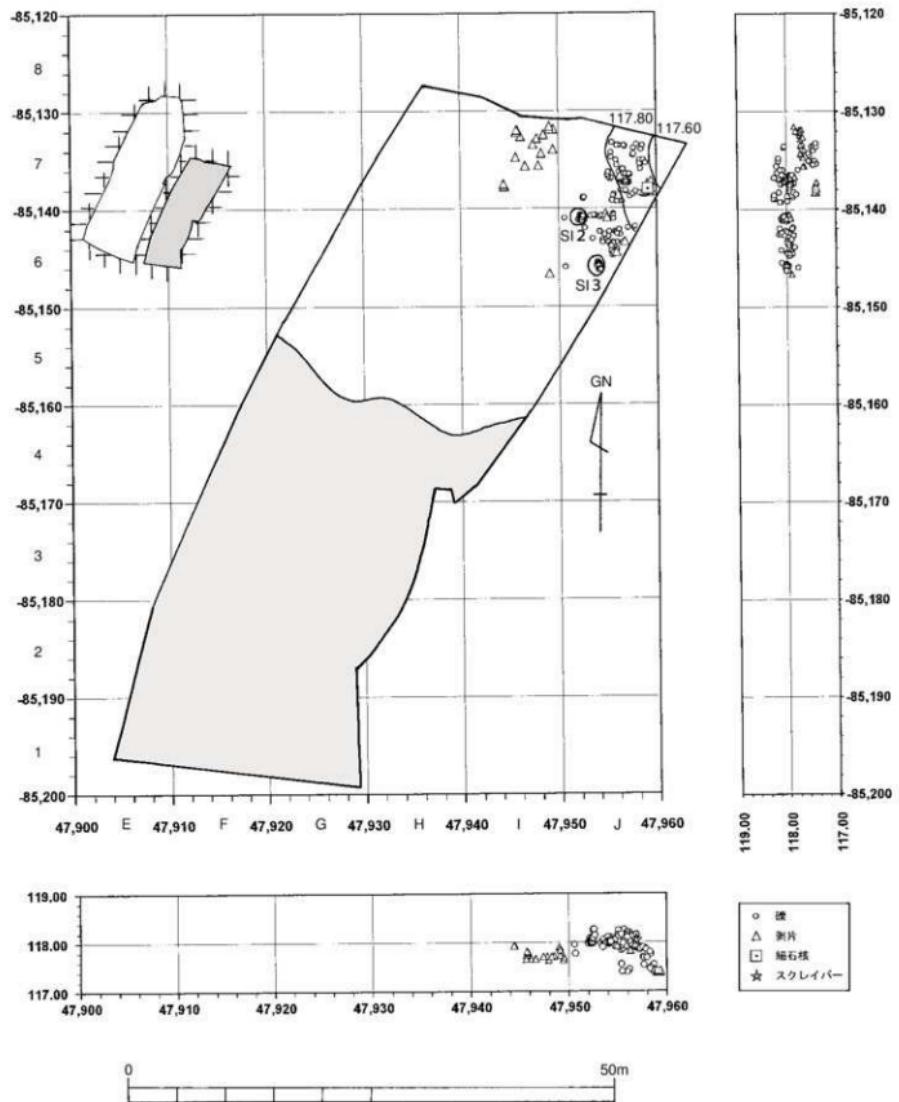
剥片はホルンフェルス製9点、流紋岩製6点、黒曜石製12点、尾鈴酸性岩製2点、チャートと石英が各1点の計31点で11点図化した。8は、ホルンフェルス製である。9は尾鈴酸性岩製である。小型であるが、丁寧に細かく調整した後に剥出してある。10はホルンフェルス製で、上側面と左側面を剥出された後に正面上面から敲打されたと考えられる。11・12は、流紋岩製である。出土地点は約9m離れているが、2点とも白濁した部分が見られ、材質も酷似していることから同一母岩の可能性が考えられる。13・14は、共にホルンフェルス製で、13は風化している。15・17は流紋岩製、16は尾鈴酸性岩製の縦長剥片である。16は左右側縁に、17は茎部両側に調整痕が見られる。18はホルンフェルス製で、風化している。正面上面に剥離のための敲打痕が見られる。

#### (3) 小結

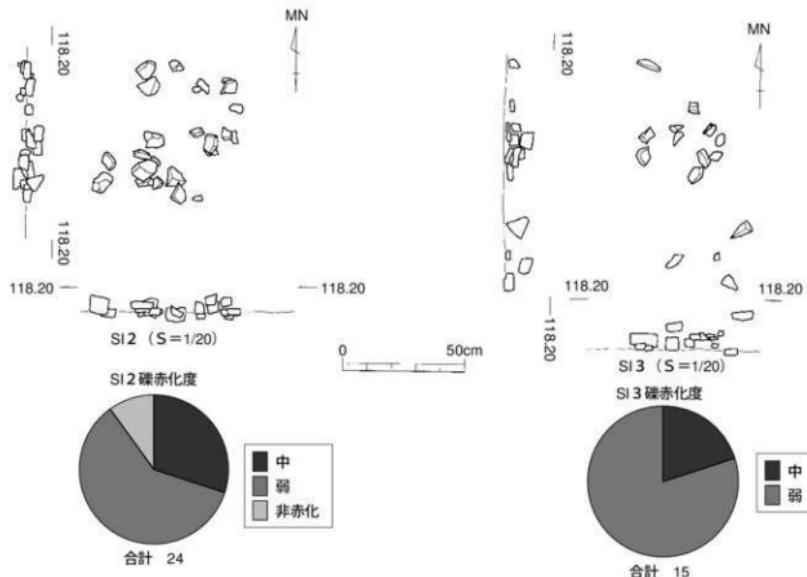
旧石器第II文化層は、確認調査の結果や調査中の調査方針の変更のためA・C区を調査していない。B区においても礫の流れ込み跡やそれに伴う流水で流出している区域もあり、全体像は把握しにくい。IX層出土の礫は、すべて尾鈴酸性岩製で赤化度も低く、接合資料も少ないとから生活痕の可能性は低いが、SI2・3のように礫がまとまっている点や、周囲に分布する散礫や散礫の範囲内に同レベルで遺物が出土している点を考慮すると一時的に利用された可能性も否定できない。本遺跡の扇状地形の中では、丘陵から最も離れた低い位置に遺構や遺物が確認されていることから、比較的生活の場として適した場所であったのかもしれない。

石 器	ナイフ 形石器	台形 石器	尖頭器	スクレ イバー	2次加 工剥片	使用痕 剥片	剥片	碎片	石核	細石核	敲石	消器	計
ホルンフェルス				1			9						10
流紋岩							6		1				7
チャート							1						1
黒曜石							12						12
尾鈴酸性岩							2						2
石英							1						1
計				1			31		1				33

第4表 旧石器時代第II文化層 石材別石器組成表



第16図 旧石器時代第II文化層 遺物・礫分布図

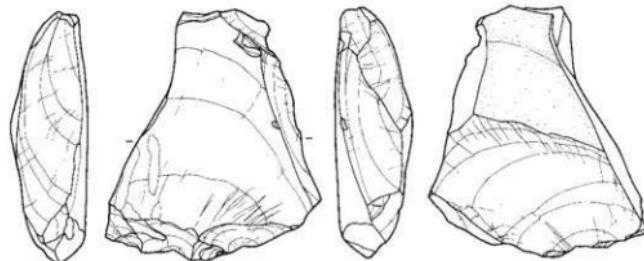


第17図 SI 2 実測図及び赤化度

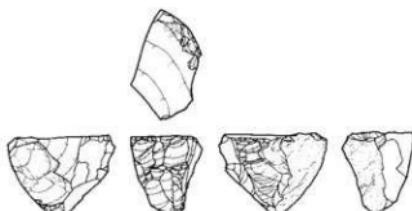
第18図 SI 3 実測図及び赤化度

番号	区	グリッド	層位	器種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X 座標	国土座標 Y 座標	レベル (m)
6	D	J 6	IX	スクレイパー	流紋岩	7.70	6.70	2.35	119.0	-85137.20	47956.90	118.050
7	D	J 6	IX	石核	流紋岩	2.50	2.20	3.30	15.3	-85138.06	47959.17	117.405
8	D	J 6	IX	剥片	ホルンフェルス	3.15	2.50	1.10	7.2	-85132.01	47945.75	117.815
9	D	J 6	IX	剥片	尾鈴酸性岩	3.30	1.90	1.10	4.4	-85138.42	47958.92	117.380
10	D	I 6	IX	剥片	ホルンフェルス	5.05	3.50	1.10	16.3	-85132.07	47945.83	117.789
11	D	J 5	IX	剥片	流紋岩	4.00	2.95	1.40	22.8	-85144.51	47955.88	117.944
12	D	J 5	IX	剥片	流紋岩	2.55	3.90	1.15	7.8	-85143.45	47956.74	117.961
13	D	I 6	IX	剥片	ホルンフェルス	3.50	4.50	0.95	11.7	-85134.73	47945.67	117.663
14	D	J 5	IX	剥片	ホルンフェルス	7.80	3.20	2.15	49.4	-85140.93	47954.93	117.925
15	D	I 6	IX	剥片	流紋岩	9.80	3.60	1.50	51.3	-85137.52	47944.38	117.927
16	D	I 5	IX	剥片	尾鈴酸性岩	10.10	3.85	1.75	44.9	-85146.63	47949.07	117.897
17	D	I 6	IX	剥片	流紋岩	7.10	1.50	0.70	6.3	-85137.75	47944.43	117.926
18	D	I 6	IX	剥片	ホルンフェルス	6.35	6.70	2.80	87.6	-85137.76	47944.49	117.926
D	J 6	IX	剥片	流紋岩	1.95	1.29	0.43	1.2	-85138.35	47959.36	117.218	
D	J 6	IX	剥片	流紋岩	1.70	2.40	0.40	1.5	-85137.25	47959.45	117.292	
D	I 6	IX	剥片	ホルンフェルス	3.35	2.39	0.72	5.2	-85131.61	47949.09	117.844	
D	I 6	IX	剥片	ホルンフェルス	4.97	3.00	2.74	34.9	-85132.64	47946.16	117.665	
D	I 7	IX	剥片	ホルンフェルス	3.43	1.99	0.68	3.2	-85135.63	47946.61	117.665	
D	I 8	IX	剥片	ホルンフェルス	4.61	3.00	1.47	17.9	-85134.36	47948.25	117.710	
D	J 8	IX	剥片	チャート	1.56	0.76	0.55	0.4	-85138.00	47959.41	117.285	
D	I 6	IX	剥片	石英	1.21	0.85	0.47	0.7	-85132.21	47945.68	117.740	
D	J 6	IX	剥片	黒曜石(優木神御)	2.95	1.56	0.74	2.1	-85136.72	47956.29	117.835	
D	J 5	IX	剥片	黒曜石(優木神御)	1.48	0.91	0.60	0.4	-85140.56	47954.79	117.944	
D	J 6	IX	剥片	黒曜石(優木神御)	2.06	1.27	0.51	1.0	-85137.85	47958.97	117.407	
D	J 6	IX	剥片	黒曜石(優木神御)	2.23	1.78	0.70	2.2	-85137.50	47959.09	117.215	
D	I 6	IX	剥片	黒曜石(優木神御)	1.66	1.15	0.72	1.5	-85135.61	47947.97	117.639	
D	I 6	IX	剥片	黒曜石(優木神御)	2.25	1.44	0.57	1.0	-85131.92	47949.48	117.689	
D	I 6	IX	剥片	黒曜石(優木神御)	2.31	1.57	1.28	3.2	-85132.46	47948.48	117.719	
D	I 6	IX	剥片	黒曜石(上牛鼻)	2.20	1.58	0.50	1.2	-85133.96	47949.46	117.636	
D	I 6	IX	剥片	黒曜石(上牛鼻)	1.83	1.52	0.54	0.9	-85131.89	47949.12	117.733	
D	I 6	IX	剥片	黒曜石(上牛鼻)	1.91	1.78	0.80	1.8	-85132.87	47947.78	117.710	
D	I 6	IX	剥片	黒曜石(上牛鼻)	1.59	1.42	1.14	1.1	-85133.45	47947.41	117.710	
D	J 7	IX	剥片	黒曜石(腰岳)	2.08	1.07	0.61	1.3	-85138.30	47958.76	117.330	

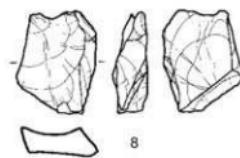
第5表 旧石器時代第II文化層 石器計測表



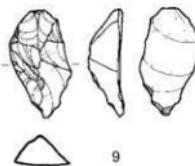
6



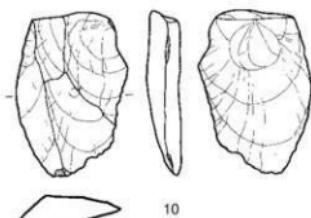
7



8

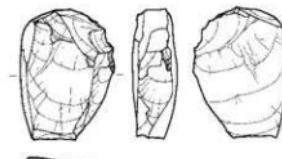


9



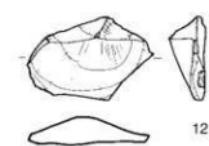
10

0 5cm

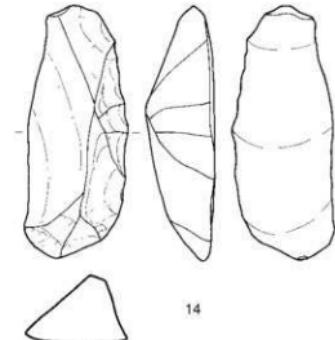


11

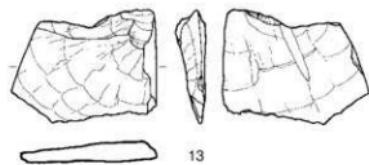
第19図 旧石器時代第II文化層石器実測図① スクレイバー・細石核・剥片 ( $S=2/3$ )



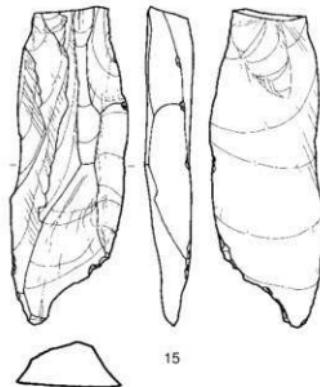
12



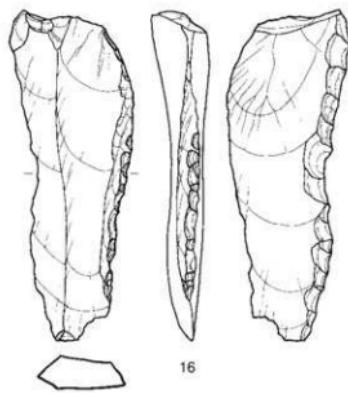
14



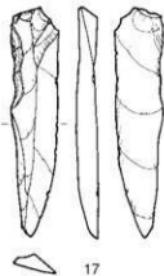
13



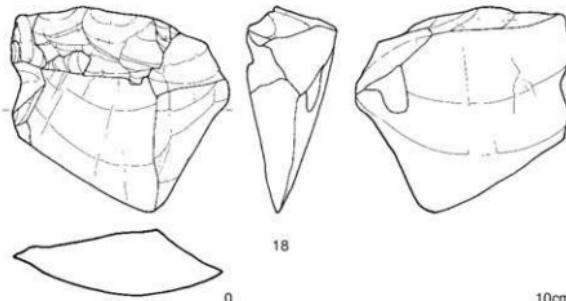
15



16



17



18



第20図 旧石器時代第Ⅱ文化層石器実測図② 剥片 (S=2/3)

### 3 旧石器時代第Ⅲ文化層—Kr.Kb～ML 1相当層—

第Ⅲ文化層では、遺構は検出されていないが、遺物が185点出土している。B区で93%出土しており、南半に集中している。D区では、全体の約7%が出土しているが、北半に限定され、北東部の限られた地域にやや多く出土している。遺物の82点を図化した。

#### (1) 遺物

##### ナイフ形石器（第22図19～24）

ナイフ形石器はV・VI層で5点出土しており、すべて流紋岩製である。完形が2点あるが、3点は半折れしている。19は半折れしているため刃部がないが、基部の両側縁が調整されている。20は、先端が欠損しているが、刃部に使用痕が見られる。21は、完形で基部調整加工のナイフ形石器である。22は完形である。基部調整加工ナイフ形石器で、先端の一部が調整されるタイプと思われる。23は先端部のみ出土しており、刃部に刃こぼれしているのが分かる程度である。また、24は縄文時代早期層からの出土である。一側縁加工で、背部の加工も見られない。

##### スクレイパー（第22図25～27）

25は、狭基の弧刃形と思われる。自然面を残したまま調整されている。26は直刃形で、両側縁に使用痕が見られる。基部には数回の敲打痕が見られる。剥片を剥離する際に剥片を厚く剥離するための技法と思われる。27は、剥片の片縁に2箇所大きく剥離した後に、細かい調整が行われている。左片縁の中央部付近の大きめの剥離は、一時に材料を固定して切断する際に効果的であったと思われる。3点とも流紋岩製である。

##### 台形石器（第23図28）

三角形に近いタイプで、縦長剥片の両端を切断して両側縁に細かい調整を施している。

##### 二次加工剥片（第23図29～34）

29～32は流紋岩製である。29は、自然面を残した剥片の薄く剥離している部分全体に細かい調整が行われている。30は、剥離した剥片の先端部に調整が見られる。32は、剥片の左側縁や基部に細かい剥離を行って調整している。33は、赤チャート製である。右側縁が加工されている。34は砂岩製であり、剥片

の両側に細かい剥離がなされている。本来は縦長剥片であったが、加工時か使用時に折れた可能性もあるが、風化しているため断定できない。

##### 使用痕剥片（第24図35～39）

5点とも流紋岩製である。35は白みがかった流紋岩で、右側縁及び端部に使用痕が認められる。36は赤褐色の流紋岩で左側縁全体に使用痕が見られる。37は、両側縁から先端部まで全体に使用痕が認められる。38・39は、やや黒みがかった流紋岩である。38は右側縁に使用痕が見られるが、特に先端部の内湾する部分の使用痕が明確である。39は、左側縁の基部に使用痕が認められる。

##### 敲石（第25図40）

尾鈴酸性岩製である。両端に潰痕をもつが、裏面にも僅かであるが窪みがあり、使用した痕跡が見られる。

##### 細石核（第25図41～44）

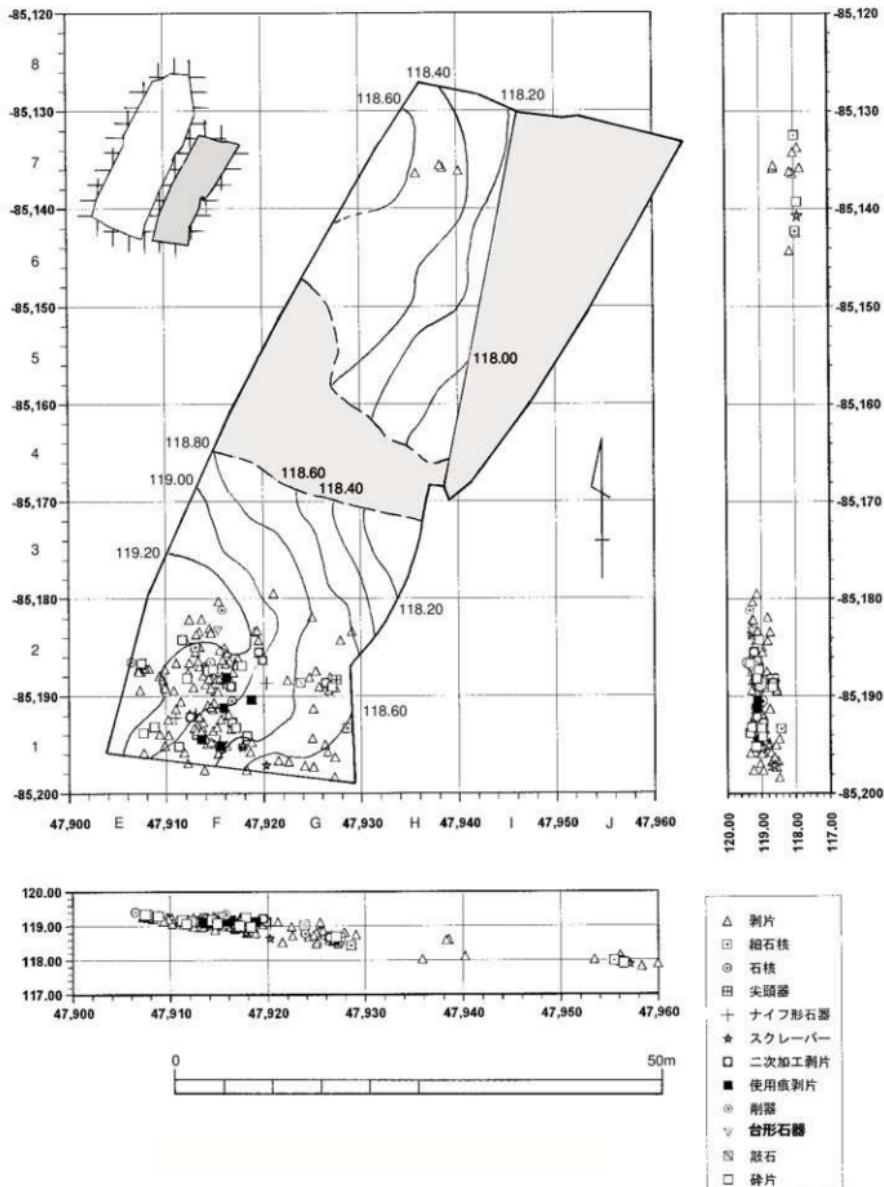
41は、黒曜石製である。桑ノ木津留産と思われる。正面上面を打面にして回転させながら剥離してあるが、裏面は斜め方向の剥離も見られる。42・43は黒みがかった流紋岩製である。42は、正面右側は縦方向に左側は斜め方向に剥離している。43は、正面と底面に剥離痕がある。正面の剥離痕は、複数方向からの剥離が確認できる。44は白みがかった流紋岩製で、細石刃の剥離が石核の周囲をめぐるプランクと思われる。

##### 石核（第26図45～47）

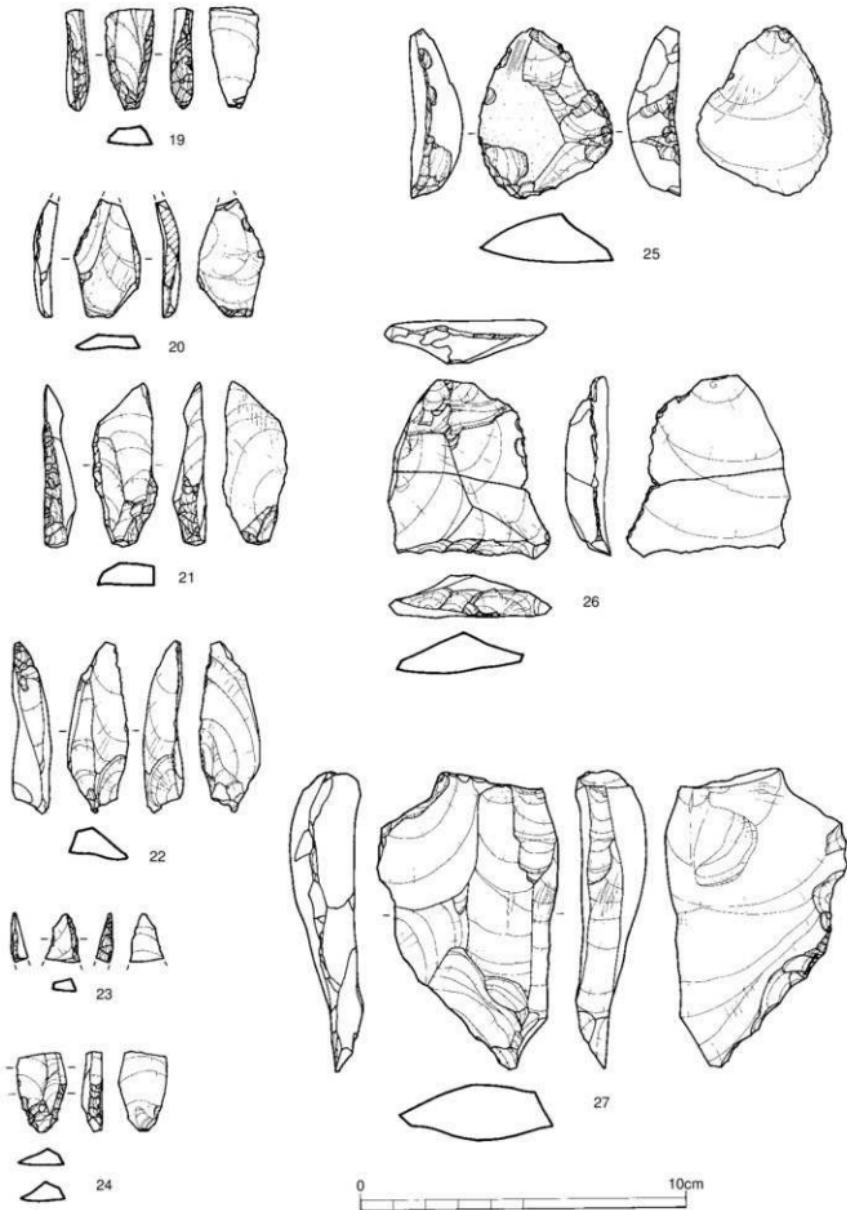
45は、チャート製の石核である。原石から、上面の単剥離面打面を設定した後、上面を打面とし、回転させながら剥離している。46・47は、流紋岩製である。46は、初め左側面を打面として剥離させ、次に剥離された上面を打面として使用し、剥片の剥離が石核の周囲をめぐる円錐状を呈している。

##### 接合資料1（第27図48～51）

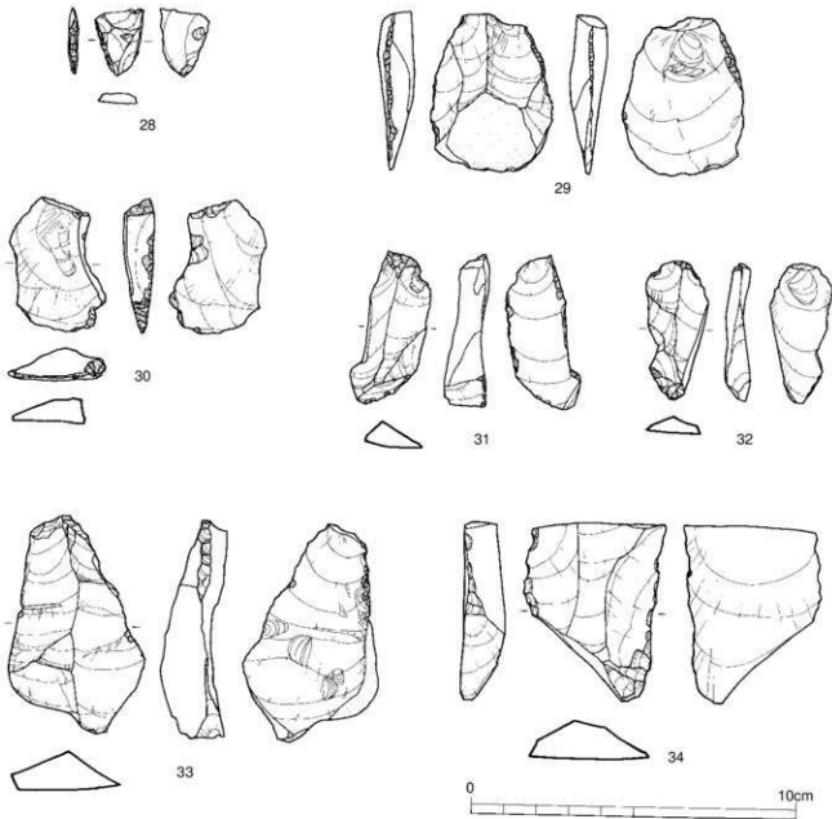
剥片3点、石核1点からなる。剥離の順序は、40～49の順で剥離した後、一回の剥離作業を行った後に50を剥離させ、石核である48が残された。4点とも同じ流紋岩であるにもかかわらず、48・51は赤褐色・黒褐色を呈しており、49・50は暗褐色が強い。



第21図 旧石器時代第III文化層 遺物分布図 ( $S = 1/500$ )



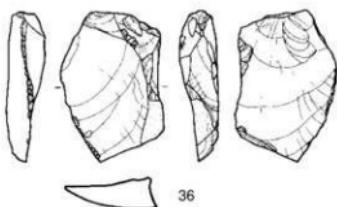
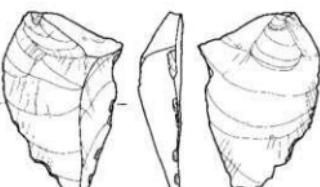
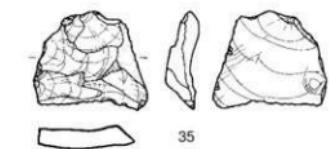
第22図 旧石器時代第III文化層石器実測図① ナイフ形石器・スクレイパー (S=2/3)



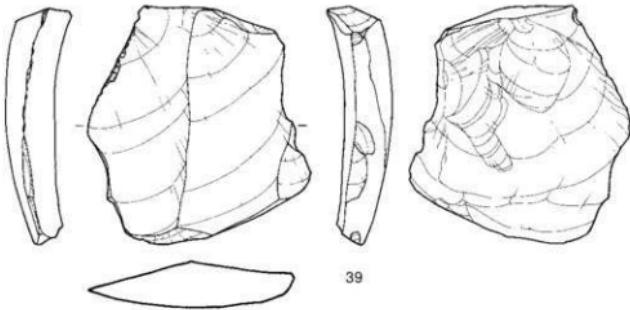
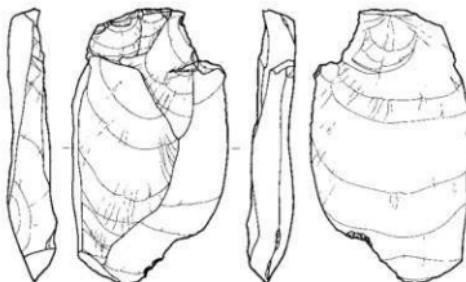
第23図 旧石器時代第III文化層石器実測図② 台形石器・二次加工剥片 (S=2/3)

番号	区	グリッド	層位	器種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル (m)
19	B	F 1	VII	ナイフ形石器	流紋岩	3.10	1.50	0.70	3.5	-85191.89	47913.07	119.106
20	B	F 1	VII	ナイフ形石器	流紋岩	3.65	2.05	0.75	4.0	-85192.24	47910.99	119.034
21	B	G 2	VII	ナイフ形石器	流紋岩	5.00	2.00	1.00	9.3	-85188.70	47920.32	119.018
22	B	F 1	VII	ナイフ形石器	流紋岩	5.25	1.85	1.20	8.3	-85194.68	47915.48	119.157
23	B	F 2	VII	ナイフ形石器	流紋岩	1.50	1.05	0.50	0.5	-85188.58	47915.84	119.152
24	B	G 3	VI	ナイフ形石器	流紋岩	2.45	1.50	0.60	2.2	-85170.72	47924.72	118.812
25	D	J 5	VII	スクレーパー	流紋岩	5.20	4.10	1.60	29.5	-85140.70	47957.08	117.890
26	B	G 1	VII	スクレーパー	流紋岩	5.50	4.95	1.35	30.8	-85197.12	47920.26	118.638
	B	F 1	VIII	スクレーパー	流紋岩					-85195.04	47917.79	118.790
27	B	F 2	VII	台形石器	流紋岩	9.15	5.60	2.20	89.4	-85181.22	47915.76	119.323
28	B	F 2	VIII	二次加工剥片	流紋岩	2.05	1.50	0.30	1.0	-85183.31	47915.32	119.251
29	B	F 2	VII	二次加工剥片	流紋岩	4.09	3.75	1.15	18.8	-85185.50	47915.55	119.213
30	B	F 1	VII	二次加工剥片	流紋岩	4.15	3.00	1.00	10.0	-85192.14	47912.52	119.135
31	B	F 2	VII	二次加工剥片	流紋岩	4.70	2.40	1.30	9.3	-85186.34	47919.89	119.121
32	B	F 1	VII	二次加工剥片	流紋岩	4.25	1.95	0.85	5.3	-85192.74	47916.81	118.941
33	B	F 2	VII	二次加工剥片	赤チャート	6.70	3.20	2.05	40.9	-85189.04	47916.68	119.049
34	B	G 2	VII	二次加工剥片	砂岩	5.50	4.35	1.35	30.7	-85188.63	47926.39	118.656

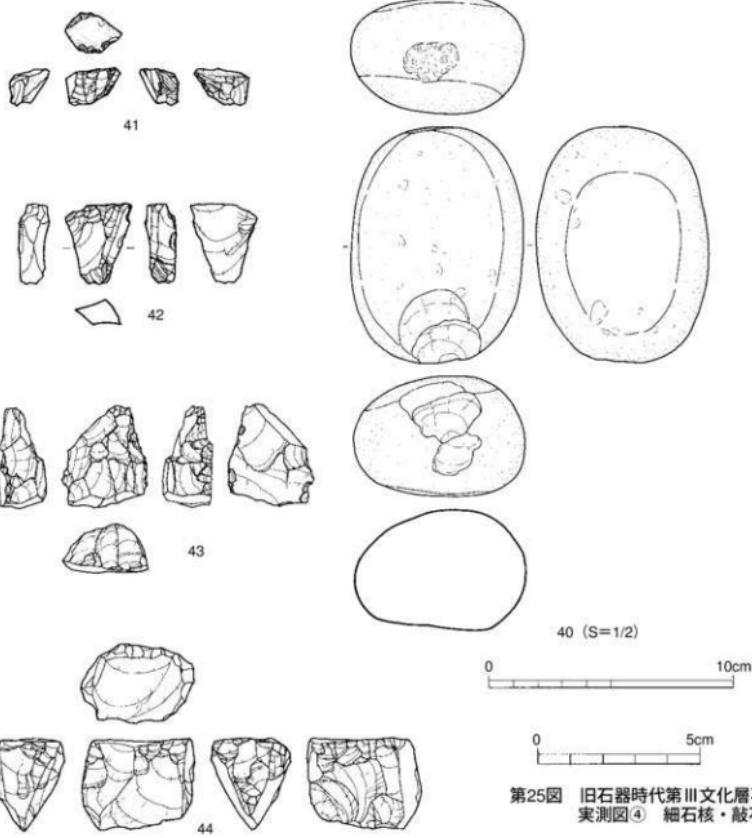
第6表 旧石器時代第III文化層 石器計測表①



0 10cm



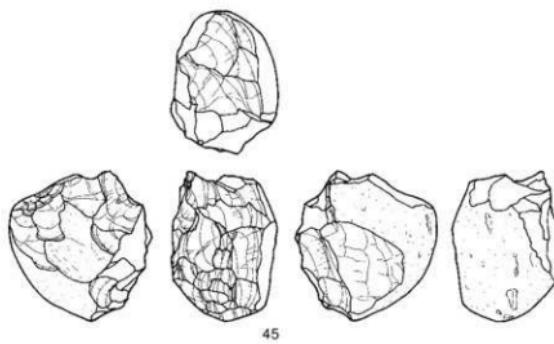
第24図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図③ 使用痕剥片 ( $S = 2/3$ )



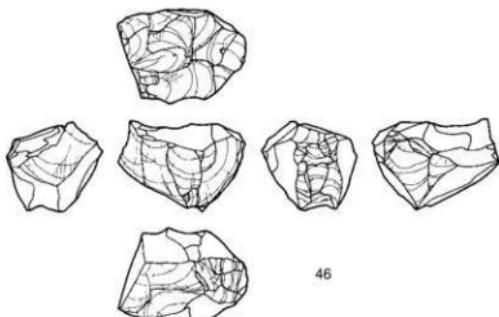
第25図 旧石器時代第III文化層石器  
実測図④ 細石核・敲石

番号	区	グリッド	層位	器種	石材	接合資料	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル(m)
35	B	F 1	VII	使用痕剥片	流紋岩		3.00	3.50	1.05	7.8	-85191.25	47915.89	119.132
36	B	F 1	VII	使用痕剥片	流紋岩		4.60	3.15	1.20	15.9	-85195.22	47915.61	119.159
37	B	F 1	VII	使用痕剥片	流紋岩		5.55	3.70	1.35	21.6	-85194.47	47913.59	119.100
38	B	F 1	VII	使用痕剥片	流紋岩		8.45	4.80	1.50	58.2	-85190.42	47918.75	119.121
39	B	F 2	VII	使用痕剥片	流紋岩		7.30	6.85	2.05	80.9	-85188.08	47916.18	119.151
40	B	F 2	VII	敲石	尾鈴酸性岩		9.70	7.10	4.95	489.5	-85188.66	47923.82	119.025
41	B	F 2	VII	細石核	輝石(菱)和田		1.10	1.70	1.20	1.6	-85184.98	47913.00	119.121
42	D	J 6	VII	細石核	流紋岩		2.45	2.00	0.95	2.9	-85142.29	47956.08	117.961
43	B	G 1	VII	細石核	流紋岩		3.10	2.60	1.50	12.5	-85193.36	47928.6	118.431
44	D	J 7	VII	細石核	流紋岩		2.80	3.50	2.45	24.9	-85132.49	47955.49	117.973
45	B	G 2	VII	石核	チャート		4.60	3.30	4.40	77.2	-85188.72	47923.86	118.770
46	B	E 2	VII	石核	流紋岩		2.80	3.90	2.95	28.4	-85186.54	47906.44	119.400
47	B	F 1	VII	石核	流紋岩		5.70	4.65	3.00	83.7	-85190.22	47916.78	118.975
48	B	F 1	IV'	石核	流紋岩	1	6.00	3.20	4.60	64.8	-85190.49	47912.48	119.140
49	B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1	4.60	2.75	2.30	17.9	-85193.58	47914.82	119.027
50	B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1	3.05	2.15	2.65	6.7	-85190.71	47914.91	119.058
51	B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1	2.00	1.70	3.10	6.7	-85195.09	47916.19	118.982

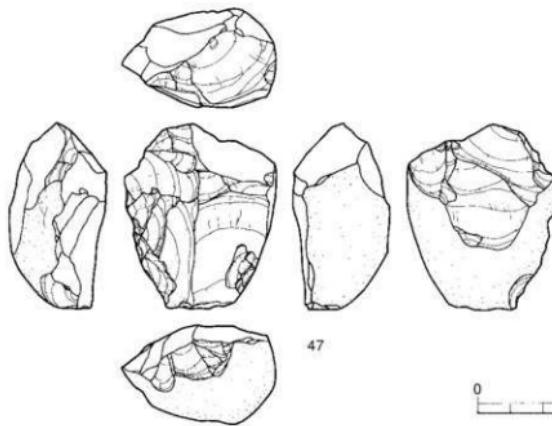
第7表 旧石器時代第III文化層(2) 石器計測表



45



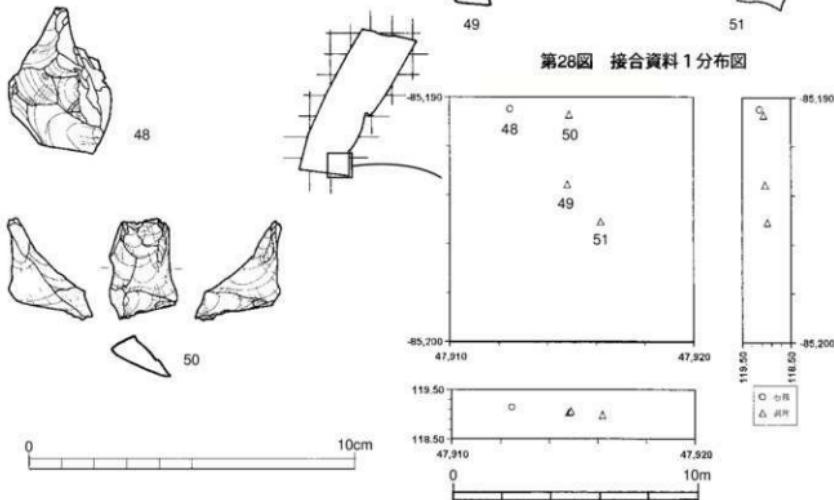
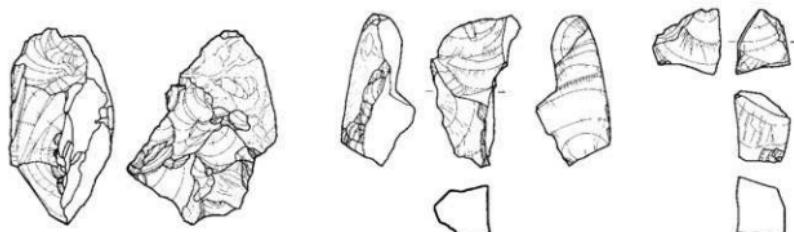
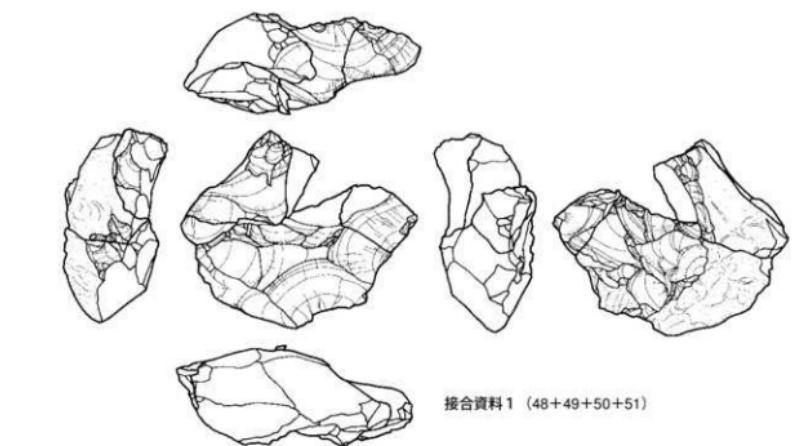
46



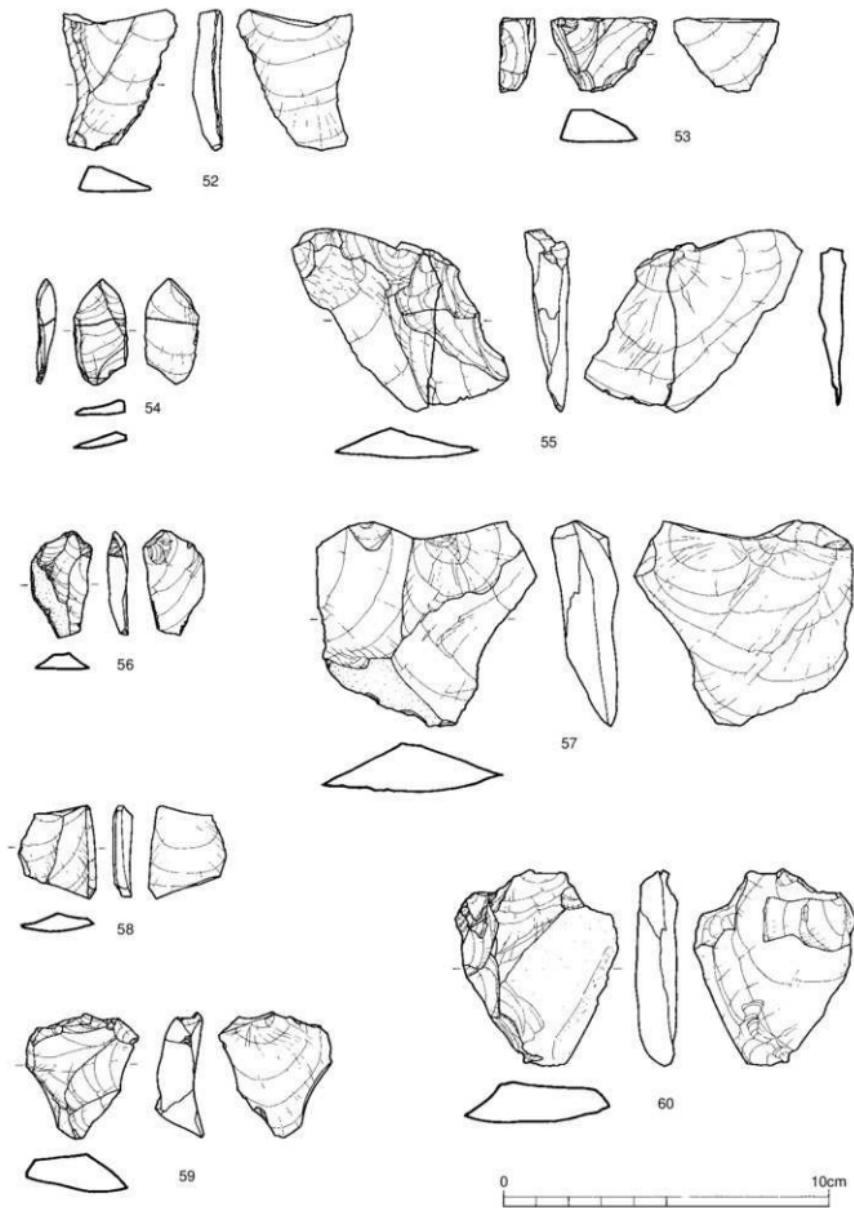
47



第26図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑤ 石核 (S=2/3)



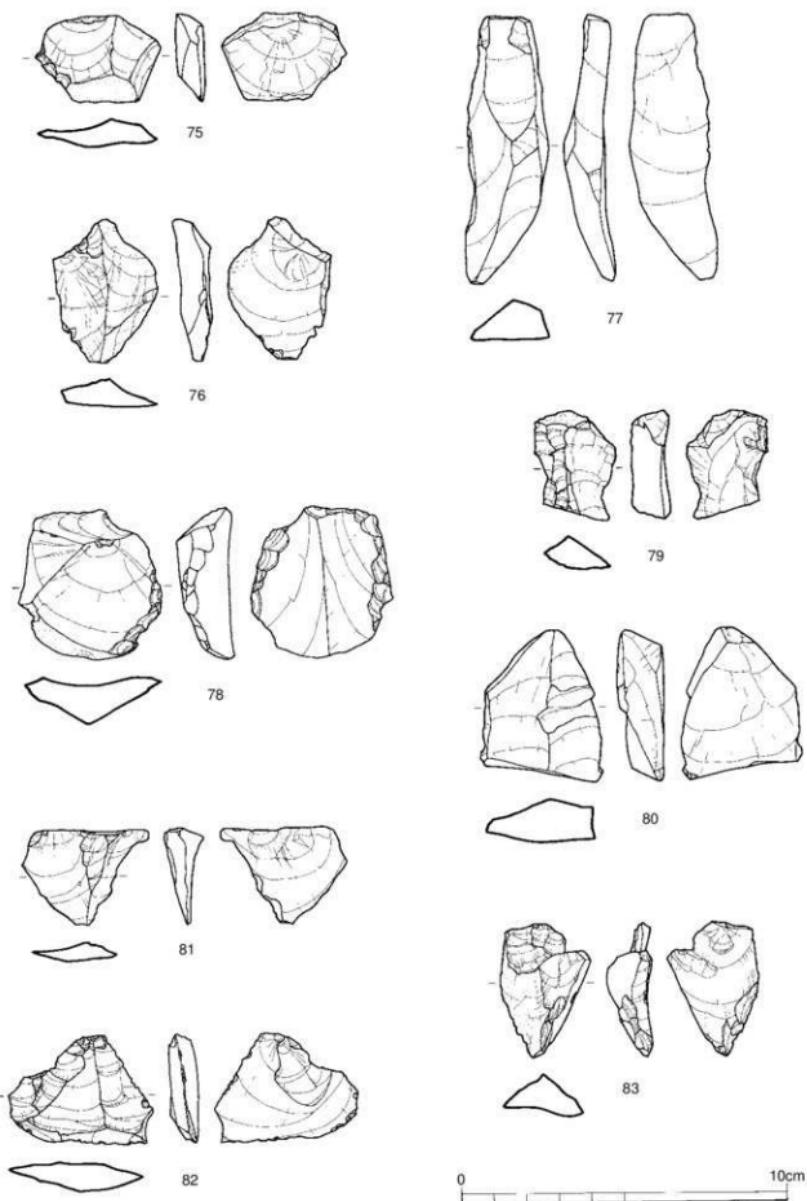
第27図 旧石器時代第III文化層石器実測図⑥ 接合資料 (S=2/3)



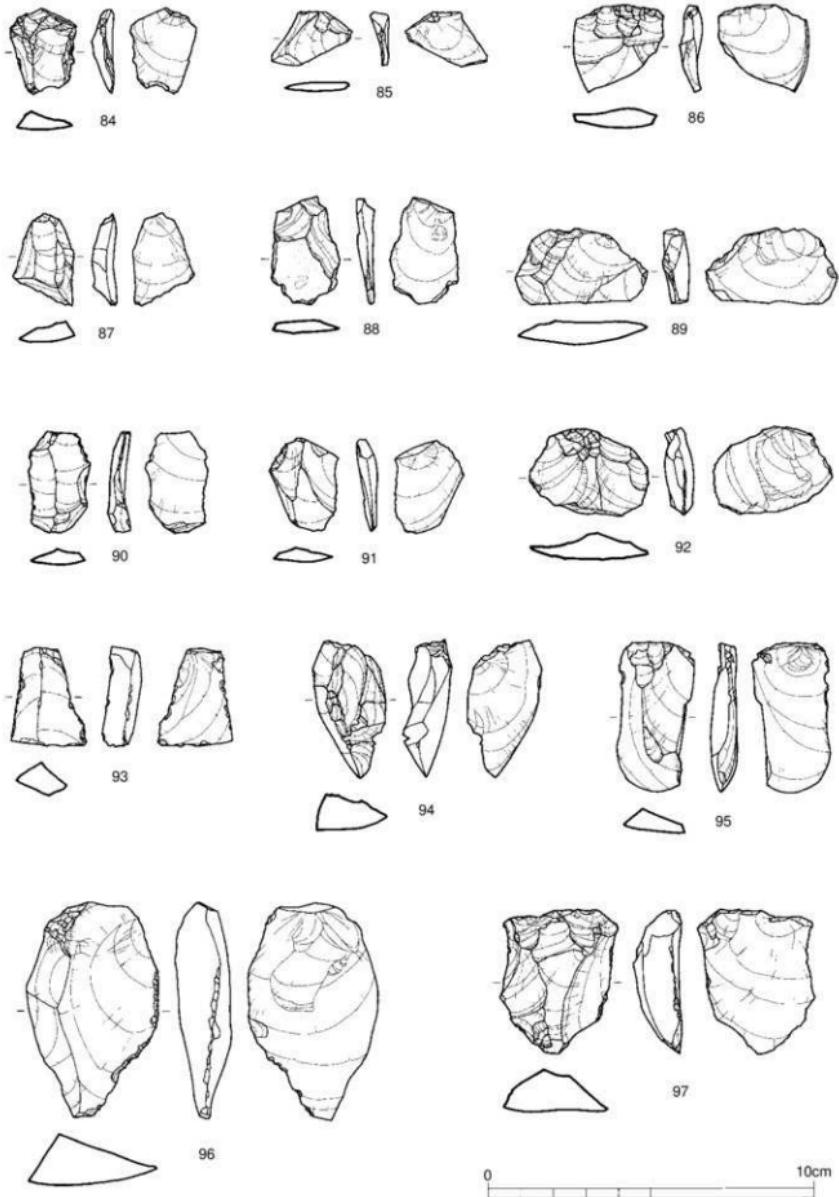
第29図 旧石器時代第III文化層石器実測図⑦ 剥片① ( $S=2/3$ )



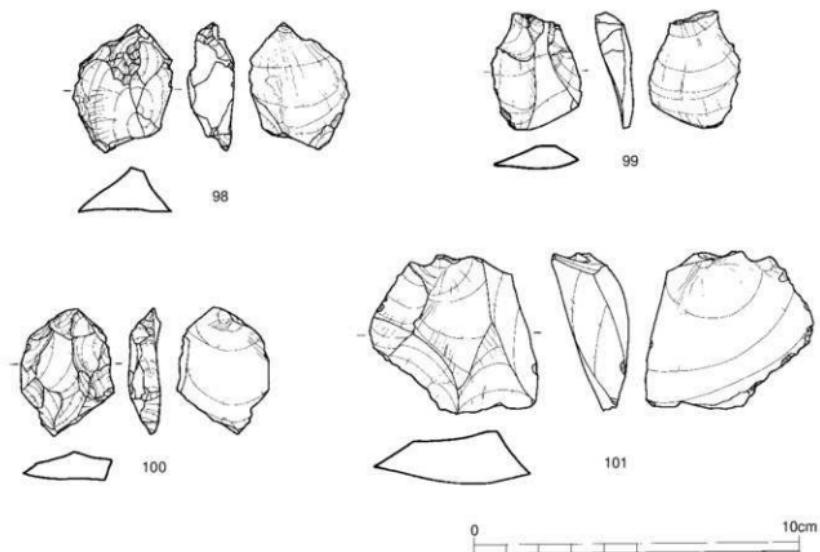
第30図 旧石器時代第III文化層石器実測図⑧ 剥片② ( $S=2/3$ )



第31図 旧石器時代第Ⅲ文化層石器実測図⑨ 剥片③ (S=2/3)



第32図 旧石器時代第III文化層石器実測図⑩ 剥片④ ( $S=2/3$ )



第33図 旧石器時代第III文化層石器実測図⑪ 剥片⑤ (S=2/3)

石器	ナイフ形石器	台形石器	スクレイパー	2次加工剥片	使用痕剥片	剥片	碎片	石核	細石核	敲石	計
頁岩						4					4
ホルンフェルス						18					18
流紋岩	6	1	3	4	5	91	3	3	3		119
チャート				1		6		1			8
黒曜石						9	6		1		16
砂岩				1		12					13
尾鉛酸性岩						5				1	6
緑色凝灰岩											1
凝灰岩							1				
石英					5						
計	6	1	3	6	6	146	9	4	4	1	185

第8表 旧石器時代第III文化層 石材別石器組成表

### 剥片

146点出土したうち、VII層23点、VIII層26点を図化した。VII層で砂岩2点、チャート1点、黒曜石1点、VIII層でホルンフェルス3点、砂岩2点、チャート1点の他は、すべて流紋岩製である。72・78のように細かく調整された剥片が見られる。また、66・71・74・82は、使用された可能性がある。

### (2) 小結

旧石器時代第III文化層は、遺構が検出されていない。また、礫も出土していない。それに比べて、遺物出土量は極めて多い。石器は剥片が76%を占め、それ以外の器種が少ない。石材は流紋岩製が63%を占める。流紋岩については、当初色、艶、触感、不純物の有無等で細分化して、種別毎の分布状況を検証してみたが、分布差や特徴は見いだせなかった。

番号	区	グリッド	層位	器種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル (m)
52	B	F2	VII	剥片	砂岩	4.30	3.50	0.90	11.3	-85188.42	47915.92	119.213
53	B	F2	VII	剥片	砂岩	2.30	3.25	1.10	8.2	-85188.25	47916.14	119.137
54	B	G2	VII	剥片	チャート	3.25	1.70	0.60	2.2	-85189.03	47925.68	118.855
	B	G2	VII	剥片		-	-	-	-	-85189.43	47926.69	118.564
55	D	H6	VII	剥片	尾鈴酸性岩	5.55	6.65	1.40	28.2	-85135.78	47938.57	118.603
	D	H6	VII	剥片		-	-	-	-	-85135.55	47938.32	118.583
56	D	G2	VII	剥片	黒曜石	3.20	1.85	0.60	3.0	-85187.46	47925.35	118.840
57	B	F2	VII	剥片	頁岩	6.30	6.75	2.05	65.2	-85189.55	47915.29	119.150
58	B	E1	VII	剥片	流紋岩	2.85	2.40	0.60	4.3	-85195.83	47907.69	119.327
59	B	F1	VII	剥片	流紋岩	3.85	3.45	1.50	15.8	-85194.52	47914.06	119.099
60	B	F1	VII	剥片	流紋岩	6.05	5.00	1.30	41.3	-85194.77	47918.74	118.788
61	B	F1	VII	剥片	流紋岩	1.85	2.05	0.70	2.0	-85194.02	47913.22	119.137
62	B	F1	VII	剥片	流紋岩	2.35	2.40	0.60	3.0	-85195.77	47918.59	118.945
63	B	F1	VII	剥片	流紋岩	2.25	2.95	1.00	5.4	-85195.80	47911.87	119.197
64	B	G2	VII	剥片	流紋岩	3.10	2.15	0.80	4.0	-85181.88	47924.99	118.818
65	B	G2	VII	剥片	流紋岩	3.50	1.60	0.60	2.5	-85183.38	47929.08	118.744
66	B	F2	VII	剥片	流紋岩	3.65	3.65	1.40	15.4	-85188.23	47916.56	119.178
	B	F2	VII	剥片	流紋岩	3.95	2.45	0.90	5.9	-85189.53	47915.07	119.197
67	B	F2	VII	剥片	流紋岩	-	-	-	-	-85189.52	47915.04	119.194
	B	F2	VII	剥片	流紋岩	-	-	-	-	-85188.22	47914.42	119.081
68	B	F1	VII	剥片	流紋岩	2.95	2.90	0.70	6.1	-85186.81	47914.74	119.113
69	B	G1	VII	剥片	流紋岩	4.40	2.20	0.80	6.0	-85196.74	47922.54	118.711
70	B	F1	VII	剥片	流紋岩	4.45	1.30	0.40	2.4	-85187.92	47913.78	119.089
71	B	E2	VII	剥片	流紋岩	3.80	2.50	0.80	6.8	-85187.23	47909.83	119.201
72	B	G2	VII	剥片	流紋岩	4.70	3.45	1.05	17.0	-85187.45	47925.42	119.106
73	B	F1	VII	剥片	流紋岩	4.70	5.00	1.50	29.4	-85196.88	47912.18	119.044
74	B	F2	VII	剥片	流紋岩	2.30	4.10	1.40	10.4	-85183.39	47919.11	119.187

第9表 旧石器時代第III文化層（VII層） 石器計測表 剥片

番号	区	グリッド	層位	器種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル (m)
75	B	F1	VII	剥片	ホルンフェルス	2.70	3.85	0.90	9.1	-85193.29	47912.92	119.065
76	B	F2	VII	剥片	ホルンフェルス	4.40	3.25	1.15	11.6	-85185.45	47912.98	118.970
77	B	G2	VII	剥片	ホルンフェルス	8.20	2.65	1.55	21.8	-85188.12	47924.69	118.726
78	D	J5	VII	剥片	砂岩	4.65	4.35	1.70	28.8	-85142.45	47956.37	117.935
79	B	G1	VII	剥片	チャート	3.35	2.50	1.20	8.9	-85198.35	47927.27	118.491
80	B	F2	VII	剥片	砂岩	4.65	3.70	1.45	25.2	-85183.68	47913.12	119.246
81	B	G2	VII	剥片	流紋岩	2.95	3.90	1.20	6.4	-85184.28	47927.92	118.821
82	B	F2	VII	剥片	流紋岩	3.35	4.45	0.90	11.2	-85184.95	47913.46	118.987
83	B	F2	VII	剥片	流紋岩	4.15	2.80	1.45	9.5	-85182.13	47912.38	119.237
84	B	F1	VII	剥片	流紋岩	2.60	2.00	0.70	2.7	-85193.88	47913.04	119.080
85	B	F2	VII	剥片	流紋岩	1.65	2.50	0.60	1.6	-85182.09	47913.67	119.256
86	B	E2	VII	剥片	流紋岩	2.65	2.80	0.70	5.2	-85188.94	47909.87	119.211
87	B	E2	VII	剥片	流紋岩	2.85	1.90	0.75	2.9	-85187.17	47907.68	119.249
88	B	F2	VII	剥片	流紋岩	3.30	2.10	0.55	3.2	-85183.41	47913.38	119.253
89	B	F2	VII	剥片	流紋岩	2.30	4.05	0.80	7.7	-85187.62	47916.88	119.091
90	B	F1	VII	剥片	流紋岩	3.10	1.90	0.70	2.9	-85191.37	47911.01	119.139
91	B	F2	VII	剥片	流紋岩	2.85	2.15	0.70	3.1	-85186.85	47917.21	119.154
92	B	F1	VII	剥片	流紋岩	2.70	3.65	0.90	8.4	-85194.35	47914.08	119.035
93	B	G2	VII	剥片	流紋岩	3.05	2.30	1.20	5.8	-85188.04	47926.85	118.599
94	B	F1	VII	剥片	流紋岩	4.20	2.25	1.50	10.3	-85193.97	47909.37	119.122
95	B	F2	VII	剥片	流紋岩	4.50	2.40	0.85	8.1	-85185.29	47915.53	119.143
96	B	G1	VII	剥片	流紋岩	6.65	4.05	1.80	36.5	-85196.29	47927.32	118.625
97	B	F1	VII	剥片	流紋岩	4.45	3.60	1.50	21.7	-85194.33	47914.07	119.035
98	B	E2	VII	剥片	流紋岩	3.90	3.05	1.40	12.3	-85187.08	47907.89	119.239
99	B	F1	VII	剥片	流紋岩	3.60	2.75	1.10	7.0	-85193.59	47913.11	119.081
100	B	F2	VII	剥片	流紋岩	3.90	2.80	0.95	9.9	-85186.29	47915.80	119.071
101	B	F2	VII	剥片	流紋岩	4.90	5.15	2.35	42.5	-85180.31	47915.38	119.262

第10表 旧石器時代第III文化層（VII層） 石器計測表 剥片

番号	区	グリッド	層位	器種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル (m)
B	G 1	VII	剥片	流紋岩	7.25	3.78	2.83	51.6	-85195.74	47926.55	118.735	
B	G 2	VII	剥片	流紋岩	4.70	3.45	1.05	17.0	-85187.45	47925.42	119.106	
B	G 2	VII	剥片	流紋岩	2.43	1.35	0.66	2.0	-85188.39	47922.46	118.980	
B	G 2	VII	剥片	流紋岩	6.04	4.92	1.40	36.5	-85188.80	47926.22	118.709	
B	G 1	VII	剥片	黒曜石(木削)	2.21	1.72	0.65	1.6	-85196.63	47921.49	118.526	
B	G 1	VII	剥片	ホルンフェルス	2.97	1.39	0.81	3.0	-85197.21	47924.19	118.683	
B	G 1	VII	剥片	砂岩	8.50	5.76	1.57	52.6	-85197.32	47925.08	118.567	
B	G 1	VII	剥片	尾鈴酸性岩	8.43	7.39	4.39	256.0	-85194.99	47926.30	118.581	
B	G 1	VII	剥片	尾鈴酸性岩	4.34	2.34	1.07	11.8	-85191.32	47925.09	118.759	
B	G 1	VII	剥片	赤チャート	3.31	2.77	1.16	9.1	-85188.33	47927.48	118.654	
B	F 2	VII	碎片	黒曜石(脛岳)	0.72	0.50	0.27	0.1	-85187.41	47914.32	119.159	
B	F 2	VII	剥片	ホルンフェルス	1.86	0.93	0.68	0.9	-85187.83	47914.77	119.189	
B	F 2	VII	剥片	頁岩	2.07	1.65	0.48	1.6	-85187.96	47915.76	119.218	
B	F 2	VII	碎片	黒曜石(木削)	0.92	0.79	0.32	0.1	-85186.89	47917.82	119.229	
B	F 2	VII	剥片	尾鈴酸性岩	4.85	4.32	1.40	22.3	-85188.81	47914.38	119.187	
B	F 2	VII	剥片	黒曜石(脣岳)	1.85	1.92	1.22	3.2	-85189.12	47912.79	119.154	
B	F 2	VII	碎片	流紋岩	1.46	0.63	0.39	0.1	-85188.18	47912.13	119.124	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	4.14	2.39	1.12	12.3	-85187.60	47912.25	119.159	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	3.24	3.03	0.89	6.3	-85183.07	47914.47	119.291	
B	E 2	VII	剥片	流紋岩	2.01	1.33	0.81	1.6	-85188.36	47909.68	119.253	
B	E 2	VII	剥片	頁岩	2.88	2.79	0.64	5.6	-85189.18	47909.88	119.238	
B	F 2	VII	剥片	尾鈴酸性岩	5.52	3.56	1.06	20.0	-85189.44	47910.78	119.190	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	3.21	2.67	1.04	6.7	-85190.59	47911.51	119.175	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	3.54	2.56	1.22	8.1	-85192.38	47910.19	119.234	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	3.55	1.92	0.68	4.1	-85192.06	47912.93	119.171	
B	F 1	VII	剥片	ホルンフェルス	3.65	3.27	0.90	10.3	-85193.03	47913.18	119.112	
B	F 1	VII	剥片	黒曜石(日東)	1.00	1.80	0.70	1.4	-85193.26	47913.68	119.188	
B	F 1	VII	剥片	砂岩	5.01	3.96	0.70	18.1	-85190.96	47914.23	119.179	
B	F 1	VII	剥片	チャート	3.13	2.03	0.10	4.8	-85191.34	47914.80	119.168	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1.98	1.79	0.38	1.2	-85191.98	47915.88	119.219	
B	F 1	VII	碎片	黒曜石(木削)	0.89	0.56	0.16	0.1	-85194.16	47918.31	118.977	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	4.44	3.14	9.37	10.1	-85195.28	47917.81	118.969	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1.38	1.11	0.58	0.9	-85195.35	47915.66	119.173	
B	F 1	VII	剥片	砂岩	5.06	3.01	1.10	14.7	-85194.89	47914.88	119.168	
B	F 1	VII	剥片	黒曜石(木削)	1.07	0.70	0.53	0.3	-85195.20	47911.28	119.162	
B	E 1	VII	剥片	砂岩	2.13	0.84	0.40	0.9	-85195.09	47909.84	119.194	
B	E 1	VII	碎片	黒曜石(木削)	0.83	0.50	1.90	0.1	-85193.82	47907.68	119.324	
B	E 1	VII	剥片	黒曜石(脣岳)	0.80	10.00	0.53	0.5	-85193.19	47908.79	119.290	
B	E 2	VII	剥片	黒曜石(脣岳)	1.31	1.17	0.50	0.4	-85186.65	47907.49	119.335	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	1.83	1.17	0.39	0.8	-85183.50	47914.58	119.256	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	2.59	1.13	0.79	2.3	-85188.28	47914.72	119.135	
B	F 2	VII	剥片	ホルンフェルス	1.34	0.89	0.42	0.4	-85188.32	47915.18	119.096	
B	F 2	VII	剥片	砂岩	1.89	1.20	0.29	0.7	-85188.25	47915.47	119.100	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	2.26	2.59	4.00	4.0	-85188.73	47916.18	119.117	
B	F 2	VII	剥片	ホルンフェルス	7.12	3.36	1.21	33.5	-85188.78	47914.07	119.120	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	1.83	1.55	0.38	0.8	-85189.26	47914.58	119.082	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1.54	0.91	0.28	0.4	-85191.14	47914.58	119.120	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.96	3.26	0.84	9.4	-85191.87	47916.38	118.965	
B	F 1	VII	碎片	流紋岩	1.47	0.92	2.00	0.1	-85193.29	47917.16	119.002	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.25	1.30	0.68	1.5	-85195.04	47917.86	118.799	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	3.02	2.44	0.73	5.7	-85194.97	47915.39	119.143	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	3.63	2.41	0.77	8.3	-85195.20	47915.3	119.130	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.97	1.49	0.69	3.8	-85195.92	47915.28	119.000	

第11表 旧石器時代第III文化層(VII層) 固化資料以外の石器計測表①

番号	区	グリッド	層位	器種	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル (m)
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	4.85	3.21	1.76	23.6	-85194.92	47914.21	119.042	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.80	2.40	0.53	3.0	-85192.38	47915.61	119.211	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.06	1.38	0.49	1.4	-85192.69	47913.82	119.097	
B	F 1	VII	剥片	ホルンフェルス	5.96	2.23	0.84	11.2	-85197.61	47918.18	118.957	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.70	0.95	0.45	1.7	-85193.10	47917.22	119.246	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1.92	1.09	0.30	0.6	-85193.99	47910.24	119.066	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.39	1.71	0.49	1.7	-85193.21	47915.19	119.186	
B	F 1	VII	碎片	流紋岩	1.25	0.80	0.29	0.1	-85187.29	47914.86	119.072	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.19	1.85	0.92	3.3	-85186.79	47914.56	119.089	
B	F 1	VII	剥片	チャート	2.17	1.97	0.46	1.5	-85186.92	47914.18	119.086	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	3.36	2.05	0.84	5.0	-85186.96	47913.91	119.116	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1.55	0.95	0.25	0.3	-85186.94	47913.41	119.114	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.03	2.70	0.58	2.6	-85186.39	47913.31	119.131	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	4.21	3.77	1.39	16.2	-85186.58	47911.06	119.170	
B	E 2	VII	剥片	流紋岩	3.12	1.77	1.40	6.4	-85187.18	47908.26	119.213	
B	E 2	VII	剥片	黒曜石(腰岳)	1.50	0.70	0.80	1.2	-85186.81	47907.42	119.289	
B	E 2	VII	剥片	流紋岩	1.71	0.94	0.99	1.2	-85187.51	47907.45	119.252	
B	E 2	VII	剥片	流紋岩	1.54	1.29	0.58	0.7	-85187.28	47907.22	119.261	
B	E 2	VII	剥片	流紋岩	2.05	1.14	0.28	0.6	-85187.48	47907.20	119.280	
B	E 2	VII	剥片	流紋岩	1.54	1.28	0.33	0.6	-85187.94	47909.36	119.156	
B	E 2	VII	剥片	流紋岩	1.54	2.32	0.61	2.9	-85189.38	47907.34	119.287	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	2.89	3.14	0.85	8.1	-85184.29	47912.03	119.153	
B	F 2	VII	剥片	ホルンフェルス	2.62	2.17	0.69	4.3	-85185.57	47916.29	119.147	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	2.14	1.49	0.49	1.0	-85185.06	47915.99	119.143	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	4.48	3.37	1.39	15.8	-85186.09	47917.33	119.161	
B	F 2	VII	剥片	ホルンフェルス	2.92	2.33	1.04	7.3	-85186.70	47917.13	119.195	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	2.03	1.80	0.55	1.9	-85186.43	47916.50	119.137	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	2.82	2.22	1.06	5.3	-85186.72	47916.09	119.133	
B	F 2	VII	剥片	凝灰岩	3.21	2.41	1.81	12.8	-85186.55	47914.62	119.140	
B	G 2	VII	剥片	砂岩	1.46	1.22	0.33	0.4	-85189.18	47927.41	118.563	
B	F 2	VII	剥片	ホルンフェルス	2.58	1.98	0.49	2.7	-85185.60	47919.55	119.109	
B	F 2	VII	剥片	ホルンフェルス	2.37	2.44	0.89	3.9	-85185.30	47915.50	119.143	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	4.20	2.61	1.11	10.7	-85194.77	47914.58	118.890	
B	F 1	VII	剥片	ホルンフェルス	4.08	2.87	0.75	8.3	-85193.64	47913.59	119.012	
B	F 1	VII	剥片	鰐石(菱木神社)	1.44	1.53	0.48	0.9	-85193.39	47916.64	118.910	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	1.35	1.30	0.35	0.6	-85192.15	47913.38	118.967	
B	F 1	VII	剥片	流紋岩	2.91	1.38	0.88	2.9	-85191.87	47912.42	118.985	
B	G 2	VII	剥片	チャート	1.20	0.90	0.10	0.2	-85189.12	47927.05	118.670	
B	G 1	VII	剥片	流紋岩	8.66	4.36	2.09	41.7	-85194.33	47925.02	118.491	
B	F 2	VII	碎片	黒曜石	0.82	0.73	0.24	0.1	-85184.23	47911.68	119.057	
B	F 2	VII	剥片	砂岩	3.36	2.90	0.73	6.4	-85183.30	47919.35	119.117	
B	F 2	VII	剥片	流紋岩	1.58	1.15	0.86	1.3	-85184.31	47919.48	119.043	
B	G 3	VII	剥片	ホルンフェルス	3.08	2.99	1.27	8.7	-85179.47	47921.03	119.128	
D	I 6	VII	剥片	頁岩	2.17	1.69	0.64	2.1	-85136.15	47940.18	118.117	
D	J 5	VII	剥片	砂岩	3.54	2.24	0.86	5.0	-85144.30	47956.08	118.126	
D	J 6	VII	碎片	黒曜石	1.10	1.10	0.26	0.1	-85139.31	47956.49	117.896	
D	J 5	VII	剥片	ホルンフェルス	2.85	3.75	0.93	9.0	-85135.81	47958.29	117.815	
D	J 5	VII	剥片	ホルンフェルス	3.84	7.44	0.15	41.1	-85133.72	47959.94	117.884	
D	J 6	VII	剥片	ホルンフェルス	1.98	1.66	0.30	1.0	-85134.20	47953.44	118.012	

第12表 旧石器時代第Ⅲ文化層(VII層) 固化資料以外の石器計測表②

## 第4節 繩文時代早期の遺構と遺物

### 1 概要

B・D区の旧地形は、中央部よりやや北側で小さな谷地形を呈しており、南北両側に緩斜面を形成している。谷部は、A区から流れ出す自然流路の下流にあたり、自然流路は東側の調査区外に抜けている。また、谷部底部は流水作用で旧石器層まで削平され、地層は水分を多く含み、発掘時にも常に湧水していた。D区の東側は、現代になって畠地として整地するため削平されており、縄文時代早期層（VI層）、一部VII層が残存していなかった。

遺構は検出されなかったが、尾鈴酸性岩の礫が多数確認された。B区では、長辺5m、短辺3m、最大深部0.3m内に313点の礫が集中する区域が検出された。全体的に0.2m前後の厚さで広がっており、礫の密集する範囲において掘り込みは検出されていない。また、その下部に集石遺構は存在せず、内部及び近傍からも炭化物・遺物は出土していない。礫の赤化度も低い（第34図）。礫集中区内での礫が16点接合できたが、その礫の赤化度は低い（第35図）。

### 2 縄文時代早期の遺物

縄文時代早期に位置づけられる土器が出土した。本書に掲載した遺物も含めほとんどが破片で、割れた面も摩耗している。石器は、石鏃1点、尖頭器3点の他、剥片が11点出土している。

#### 繩文土器（第37図102～105）

土器は4点団化した。破片で、外面に条痕文が2点に見られるが、形式や傾きは不明である。胴部の可能性は高いが、断定できない。

#### 石鏃（第37図106）

基部が浅い凹形である。本遺跡では、この形の石鏃はこの1点のみである。

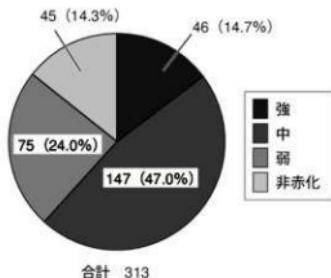
#### 尖頭器（第37図107～109）

3点出土した。107は一側面に欠損部が見られ、108は半折れしている。共に異形の尖頭器である。107は、両面加工であり、基部が緩やかに外湾しており、丁寧な加工である。欠損部は、製作過程か使用時にできたものと思われる。108は両面加工であ

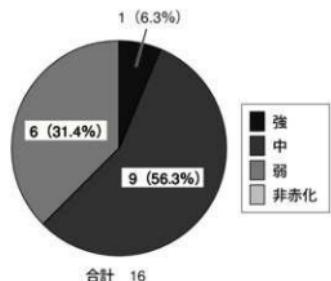
り、基部中央部には、わずかな抉りが見られる。製作過程でできたものか、意図的に設けられたかは不明である。109は、縱長剥片を素材とした流紋岩製である。両側縁の下端部から上端部に加工を施しているが、細かい調整は見られない。

### 3 小結

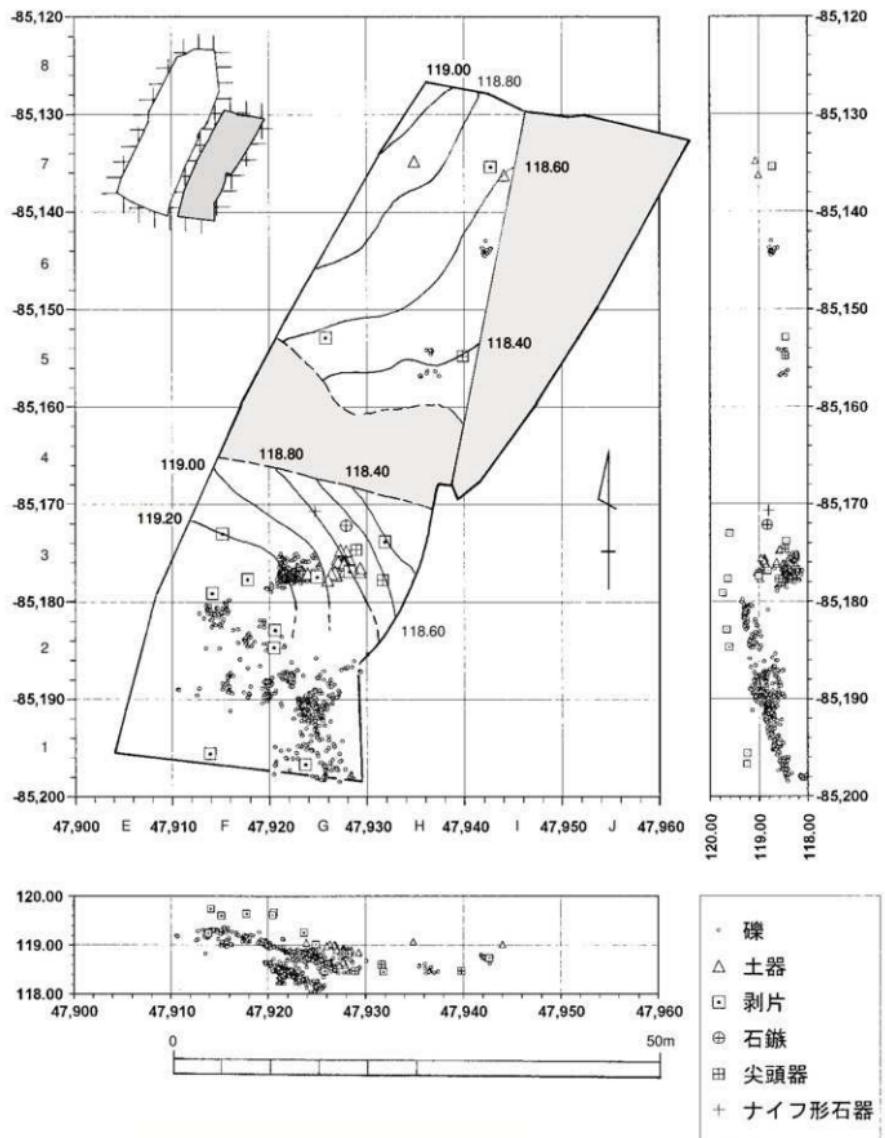
遺構は検出できなかったが、礫はほとんどが尾鈴酸性岩であったことから、この地の特徴を示している。礫が一定範囲内に密集し、一部赤化していることから、人為的な可能性もある。遺物のほとんどは、平面的には礫との関連も考えられるが、礫よりも高いレベルで出土しており、遺物の集中区は礫の下方にあることから、礫の堆積後に流れ込んだものと考えられる。



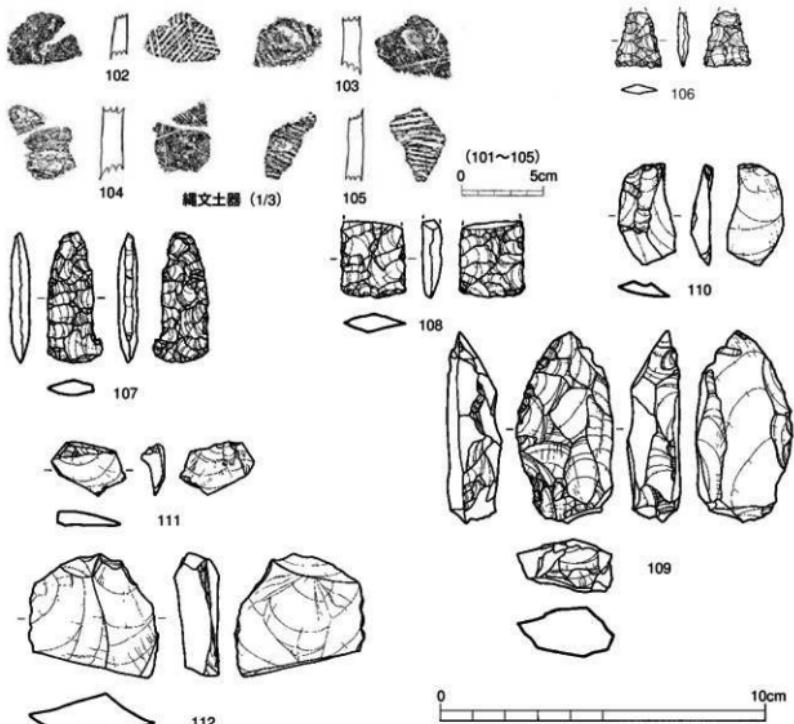
第34図 磕集中区赤化度



第35図 磕集中区接合資料赤化度



第36図 繩文時代早期遺物・礮分布図



第37図 繩文時代早期出土遺物実測図 (S=2/3)

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量 (cm)		手法・調整・文様 ほか		色調		胎土の特徴	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
102 繩文土器	甕	D	脣部	I 7			貝殻による横・斜め方向の条痕	ナデ	黒	にふい黄橙	1 mm以下の白白色粒・無色不透明粒を含む。	傾き不明
103 繩文土器	甕	B	脣部	G 3			竈・横・斜め方向のナデ	竈・横・斜め方向のナデ	にふい黄橙	にふい褐	1 mm以下の白色粒を多く含む。	傾き不明
104 繩文土器	甕	B	脣部	G 3			竈・横・斜め方向のナデ	ナデ	にふい黄橙	にふい黄褐色	1 mm以下の白色粒を多く含む。	傾き不明
105 繩文土器	甕	D	脣部	H 6			貝殻による横・斜め方向の条痕	貝殻条痕の後、ナデ	にふい黄橙・黒	暗灰黄	1 mm以下の白色粒を多く含む。	傾き不明

第13表 繩文土器観察表

番号	区	グリッド	層	器種	石 材	最大値 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
106	B	G 3	VI	石器	チャート	2.15	1.95	0.30	0.9	-85185.44	47927.63	118.988	
107	B	H 3	VI	尖頭器	チャート	4.00	1.70	0.60	3.9	-85177.73	47931.63	118.597	
108	B	G 3	VI	尖頭器	チャート	2.35	2.00	0.60	3.2	-85174.69	47928.94	118.435	
109	D	H 5	VI	尖頭器	流紋岩	5.90	2.95	1.65	30.8	-85154.79	47939.83	118.467	
110	B	G 3	VI	剥片	流紋岩	3.10	2.75	0.65	2.0	-85196.70	47923.69	119.247	
111	D	I 7	VI	剥片	チャート	1.65	2.25	0.75	1.5	-85135.40	47942.72	118.731	
112	B	F 1	VI	剥片	ホルンフェルス	3.80	3.45	1.40	18.5	-85197.58	47913.88	119.238	

第14表 繩文時代早期出土石器計測表

## 第5節 K-Ah降灰以降の遺構

### 1 概要（第38図）

A・B・C調査区でK-Ah降灰以降の遺構が検出されている。遺構は、掘立柱建物3棟、土坑21基、溝状遺構4条、不明遺構1基他ピットが多数検出されている。D区からは、方形土坑及び溝状遺構が検出されたが、方形土坑の底部でビニール製品が、溝状遺構からはガラス製瓶が出土し、近・現代の遺構と認定した。K-Ah降灰以降の層で検出された遺構は、時期を決定づける要素（層、形状、遺構内出土遺物）に乏しく、時代分類ができない遺構が多数見られた。また、C調査区北西側で近世以降に造成された可能性のある黒色土層で検出された遺構もあり（第38図）、遺構が検出された包含層から遺物が多数出土した。

### 2 C区北西部黒色土（Ⅱb）面検出の遺構と遺物

C調査区の北西部に厚さ約20cmの黒色土の広がる範囲が検出された。C区北西側は、K-Ahも一部残存しており、地山堆積層も安定していたが、黒色土面の残存する範囲の北側、東側、南側に疊の堆積層が近接しているため、それに伴う流水作用や湧水で浸食を受け、一部崩落や土砂の流出も見られた。そのため検出した遺構以外にも柱穴やピット、土坑が存在した可能性は否めない。黒色土上面では、土色の相違が識別できず、黒色土と遺構との区別に困難をきたした。検出面の高低差が出たが、掘立柱建物2棟、土坑3基、不明遺構1基、柱穴を含むピットが多数検出された。また、柱穴跡や土坑から土師器や陶磁器が出土している。

#### （1）遺構

##### SB 1（第40図）

SB 1は、C調査区北西部の黒色土残存区に位置し、柱穴SB 1-①は、半分は調査区外である。構造は桁行4間、梁行2間の南北棟で、規模は桁行9.12~9.20m、梁行4.92~4.96m、柱間は基本的に2.00~2.08mであるが、SB 1-②~SB 1-③間、SB 1-⑧~SB 1-⑨間、SB 1-①~SB 1-⑩間は2.80~2.88mとやや広い。柱穴の掘形は最大0.6~0.7mのほぼ円形である。棟方位はN-10°-Wを指す。SB 1-③は、底面に3箇所の掘り込み跡が見られ、

建替えの可能性をうかがわせる。

##### 出土遺物（第41図113~119）

共伴する遺物は、SB 1-③、④で土師皿、SB 1-①、③で陶磁器が出土している。113~115は、陶器である。113・115は皿で、115は内面が見込蛇ノ目釉剥ぎされている。114は甕である。116は磁器碗で内面に唐草文様の染付が施されている。117・118・119は、土師器である。117・118は壺で、117は糸切り底、118はヘラ切り底である。119は煤が付着しており、灯明皿と思われる。SB 1-③、⑤、⑦からは木柱片も出土している。自然科学分析の結果、SB 1-③出土の木柱片は1380±40年、SB 1-⑤出土の木柱片は、1600±40年、SB 1-⑦出土木柱片は1630±40年と判明した。

##### SB 2（第42図）

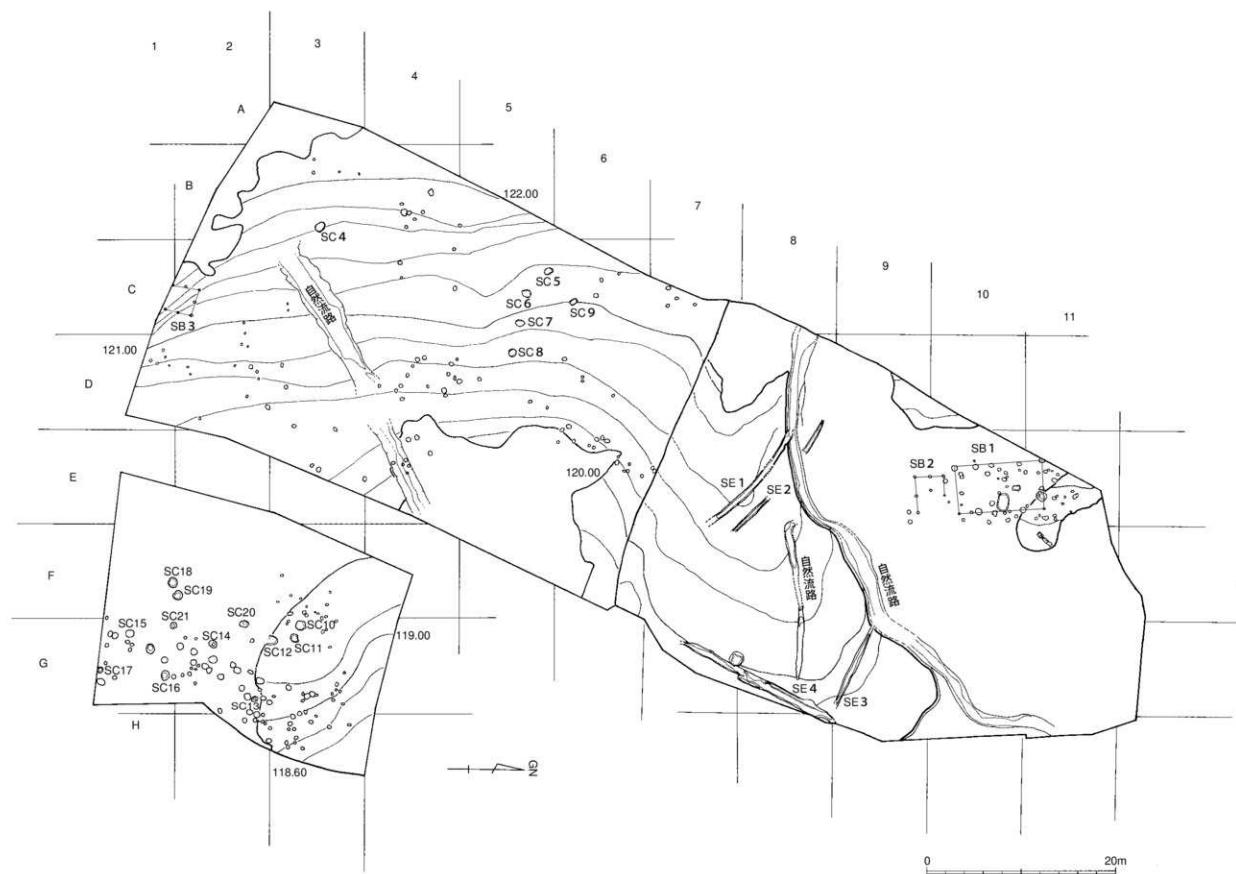
SB 1の南側に位置し、規模は、検出時で2間×2間である。柱間隔は、西側で北から1.4m、1.6m、南側で2.05m、1.7mを測る。柱穴の掘形は、0.2m~0.22mの円形を呈している。柱穴の検出面からの深さは、0.3~0.4mであるが、0.2mに満たない浅いものもある。

遺構に共伴する遺物は、出土していない。

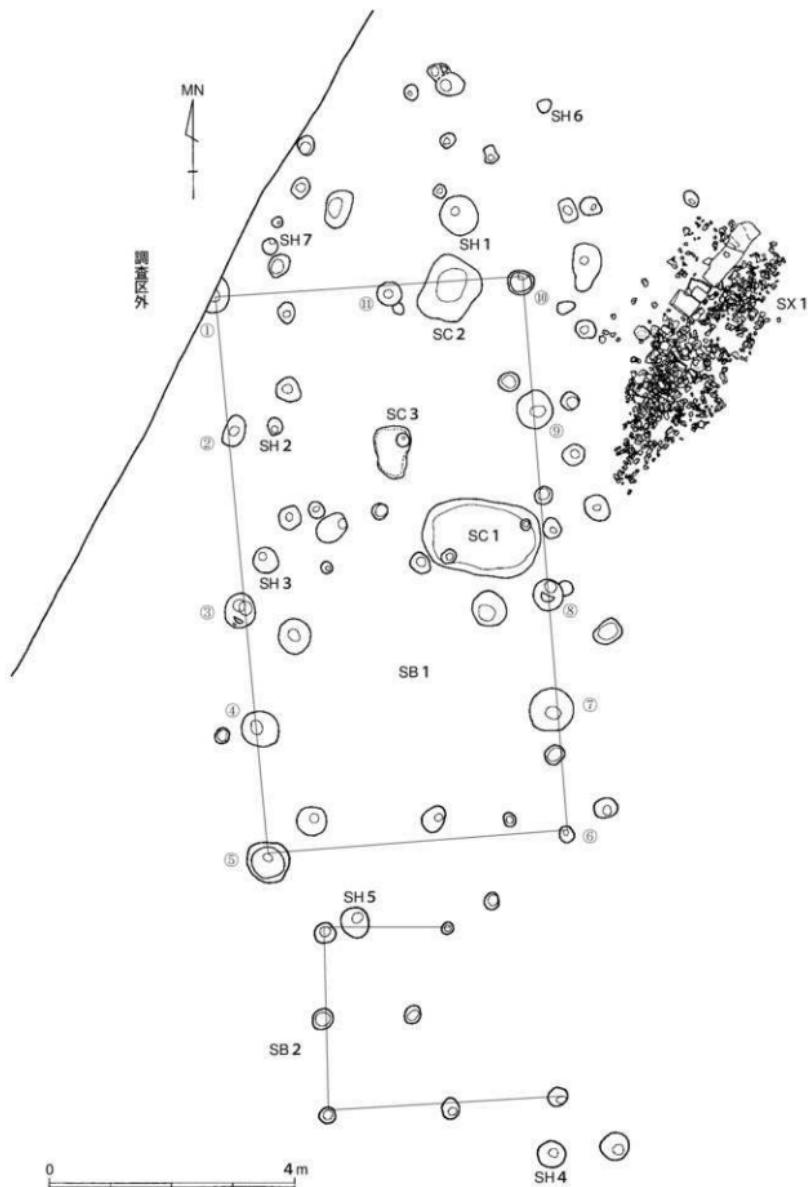
##### 柱穴群（第40図）

黒色土面では、掘立柱建物（SB 1・2）以外に多数の柱穴群が検出された。掘立柱建物と認定しなかったが、礎が詰まっていたり、検出面からの深さや掘形等、掘立柱建物の柱穴と近似しており、7基の柱穴から遺物が出土している（第43・44図）。

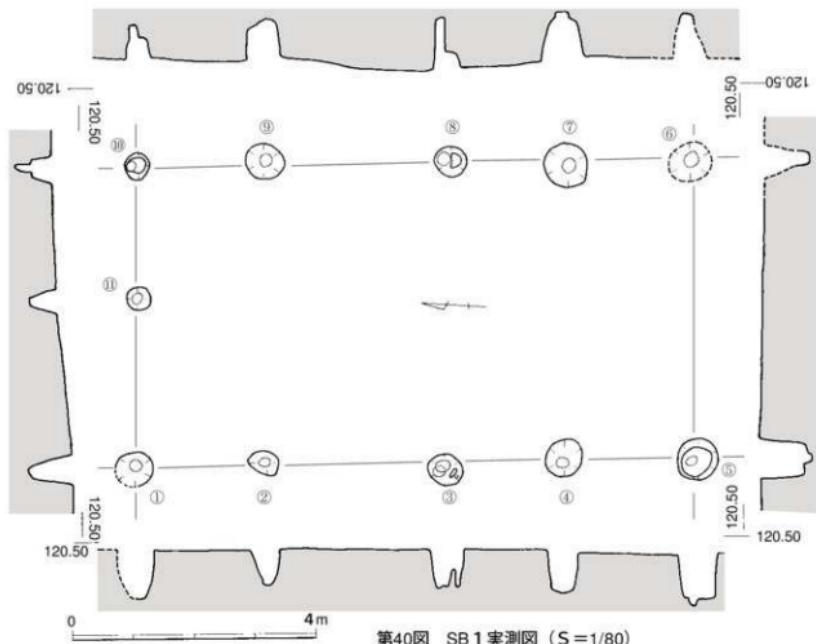
共伴する遺物は、SH 1から皿が出土している。120は磁器で、内外面施釉されているが、高台は無釉であり、内面は見込蛇ノ目釉剥ぎされている。121は陶器で、志野美濃焼きで、16~17世紀頃のものと思われる。SH 2から122・123が出土している。122は磁器碗、123は陶器皿である。SH 3から磁器碗（124）が出土している。16世紀頃と思われる。SH 4から土師皿（125）が出土している。煤が付着しており、灯明皿と思われる。SH 5・6から木柱片が出土している。自然科学分析の結果、SH 5出土木柱片は1630±40年、SH 6は1600±40年と判明した。SH 7から砂岩製の砥石（126）が出土している。



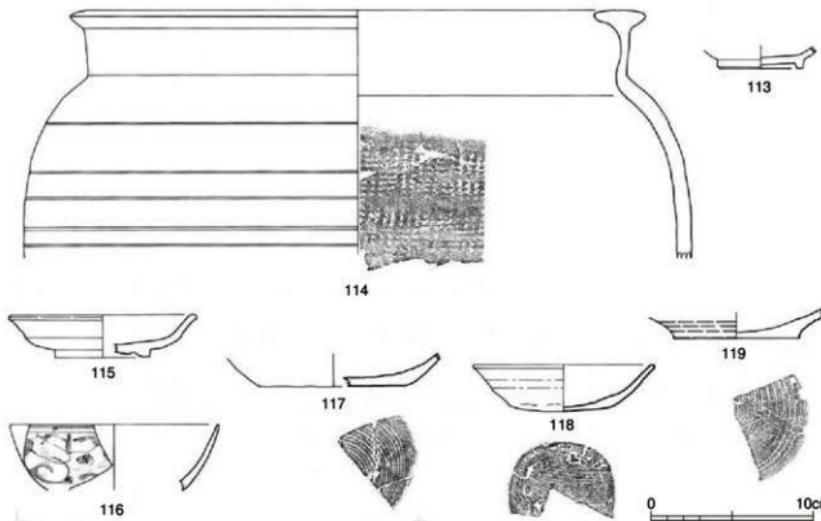
第38図 K-Ah灰以降の遺構分布図 (S=1/400)



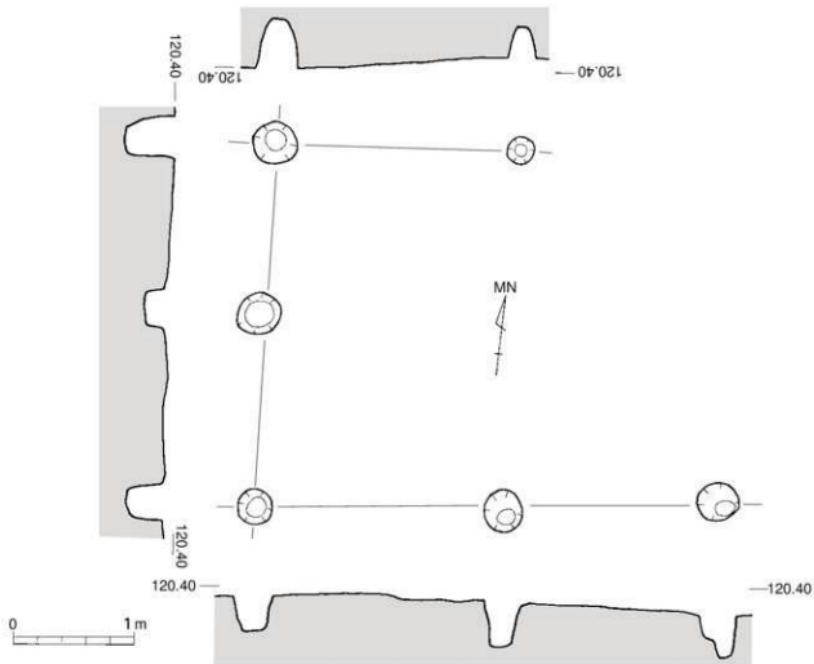
第39図 C区北西部黒色土面遺構配置図 ( $S = 1/80$ )



第40図 SB 1 実測図 ( $S = 1/80$ )



第41図 SB 1 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )



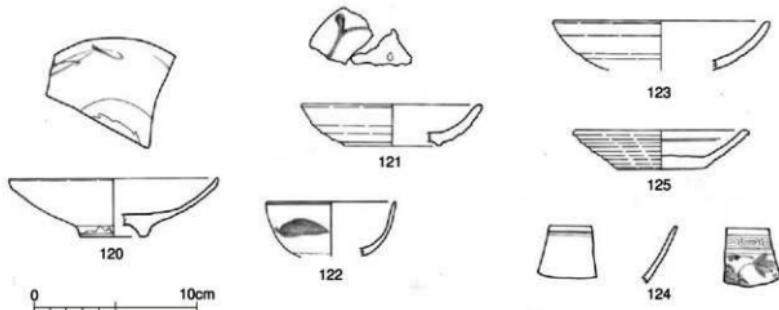
第42図 SB 2 実測図 ( $S = 1/40$ )

SC 1 (第45図)

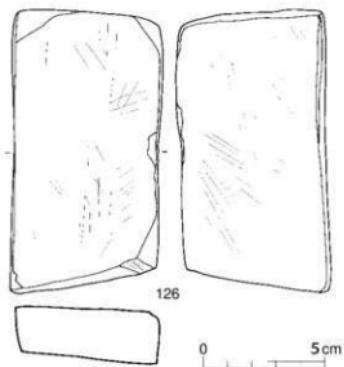
SB 1 -⑧の北西に近接し、主軸は、S-85°-Eを指す。平面プランは、整楕円形を呈する。底面は中央部をゆるやかに凹ませている。土坑の規模は、長径1.97m、短径1.24m、検出面からの深さは、最深部で0.27mを測る。

SC 2 (第45図)

SB 1 内で、SC 1 の北西側に近接し、主軸は、N-5°-Wを指し、SB 1 の主軸とほぼ平行する。平面形は、長辺の中央付近で両側から中央部にやや内湾する。北東側は柱穴痕で壁面及び底面の一部が削平されている。検出面の土坑上部に4.5~10cmの角礫を



第43図 柱穴群出土遺物実測図① ( $S = 1/3$ )



第44図 柱穴群出土遺物実測図②

含み、埋土中から陶磁器の小片が出土している。土坑の規模は、長径0.88m、短径の最大幅は0.58m、最小幅は0.48m、検出面からの深さは最深部で、0.8mを測る。

### SC 3 (第45図)

SB 1-⑩とSB 1-⑪の間に挟まれる位置にあり主軸は、N-23°-Eを指す。平面形は、隅丸長方形を呈するが、やや歪である。8~40cm大の角礫を5個含み、埋土中から陶磁器の小片が出土している。土坑の規模は、長径0.9m、短径0.48m、検出面からの最深部は0.2mを測る。

遺構に伴う遺物が2点出土している(第46図)。127は磁器碗である。豊付を除く全体に施釉されている。また豊付に砂目積痕が残る。128は磁器の小坏である。近世後半の時期と思われる。

### SX 1 (第47図)

C区北西部の黒色土面の北東端に位置し、主軸は、N-12°-Eを指す。70cm×34cm×20cmの角礫1、56cm×34cm×26cmの角礫1、38cm×30cm×26cmの角礫1、36cm×28cm×20cmの角礫1、24cm×18cm×10cmの角礫1が直線上に配置され、その周囲に4~10cmの大の多量の礫が広がっている。

遺構に伴う遺物が2点出土している。陶器製壺(第48図129・130)であるが、疊堆積層やC区北西部黒色土出土の破片と接合し、流れ込みの可能性が高い。

#### (2) 包含層出土遺物

遺物包含層からは、銭貨を始め、土師器、陶磁器等が出土している。

131は磁器、132~135は土師器である。132は壺の口縁部と思われる。133は土師器の坏で、糸切り底である。134は土師皿でヘラ切り底である。135は円盤状土器としたが、機能や用途については不明である。136~137・138は陶器製の、139・140は磁器製

#### SC 1 理上注記

- 1 黒褐色(Hue10YR3/2)～黒褐色(Hue10YR3/2)又は、暗褐色(Hue10YR3/4)の粘土、砂質土が混ざる。粘性は高いが、キメが粗く、硬質でしまがない。
- 2 黑褐色(Hue10YR2/2)に1に含まれる砂質土を粒状に少量に含む。キメが粗く、粘性も低い。

#### SC 2

- 1 黑褐色に2~3cm角のぶい黄褐色粘土のブロックを非常に多く含む。また5mm以下の褐色の粘土の粒も少量見られる。砂粒を含んでキメが粗く、また若干の粘性をもつ。硬質である。

#### SC 3

- 1 黑褐色に2~3cm角のぶい黄褐色粘土のブロックを非常に多く含む。また5mm以下の褐色の粘土の粒も少量見られる。砂粒を含んでキメが粗く、また若干の粘性をもつ。硬質である。



第45図 土坑実測図 (S=1/40)

第46図 SC 3出土遺物実測図 (S=1/3)

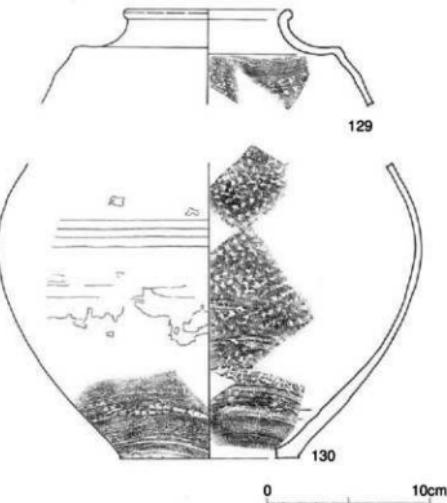


第47図 SX1 実測図 ( $S=1/40$ )

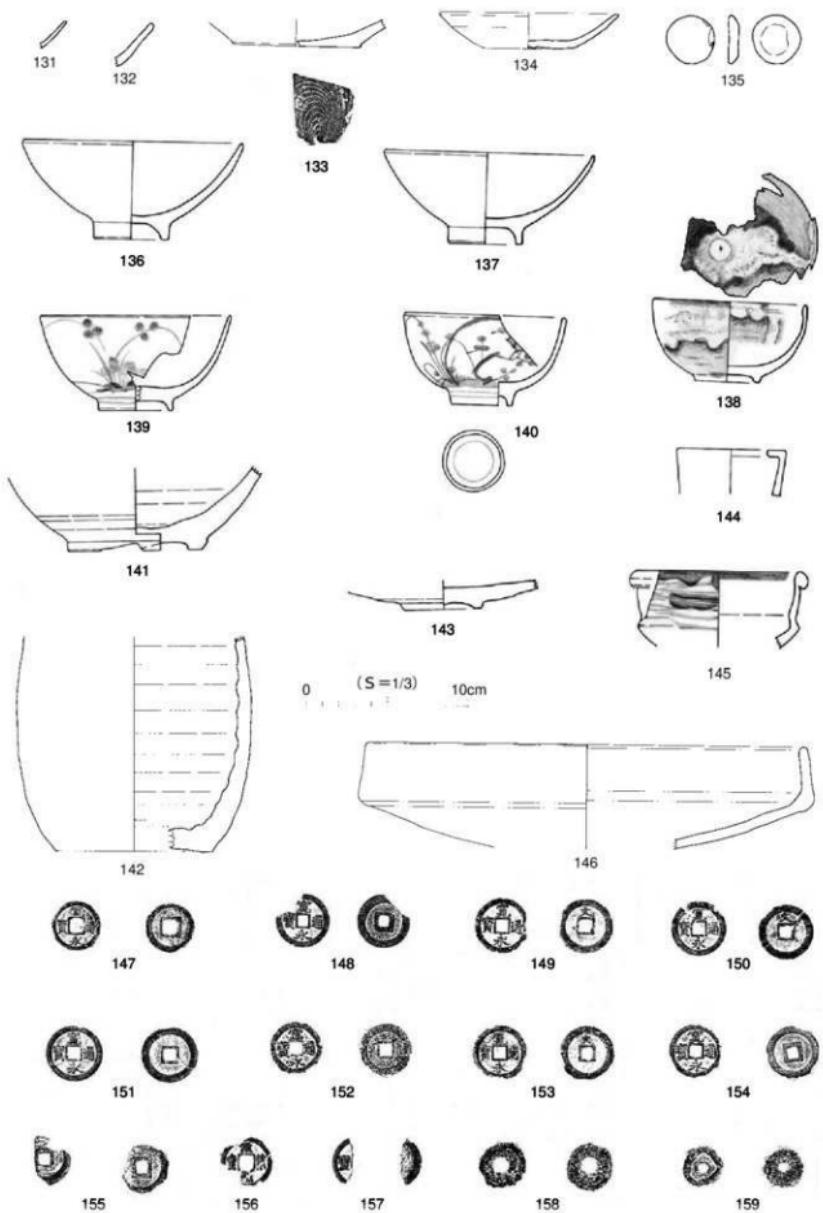
の碗である。136は、無釉の削り出し高台である。137は、貫入が見られる。138・139・140は施釉の削り出し高台である。140は18世紀後半に大量生産されたものと思われる。141・142は陶器製の瓶である。143は、陶器製の皿である。唐津焼で17世紀頃のものと思われる。144は磁器、145は陶器の香炉である。146は焙烙である。内外面に煤が付着している。

147～159は、銅銭である。147～154、156・158は寛永通宝である。149・150・153は裏面に「文」の字が確認され、寛文8(1668)年以降に鋳造されたものである。155・159は、文字が確認できない。

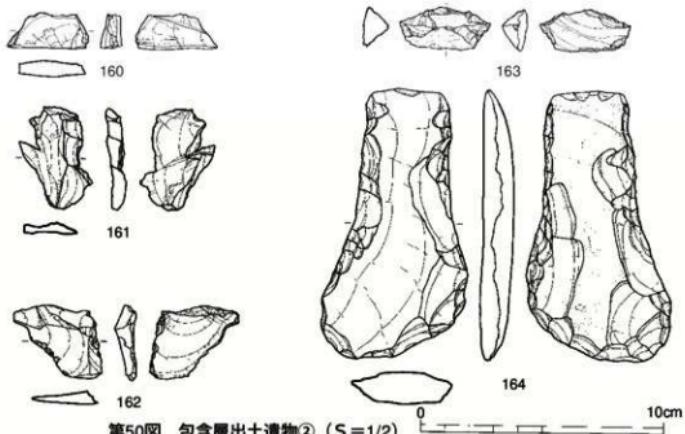
160～164(第50図)は、石器である。160・161はチャート製の、162は流紋岩製の、163は玉髓製の剥片である。同じ層で火打ち金が出土していることから火爐しに使用された火打ち石との関連も想定できる。164は、砂岩製の石斧である。



第48図 SX1 出土遺物実測図 ( $S=1/3$ )



第49図 包含層出土遺物① (S = 1/3)



第50図 包含層出土遺物② (S = 1/2)

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴及び焼成	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
113	陶器	皿	底部	SB 1		5.1	自転ヘラケズリ、脚部に施釉、削り出し台	施釉、回転ナデ、貫入あり	灰白	淡黄	焼成良好	
114	陶器	甕	口縁~脚部	SB 1			施釉、回転ヘラケズリ	脚部の単位(7本)	灰赤	灰黄褐	灰黄褐	明系(18~19C)
115	陶器	皿	口縁~底部	SB 1 (113)	(5.8)		自転ヘラケズリ、脚部に施釉、削り出し台	回転ナデ、施釉、蛇の目剥ぎ	灰白	灰白	灰白、焼成良好	
116	磁器	碗	口縁~脚部	SB 1	12.8		回転ナデ、施釉、唐草染付、施釉	回転ナデ、圓線	灰白	明灰白	明灰色土	16~17C
117	土師器	环	口縁~底部	SB 1		9.0	横方向のナデ、糸切り底	横方向のナデ	にぶい橙、褐	浅黄橙	砂粒は、含まれていない。	
118	土師器	环	口縁~底部	SB 1	11.0	(6.6)	横ナデ、自転ヘラケズリ、ヘラ削り底	回転ナデの後仕上げナデ	にぶい橙	にぶい橙	焼成良好	
119	土師器	灯明皿	口縁~底部	SB 1		7.8	回転ヘラケズリ、糸切り底	指圧痕、ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	焼成良好	スヌ付着

第15表 SB 1出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴及び焼成	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
120	磁器	皿	口縁~底部	SH1 (12.8)	3.6	(4.2)	横ナデ、自転ヘラナデ、施釉、脚部乱削(無)	回転ナデ、ナデ、施釉、蛇の目剥ぎ	明青白色	明青白色	灰白、焼成良好	
121	陶器	皿	口縁~底部	SH1 (10.9)	(5.9)	2.5	自転ナデ、脚部乱削(無)	回転ナデ、施釉、染め付け	灰白	灰白	灰白、焼成良好	15~17C 美濃燒
122	磁器	碗	口縁~底部	SH2 (8.0)			回転ナデ、染め付け、施釉	回転ナデ、施釉、貫入あり	明青色	明灰色	明白、焼成良好	
123	陶器	皿	口縁~脚部	SH2 (13.2)			横ナデ、自転ヘラケズリ、脚部乱削(無)	回転ナデ、施釉、貫入あり	灰白	灰白	灰白、焼成良好	
124	磁器	碗	口縁~脚部	SH3			自転ヘラケズリ、自転ナデ染め付け、施釉	回転ナデ	明青色	明青色	明灰白、焼成良好	16C
125	土師器	灯明皿	口縁~底部	SH4 (10.4)	5.3		自転ナデ、自転ヘラ切り	回転ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	焼成良好	スヌ付着

第16表 柱穴群出土遺物観察表

遺物番号	区	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
126	C	SH7	砥石	砂岩	11.65	6.35	2.40	322.0	

第17表 SH 7出土石器計測表

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴及び焼成	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面			
127	磁器	碗	口縁~底部	SC 3	(12.3)	(6.3)	5.8	横ナデ、回転ヘラケズリ、施釉、無(底)、輪	回転ナデ、施釉	明青白	明青白	明青白色、焼成良好	
128	陶器	小环	口縁~底部	SC 3	(5.6)			横ナデ、回転ヘラケズリ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白	灰白	灰白、焼成良好	近世後半

第18表 SC 3 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴及び焼成	備考
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
129	陶器	壺	口縁~底部	SX 1	10.0		横ナデ、回転ナデ、施釉	回転ナデ、無輪、タタキ	黄褐色、灰白	にぶい黄橙	にぶい黄橙、焼成良好	
130	陶器	壺	口縁~底部	SX 1		(11.0)	回転ヘラケズリ、施釉(一部)、タタキ	回転ナデ、無輪、タタキ	黄褐色、灰白	にぶい黄橙	にぶい黄橙、焼成良好	

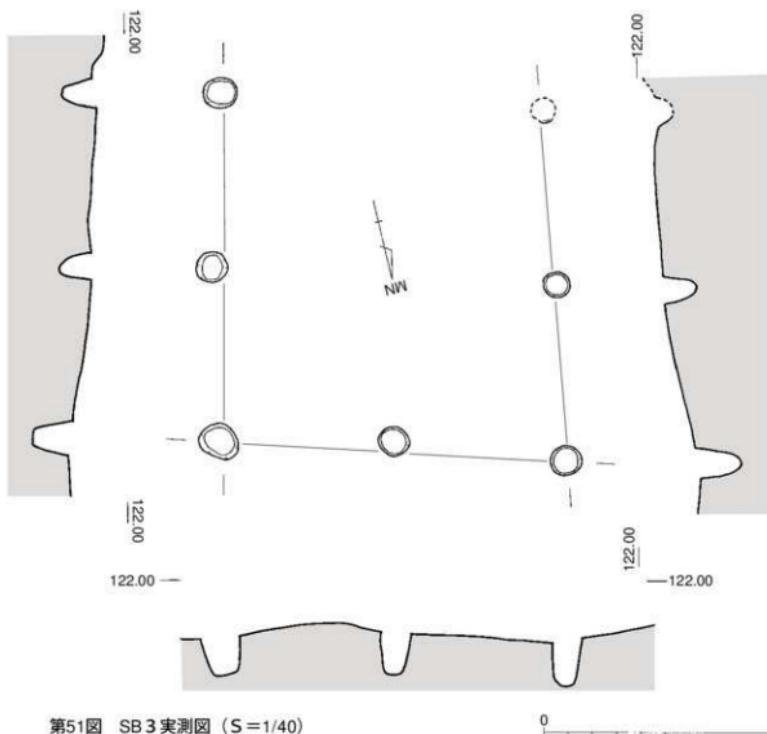
第19表 SZ 1 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴及び焼成	備考
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
131	磁器	一	C				横ナデ、回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	にぶい橙	燒成良好	傾き不明
		口縁	E 10									
132	土師器	壺	C				横ナデ、回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	にぶい橙	燒成良好	傾き不明
		口縁	E 10									
133	土師器	壺	C				回転ナデ、糸切り底	回転ナデ	にぶい橙	にぶい橙	燒成良好	
		脚~底部	E 11									
134	土師器	皿	C				横ナデ、回転ヘラケズリ、ヘア切り底	回転ナデ	浅黃橙	浅黃橙	燒成良好	
		口縁~底部	E 11									
135	土師器	円錐状土器	C	最大長	最大長	最大長	—	—	表…にぶい黄橙 裏…にぶい黄橙	表…にぶい黄橙 裏…にぶい黄橙	燒成良好	
		E 10	2.8	1.8	0.7							
136	陶器	碗	C	(13.4)	6.0	4.5	横ナデ、回転ヘラケズリ、施釉、脚乳鉢(無輪)	回転ナデ、施釉	浅黄	浅黄	灰黄、燒成良好	
		口縁~底部	E 10									
137	陶器	碗	C	12.8	5.6	4.5	横ナデ、回転ナデ、施釉、鉢、貫入り	回転ナデ、施釉、鉢、貫入り	灰オリーブ	灰オリーブ	灰黄、燒成良好	
		口縁~底部	E 10									
138	陶器	碗	C	(9.3)	4.0	4.9	横ナデ、回転ヘラケズリ、施釉、割り出し鉢	回転ナデ、施釉、割り出し鉢	明緑灰、極暗赤褐	明緑灰、極暗赤褐	明褐灰、燒成良好	
		口縁~底部	E 10									
139	磁器	碗	C	(11.7)	5.8	(4.5)	横ナデ、回転ヘラケズリ、施釉、割り出し鉢	回転ナデ、施釉、鉢の目剥き	明青白	明青白	灰白、燒成良好	
		口縁~底部	E 10									
140	磁器	碗	C	(9.8)	5.5	3.8	横ナデ、回転ヘラケズリ、施釉、脚鉢	回転ナデ、施釉	明青白	明青白	灰白、燒成良好	18 C 後半
		口縁~底部	E 10									
141	陶器	瓶	C				目ナデ、回転ヘラケズリ、割り出し鉢	回転ナデ	にぶい赤褐	灰褐	燒成良好	
		脚~底部	E 9									
142	陶器	瓶	C				ケズリ	回転ナデ	灰褐、明赤褐	明赤褐	2 mm以下の黒色粒を多く含む。	
		脚~底部	E 10									
143	陶器	皿	C				回転ナデ、施釉	ていねいなナデ、施釉	灰白	灰白	にぶい黄橙、燒成良好	17 C、 唐津
		脚~底部	E 10									
144	磁器	香炉	C	(6.6)			ナデ、回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉、無輪	淡緑	灰白	灰白、燒成良好	
		口縁~底部	E 10									
145	陶器	香炉	C	(10.1)			横ナデ、回転ヘラケズリ、ケズリ、施釉、網目	回転ナデ	褐	褐	にぶい赤褐、燒成良好	
		口縁~底部	E 10									
146	陶器	焰烙	C	(26.7)			横ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	にぶい橙	橙	燒成良好	スス付着
		口縁~底部	E 10									

第20表 包含層出土遺物観察表

遺物番号	区	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
160	C	E 11	剥片	チャート	1.40	3.35	0.85	4.8	
161	C	E 10	剥片	チャート	4.15	3.05	0.90	5.2	
162	C	E 10	剥片	流紋岩	3.00	3.65	0.90	6.5	
163	C	E 11	剥片	玉髓	1.70	3.75	1.00	5.5	
164	C	E 10	石斧	砂岩	11.10	6.00	1.35	111.6	

第21表 包含層出土石器計測表



第51図 SB 3 実測図 ( $S=1/40$ )

0 2m

### 3 その他の遺構

#### SB 3 (第51図)

A調査区南端に位置し、クロボク面で検出された。南側の柱穴は調査区南側に隣接して走る町道に一部削平されており、南方に展開する可能性もある。構造は、現段階では桁行2間、梁行2間の側柱建物であるが、南部の中央の柱穴は、検出されなかった。棟方位は、N-15°-Eで南北棟である。建物の規模は、桁行2.8~2.9mで、柱間は、1.4mを測る。梁行きは、北側柱で2.8mを測る。柱穴の掘形は0.2~0.24mのほぼ円形を呈する。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC 4 (第52図)

A調査区南西側に位置し、K-Ah面で検出された。主軸方位は、N-35°-Wを指し、平面は変形隅丸長方形を呈する。壁面をほぼ垂直に掘り込み、底面はほぼ平坦である。土坑の規模は、長径0.88m、短径

0.57m、検出面からの深さ0.38mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC 5 (第52図)

A調査区西侧に位置し、K-Ah面で検出された。土坑5基が集中する区域の一番西侧に位置する。主軸方位はN-4°-Eを指し、変形楕円形を呈する。底面は、中央部がやや窪んでおり、南半分が0.04m低い2段構造である。埋土は上下2層からなり、上層は黒色土、下層は黒褐色土で、上層ががやや固くしまっている。土坑の規模は、長径0.98m、短径0.63m、検出面からの深さは最長0.16m、最短0.12mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC 6 (第52図)

SC 5 のやや南東側に位置し、K-Ah面で検出された。

主軸方位はN-17°-Eを指し、不定形を呈す。底面

は、東西方向の断面でみると中央部で凹んでいるが、南北の壁面は急角度で掘り込まれている。埋土は、上下2層で黒色土である。下層より上層がやや固くしまっている。土坑の規模は、長径0.99m、短径0.80m、検出面からの深さ0.18mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC7（第52図）

SC6のほぼ東側に位置し、K-Ah面で検出された。

主軸方位は、N-22°-Wを指し、北側がやや鋭角に尖る楕円形を呈す。壁面をほぼ垂直に掘り込む。底面はほぼ平坦であるが、南北方向でみると、両壁面から中央部にかけてゆるやかに凹む形になっている。埋土は、微妙に異なる黒褐色土と黒色土の3層である。底部の70%を占める第3層は、砂質土が含まれる。土坑の規模は、長径1.09m、短径0.69m、検出面からの深さ0.18mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC8（第52図）

SC6の中心とSC7の中心を結んだ東側延長線上に位置し、SC7～SC8間の距離はSC6～SC7間とほぼ同じ間隔である。K-Ah面で検出された。ほぼ円形を呈しており、主軸方位は確定できない。壁面をほぼ垂直に掘り込み、南東側半分がやや深くなる2段構造の底面となっている。埋土は3層に分層され、上層が黒褐色土で中・下層が黒色土である。中層土に含まれる白色粒子が上層土より少なく、下層土より上・中層土がしまっている。土坑の規模は、長径0.84m、短径0.74m、検出面からの深さは、最長0.23m、最短0.19mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC9（第52図）

SC6のほぼ北側に位置し、K-Ah面で検出された。

主軸方位は、N-12°-Eを指し、本来の土坑の形は楕円形と思われるが、土坑の基礎地盤に水性堆積層が見られるため、一部崩落し、歪な形状になったと思われる。底面は段状を呈し、中央部が盛り上がっており、埋土は3層に分層できるが、黒色及び黒褐色土である。土坑の規模は、長径1.08m、短径0.78m、検出面からの深さは、最長0.21m、最短0.16mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC10（第53図）

B区北側、K-Ah残存域のクロボク面で検出された。主軸方位はN-75°-Wを指し、不定形土坑である。埋土は黒色土で、砂粒を少量含む。土坑の規模は、長径1.31m、短径1.05m、検出面からの深さ0.30mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していないが、床面・埋土中・検出面から尾鈴酸性岩製礫が4個出土している。

#### SC11（第53図）

B区北側、K-Ah残存域のクロボク面で検出され、SC10のほぼ東に位置する。主軸方位は、N-63°-Wを指し、不定形を呈す。壁面は3方向で鋭角に掘り込み、1方向で中心に向かって緩やかに掘り込んでいる。土坑の規模は、長径0.91m、短径0.7m、検出面からの深さ0.28mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していないが、埋土中から尾鈴酸性岩製角礫が2個出土している。

#### SC12（第53図）

B区K-Ah残存域最南端のクロボク面で検出された。主軸方位はN-20°-Eと思われる。土坑南半は削平されている。形状は明確でないが、楕円形と思われ、底面はほぼ平坦である。土坑の規模は長径約1.3m、短径0.93m、検出面からの深さ0.17mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していないが、埋土中より尾鈴酸性岩製で8cm大の礫が1個出土している。

#### SC13（第53図）

B区東側に位置し、K-Ah残存域南側のMBO面で検出された。主軸方位は、N-18°-Eを指し、形状は変形楕円形を呈す。埋土は、黒色土にK-Ah粒・砂粒を僅かに含む。土坑の規模は、長径0.67m、短径0.57m、検出面からの深さ0.51mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC14（第53図）

B区中央部からやや南東側に位置し、MBO面で検出された。主軸方位は、N-43°-Eを指し、形状は、南東側に緩やかな斜面を有する変形楕円形である。

底面はほぼ円形で平坦である。埋土は黒色土で、K-Ah粒や砂粒、微小の炭化物を少量含む。土坑の規模は、長径0.85m、短径0.72m、検出面からの深さ0.29mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC15（第53図）

B区南東側に位置し、MBO面で検出された。主軸方位は、N-70°-Eを指すが、土層断面は検出時に設定した方位で計測している。形状は、円形に近い楕円形を呈す。壁面をほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦である。埋土はK-Ah粒を僅かに含む。土坑の規模は、長径0.9m、短径0.77m、検出面からの深さ最長0.35m、最短0.30mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC16（第54図）

B区南東側、SC15のやや北東側に位置し、MBO面で検出された。主軸方位はN-65°-Wを指し、変形楕円形を呈す。埋土は黒色で、砂粒を含み、SC14の埋土に酷似している。土坑の規模は、長径0.92m、短径0.77m、検出面からの深さ0.62mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していないが、0.07～0.1m大の尾鉤酸性岩製礫が4個出土している。

#### SC17（第54図）

B区南端に位置し、MBO面で検出された。ほぼ円形を呈し、主軸方位は確定できない。壁面をほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦を呈しており、0.06cm差の段状になっている。土坑の埋土は黒色でK-Ah粒・砂粒を僅かに含む。土坑の規模は、長径・短径ともに0.64mで、検出面からの深さ最長0.54m、最短0.48mを測る。

陶器1点が埋土中から出土している。165は、鉢である。内外面共に施釉され、一部貫入が見られる。

#### SC18（第54図）

B区南側に位置し、MBO面で検出された。ほぼ円形を呈し、主軸方位は、N-60°-Wを指す。底面はほぼ平坦で、埋土は、擾乱土で埋まり、砂利や礫が詰まっていた。壁に褐色の粘土が巡るように見られたが、一部削平されていた。土坑の規模は、長径0.98m、短径0.94m、検出面からの深さ最長0.12m、最短0.06mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC19（第54図）

B区南側のMBO面で検出され、SC18に近接している。主軸方位は、N-60°-Wを指す。楕円形に近いが、一部削平を受けている。SC18同様、埋土は、擾乱土で埋まり、砂利や礫が詰まっていた。その周囲は褐色の粘土が取り巻くように配され、さらに外側に粘性の強い黒色土が取り巻いていた。底面の掘り形は凹凸が見られたが、粒子の大きい黒色土で平坦に整えられていた。土坑の規模は、長径1.00m、短径0.88m、検出面からの深さ0.10mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土しなかったが、0.1～0.3m大の尾鉤酸性岩製の礫が数個出土している。

#### SC20（第54図）

B区中央部に位置し、MBO面で検出された。主軸方位は、N-20°-Eを指す。変形の隅丸方形である。壁面をほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦であるが、中央に円形の掘り込みがある。埋土は、黒褐色～暗褐色を呈し、砂粒を含んでややキメが粗い。土坑の規模は、長径0.95m、短径0.60m、検出面からの深さは、底面で0.56m、中央の円形坑で0.66mを測る。

遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SC21（第54図）

B区南側に位置し、MBO面で検出された。主軸方位は、N-70°-Wを指し、ほぼ円形を呈す。底面は平坦である。埋土は、黒色土でK-Ah粒を少量含む。

土坑の規模は、長径0.62m、短径0.57m、検出面からの深さ0.52mを測る。

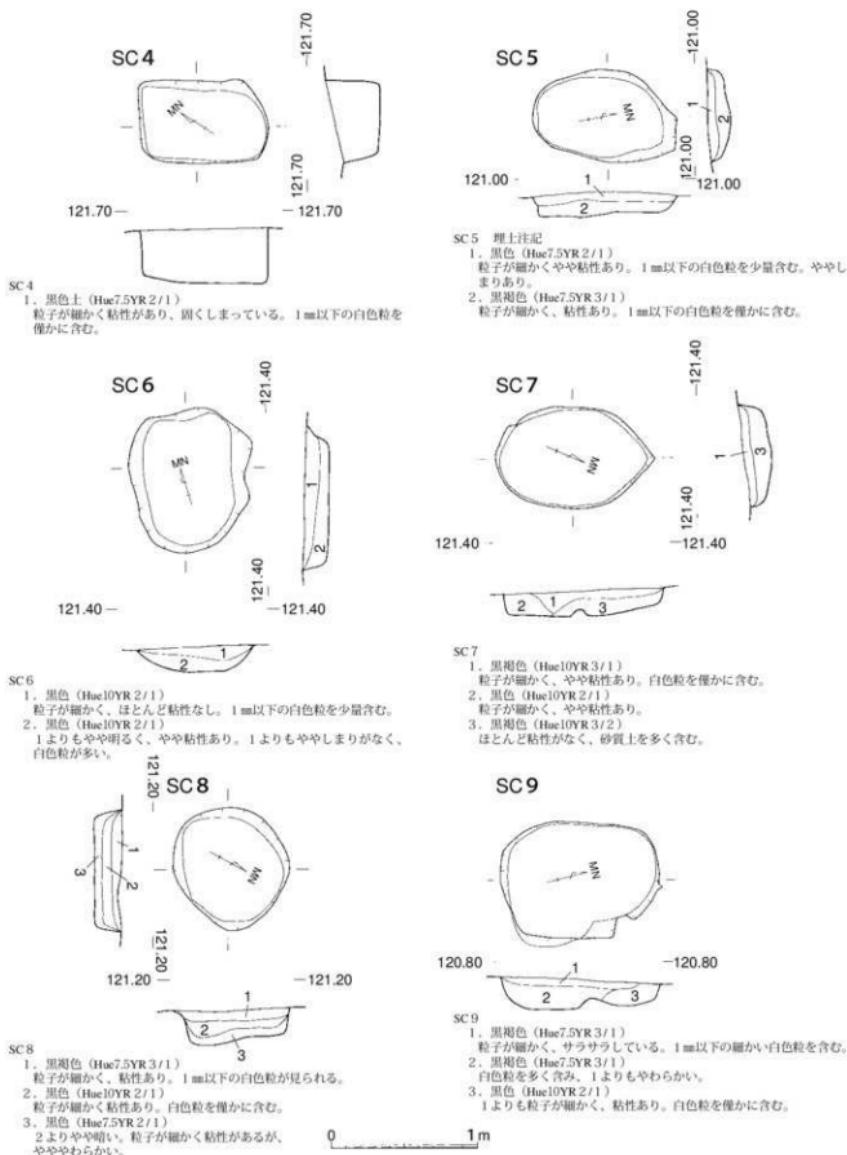
遺構に共伴する遺物は出土していない。

#### SE1（第55図）

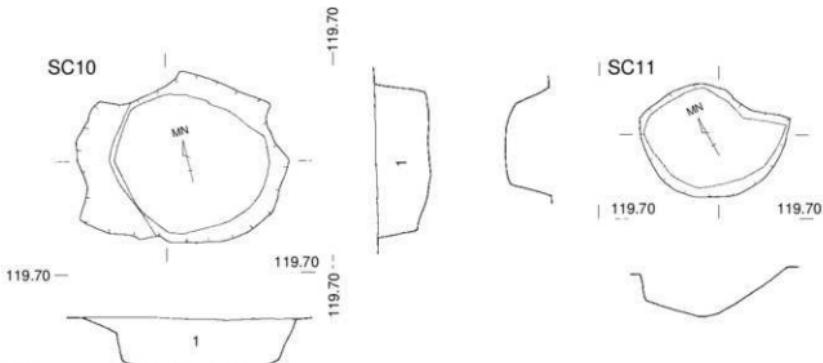
C区南側K-Ah残存域のK-Ah面で検出された。

南東側はクロボク面からの掘り込みであったが検出できず、削平によって消失している。北西側は、徐々に浅くなり自然に消失している。溝の規模は、全長（検出分）約12.8m、検出面での幅約0.5～0.7m、検出面からの深さ約0.15～0.30mである。断面形は、逆台形状である。

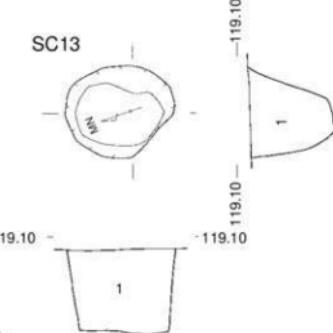
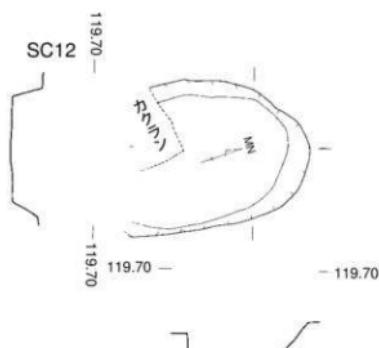
遺構に共伴する遺物は、擂鉢1点（166）、陶器碗1点（167）が出土している。166は、擂鉢の底部で



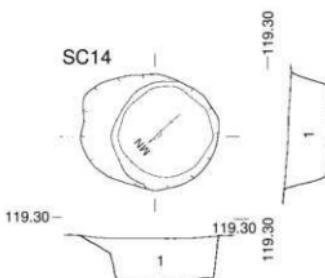
第52図 土坑実測図① (SC 4~9) (S=1/40)



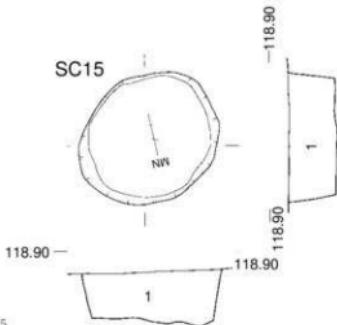
SC10  
1. 黒色 (Hucl0YR1.7/1)  
砂粒を含み、ややきめが粗い。やや粘性あり。



SC13  
1. 黒色 (Hucl0YR2/1)  
0.1~2ミリのK-Ah粒を僅かに含む。砂粒を少量含むが、きめ細かく粘性あり。



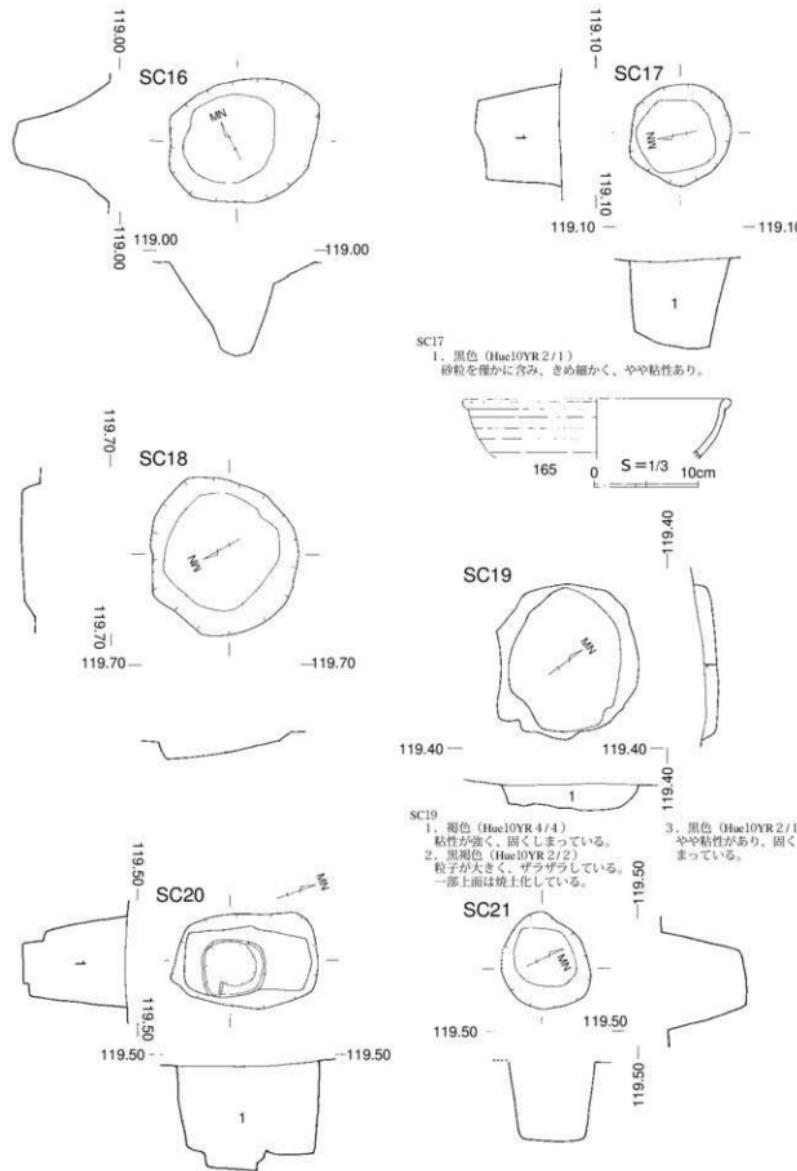
SC14  
1. 黒色 (Hucl0YR2/1)  
砂粒を含むが、きめ細かくやや粘性をもつ。2~3mm大の炭化物片を少量含む。



SC15  
1. 黒色 (Hucl0YR2/1)  
0.1~2ミリのK-Ah粒を僅かに含む。

0 1m

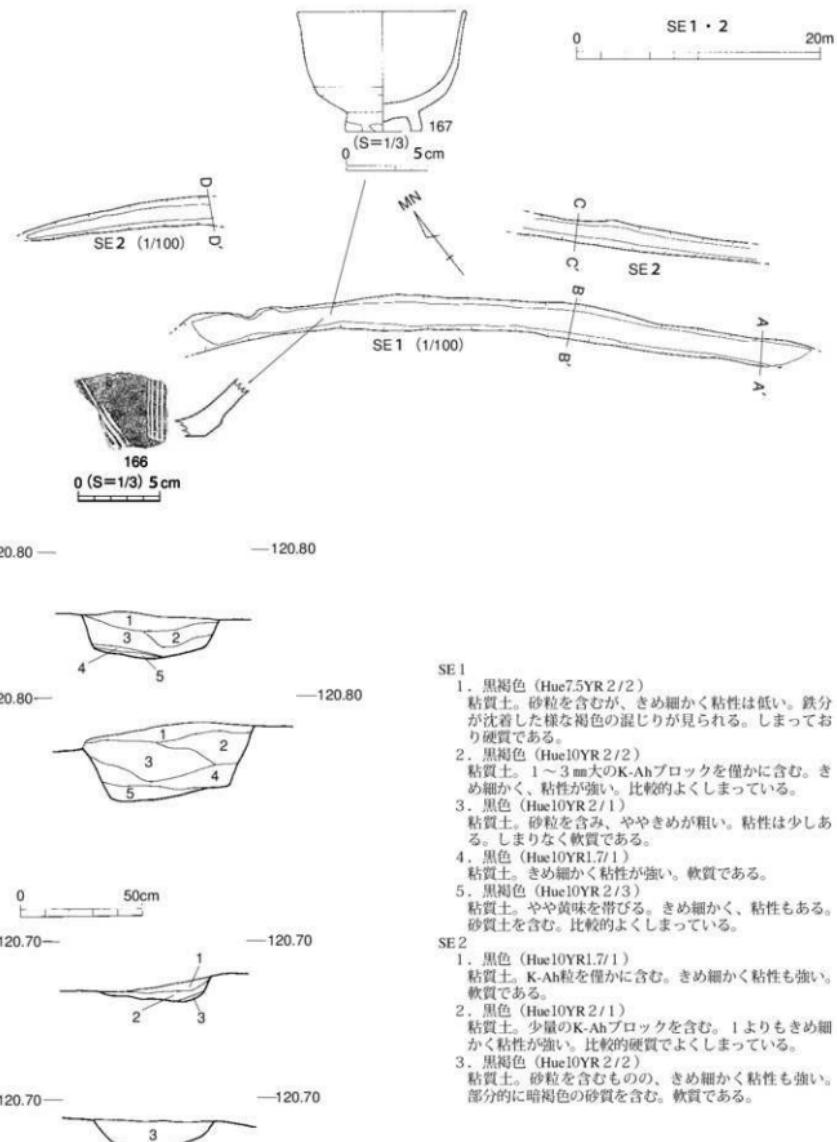
第53図 土坑実測図② (SC10~15) (S=1/40)



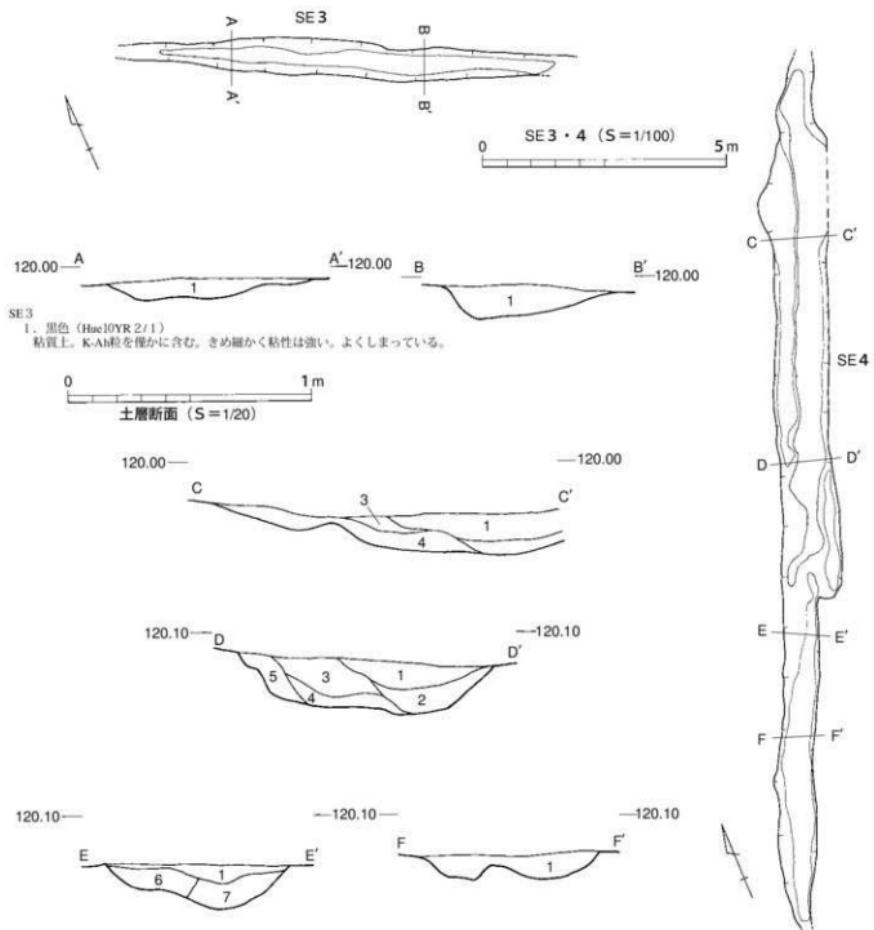
SC20  
1. 黒色 (Hue10YR 2/2) ~ 暗褐色 (Hue10YR 3/3)  
砂粒を含んでややきめが粗い。比較的粘性が強い。

0 1m

第54図 土坑実測図③ (SC16~21) ( $S=1/40$ )



第55図 溝状遺構実測図① (SE1・2) (S=1/100)



第56図 溝状遺構実測図② (SE 3 + 4) ( $S = 1/100$ ) 土層断面図 ( $S = 1/20$ )

SE 4

1. 黒色 (Hue10YR 2/1) 粘質土。きめ細かく粘性もあるが、サラサラしている。軟質であるがしまりはよい。
2. 黒色 (Hue10YR 2/1) 粘質土。1層よりもやや茶色味が強い。きめ細かく粘性も強く、しまりもよい。僅かにK-Ah粒を含む。
3. 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 粘質土。きめ細かく砂粒を含み、ザラザラしている。軟質だがしまりは良い。
4. 黑褐色 (Hue10YR 2/2) ~黒色 (Hue10YR 2/1) 粘質土。きめ細かく粘性も強い。3層よりもしまりがよく、硬質である。K-Ah粒を僅かに含む。
5. 黑褐色 (Hue10YR 2/2) 粘質土。若干砂粒を含み、ザラザラしている。粘質あり。軟質だがしまりはよい。K-Ah粒を少量含む。
6. 黑色 (Hue10YR 2/1) 粘質土。5 mm ~ 1 cm 大のK-Ahブロック、0.1 ~ 2 mm の細かい粒を多く含む。ややきめ粗く、粘性は低い。軟質だが、しまりは良い。
7. 黒色 (Hue10YR 2/1) 粘質土。1 ~ 3 cm 大のK-Ahブロックを含む。

内面は横方向のナデ調整の後、5条以上の擗目を施す。胎土は、2mm以下の燈色粒、灰白粒、白色粒を多く含む。中世（14C前後）の備前焼と思われる。

167は、内面は施釉し、外面は掛け流しているために外面腰部から高台内面が露胎している。高台はやや高く、高台内中央部は突き出ている。

#### SE 2（第55図）

C区南側のK-Ah残存域のK-Ah面で検出されたが、SE 1と同様に、クロボク面での掘り込みであったため、K-Ahで検出した際一部が削平によって消失している。溝の規模は、全長（検出分）約14.7m、検出面での幅約0.4～0.6m、検出面からの深さ約0.1mである。遺物は出土していない。

#### SE 3（第56図）

C区東側のK-Ah面で検出された。SE 1同様クロボク面での掘り込みであったらしく、消失している。

溝の規模は、全長（検出分）約9m、検出面での幅約0.5～0.7m、検出面からの深さ約0.2mである。遺物は出土していない。

#### SE 4（第56図）

C区東側にK-Ah面で検出された。北東～南西方に向て流れおり、クロボク面での掘り込みであつたらしく、上流下流共に消失している。溝の規模は、全長（検出分）約17.5m、検出面での幅約0.7～1.2m、検出面からの深さ約0.1～0.2mである。断面形は、中央部に高まりが見られる箇所もある。

#### （1）小結

検出面が、MBO、K-Ah、クロボク面と異なるが、埋土や出土遺物により、近世以降の遺構と思われる。A区検出の土坑（SC 4～9）は遺物が出土していないが、固く締まっている埋土の状態から他の遺構より古い可能性もある。

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴及び焼成	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面			
165	陶器	鉢	口縁～底部	SC 17	(14.9)		回転ナデ、回転ヘラグスリ、施釉、貫入あり	回転ナデ、施釉、貫入あり	灰オリーブ	褐灰	焼成良好		
166	陶器	壺	底部	SE 1			横ナデ、ナデ、指圧痕	横方向ナデ、ナデ	灰褐	にぶい赤褐	焼成良好	14C 備前	
167	陶器	碗	口縁～底部	SE 1	12.5	4.6	7.4	施釉（一部無施）、回転ナデ、割り出し高台	回転ナデ、施釉	灰黄褐、灰	灰黄褐、灰	焼成良好、にぶい褐	

第22表 土坑・溝状遺構出土遺物観察表

## 第6節 K-Ah降灰以降の出土遺物

### 1 磺流れ込み堆積層出土遺物

弥生時代から中世にかけての遺構は検出されていない。遺跡の環境の中で述べたように、数箇所で扇状地特有の疊の堆積状況が見られた。特にC区においては、弥生時代以降にまとまった疊が少なくとも2度にわたって流れ込んだ様子が、地層断面から見られる（第37図）。疊流れ込み堆積層から弥生土器～近世の陶器及び石器が至る所で混在して出土した。その内、本遺跡出土の弥生～中世の遺物約550点の内約520点は、C区に集中している。なお、出土量が僅かであるため、B・D区出土弥生土器、B区出土土師器についてもまとめて報告する。

#### 弥生土器

疊堆積層及び層上から弥生土器が出土した。主に口縁部と底部の特徴を中心に記述した。

##### (1) 壺（第59・60図168～187）

168から187は壺である。168・169は、舌状に丸い口唇部をもち、緩やかにS字状に屈曲する口縁部、口縁部から底部まで緩やかに膨らむ胴部を有し、窪みをもたない平底である。共に外面にスヌが付着しており、169は火熱による変色が見られる。170・171・172はともに舌状口唇を有するが、171は先細りが見られる点で他の2点とやや異なる。172は外面の口縁部から胴部にかけてスヌが付着しており、内部の胴部は黒く変色している。

173は、平面状口唇を有する。口唇部を形作った後指で平面状に調整している。外面全体にスヌが付着している。

174～182は平底である。174・175・176は、胴部のラインから自然に底部に達するタイプである。177・178は、胴部からのラインが底部付近でやや角度を変えて達するタイプである。179は、底部の端部がやや張り出すタイプで、180は、底部の端部が張り出し、くびれ状になるタイプである。また、178・179・180は、底部にはっきりとした指頭痕が見られる点で共通している。181は、胴部からのラインが底部付近で角度を変えるタイプであるが、底部径が小さい。外面胴部から底部にかけてスヌが付着しており、一部火熱による変色が見られ、内面胴

部には黒班が見られる。182は、胴部から自然に底部に達するタイプだが、底部径が小さい。

183～186は、上げ底である。183は、表面全体が風化しており、内面底部には黒班が見られる。184は、胴部内面に一部黒班がみられる。底部端部は摩耗しており、原形をとどめていない。185は、底部に指頭圧痕がはっきりと残っている。

187は、丸底である。外面全体に指頭痕が見られ、一部スヌが付着している。

##### (2) 壺（第60図188～202）

#### 口縁部形態

188は小型壺である。直口縁で平底である。全体的に風化しているが、外面胴部及び内面口縁部に黒班が見られる。ほぼ完形である。189・190は舌状に丸い口唇部をもっている。189は小さく外反する直口壺であり、190はゆるやかに外反するタイプである。191・192は、口唇部が平面状で、共に傾きは不明である。193～195は、複合口縁壺である。櫛描波状文で頸部には刻み目突帯を有している。196は直口壺で平面状口唇を有するタイプである。頸部に刻み目突帯を有する。197は刻み目突帯で、198は、櫛描き波状文が施された複合口縁壺の破片である。

199・200・201は平底である。199は、断面でみると底部の端部が丸みを帯びている。風化が著しいため、調整不明である。200は、外面胴部に指頭痕が見られる。201は内外面に指頭痕が見られ、外面胴部・底部が黒く変色している。202は、外面に黒班が見られる。全体的に風化している。

##### (3) 鉢（第60図203・第61図204）

203・204は鉢である。203は平底である。外面は風化気味であるが、内外面共に指頭痕が見られる。204は上げ底である。内外面に指頭痕・黒班が見られる。

##### (4) 高坏（第61図205～209）

205・206は、坏部の口縁部と思われる。傾きは不明である。205の外面口唇部に一条の沈線が見られる。208は脚部である。207は、充填部と思われる。209は、裾部で端部が張り出している。内外面共に丁寧なナデである。

### (5) B・D区出土の弥生土器 (第61図210・211)

210は、B区出土の直口壺である。小型壺と思われる。211は、D区出土の直口壺である。頸部がゆるやかに外反する。

### 中世の遺物 (第61図212~224)

断続的な縦の流れ込みや自然流水の影響で層が特定できない遺物も見られた。

### 土師器 (第61図212~220)

环と皿が出土している。环と皿は、おおまかに

环……器高が2cmを超えるもの。

皿……器高が2cm未満のもの。

として分類した。なお、口縁部欠損・底部欠損の遺物は、器厚及び底面の大きさで分類した。糸切り底、ヘラ切り底による分類は、数量が少ないが、

糸切り底……A類

ヘラ切り底……B類

とした。

### 坏 (第61図212~216)

212~216は坏とした。212~216は、B類である。

212・214・216は、内外面共に回転ヘラケズリであるが、215は、回転ナデと思われる。底部が小さい点が特徴的である。216は、外面がヘラケズリで、内面は回転ナデと思われる。

### 皿 (第61図217~219)

217~219は、皿とした。3点共に口縁部が欠損している。外面の調整は、回転ヘラケズリと思われる。217は、灯明皿と思われる。

### B区出土土師器 (第61図220)

220はB区出土土師器で、A類である。口縁部が欠損しているが、底部の大きさから坏とした。内外面共に回転ナデである。

### 須恵器 (第61図221・222)

C区南西側の縦の堆積層脇から出土した。東播系の須恵器である。内面に茶褐色に変色した部分が見られる。本遺跡での須恵器の出土は、この2点のみである。捏鉢と思われる。口縁部の形態から中世後半と思われる。

### 磁器 (第61図223・224)

中世後半の中国製と思われる青磁が2点出土している。

### 石器 (第62・63図225~240)

225は流紋岩製である。風化しており、表裏共に磨痕が確認できないが、正面上面の面が226・227と同様、均一に整えられており、厚さが均一であることから砥石と思われる。226・228は砂岩製、227は緑色凝灰岩製の砥石である。

229~234は石鐵である。229は、三角形の抉りがあり、黒曜石製である。腰岳産と思われる。231は小型で平基の石鐵である。桑ノ木津留産黒曜石と思われる。230・232・233はチャート製である。230・232は平基、233は凹基である。234は、チャート製の磨製石鐵である。先端に一部破損が見られるが、表裏共に磨痕が見られる。

235は磨製石庖丁である。穿孔がなく両側縁に抉りがはいる。背部・刃部共に弧状を呈し、刃部は打ち欠いた後に研磨を施している。緑色凝灰岩製である。

236は流紋岩製の二次加工剥片、237は尾鈴酸性岩製のスクレイパーである。

### 近世陶磁器 (第64図241~254)

241~244は陶器碗、245~248は磁器碗である。241は見込蛇ノ目釉剥ぎで、疊付から高台内面が無釉である。242は内面全体及び外面腰部にかけて黒色の鉄釉を施す天目茶碗で、近世前半の製品と思われる。243は、内面全体及び外面口縁部から腰部にかけて施釉されている。低い高台で、内面見込に砂目積痕が残る。244は京焼風陶器で、内面見込に簡略化された棲闇山水文を染め付ける。近世前半と思われる。245は染付碗で、外面に梅花木、高台脇に團線、高台内面に銘を染め付ける。18世紀代の製品である。246は陶器碗で施釉されているが、一部赤褐色化しており、疊付のみ無釉である。247は染付碗で、内面口縁に梅花、外面胴部に鍋削文を施す。17世紀の肥前系と思われる。248は見込蛇ノ目釉剥ぎ碗で、外面胴部に菊花、高台脇・高台外面に團線を染め付ける。249は磁器で、見込蛇ノ目釉剥ぎ皿である。内面に松葉を染め付ける。外面口縁から高台外にかけて施釉されているが、高台脇から高台外にかけては一部露胎している。250は近世前半の大皿で、内面に鉄顔料で文様を施す。251は、内面に

白泥で施釉した後に鉄釉を施している。17世紀後半と思われる。252は内面全体に施釉し、外面は口縁に施釉し、掛け流している。近世前半の唐津焼である。253は磁器皿で、内外面に施釉されている。内面に青波波文、見込に圓線及び文様、外面口縁に1条の圓線を染め付ける。近世前半と思われる。254は擂鉢で、擂目は6条と思われる。

## 2 その他の出土遺物

表土や擾乱土層からもたくさんの遺物が出土している。その内陶磁器37点、石器5点を図化した。

### 陶磁器（第65・66図255～291）

255～258は、蓋である。255は陶器で、薩摩焼と思われる。256～258は磁器である。258は、外面に仙芝福寿文、撮部内及び内面に文様を染め付ける。259～260は、陶器碗である。261・262は磁器碗である。261は朝顔形碗で、見込に2条の圓線、見込中央に模様を染め付ける。262は、外面にコンニャク印版の菊花文を染め付ける。263は、小坏である。外面に鎬削文が施されている。264は、京焼風陶器で内面に樓閣山水文を染め付ける。近世前半の製品である。265～270は磁器碗である。265は見込蛇ノ目釉剥ぎされ、近世後半と思われる。266は端反り碗で19世紀前半の製品である。267は磁器で、外面に桐文を染め付ける。268は外面に丸文を染め付ける。見込中央に円形の突起物が見られる。269は、磁器製の筒形碗である。270は、端反り碗で19世紀前半の製品である。271は中世～近世前半の陶器碗と思われる。内面に樓閣山水文を染め付け、低い高台で、砂目積痕を残す。272は京焼風陶器皿の底部で、近世前半の製品と思われる。高台内に「清風」

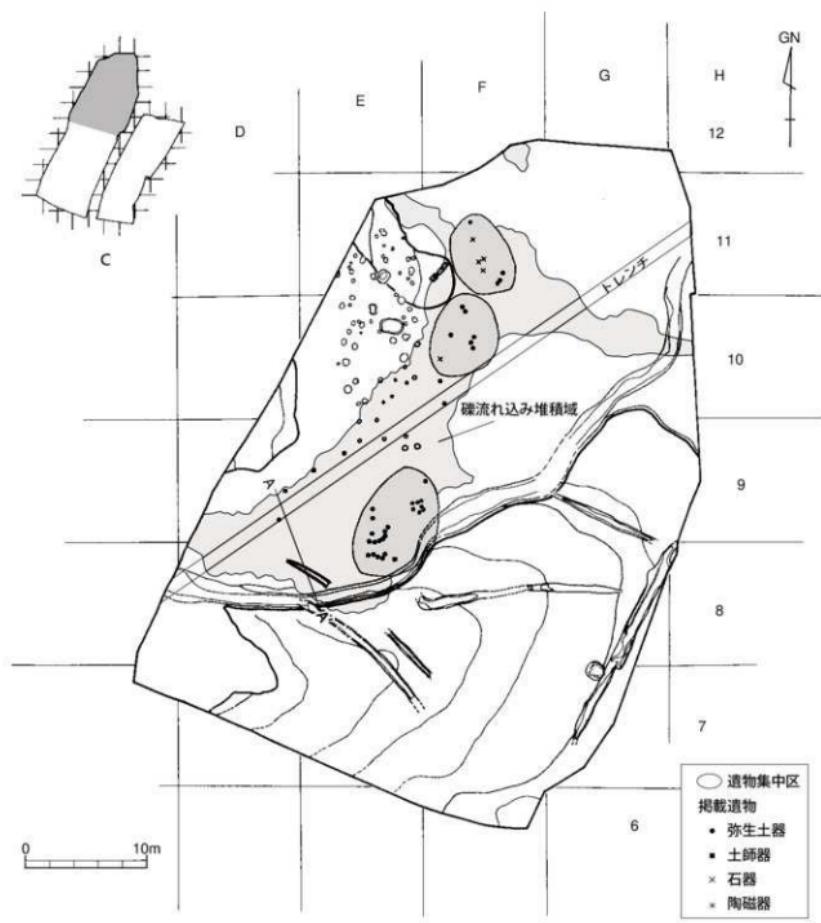
銘を染め付ける。273は溝縁皿で、外面は釉を掛け流している。近世前半の製品と思われる。274は磁器製小坏で、近世前半の製品と思われる。275は仏飯器、276は香炉、277は燈芯である。278は雪平鍋で、煤が付着している。279・281は、瓶である。280・282は擂鉢である。擂目は、280が7条、282が15条である。283は近世前半の志野美濃焼、284は磁器の底部であるが、器種は不明である。286・287は雪平鍋で、煤が付着している。285・288・289は同一器種と思われる。同一個体の可能性もある。290・291は陶器である。290は器種が不明であるが、外面に雷文、蓮葉文、四葉文のスタンプ文が施されている。

### 石器（第67図292～296）

292・293は、黒曜石製の小型のスクレイパーである。日東系の黒曜石と思われる。294は、チャート製の石礫である。基部に凹形の抉りが入る。295は二次加工剥片、296は剥片で共に流紋岩製である。これらの石器は、いずれもB区から出土している。

### 3 小結

本遺跡出土の弥生時代～中世の遺物のうち弥生土器は、かなりの点数であるにも関わらず、2度の礫の流れ込み堆積層が見られるC区に集中し、他の区域では僅かである。しかもC区の礫流れ込み堆積層内やその直上の黒色層からの出土が圧倒的に多く、K-Ah残存区域からはほとんど出土していない。また、土器の殆どが摩耗している。さらに、石礫や石庖丁にまじって新しい時期の砥石等も含まれている。これらの点から本遺跡西部に位置する丘陵部からの流れ込みの可能性が高い。



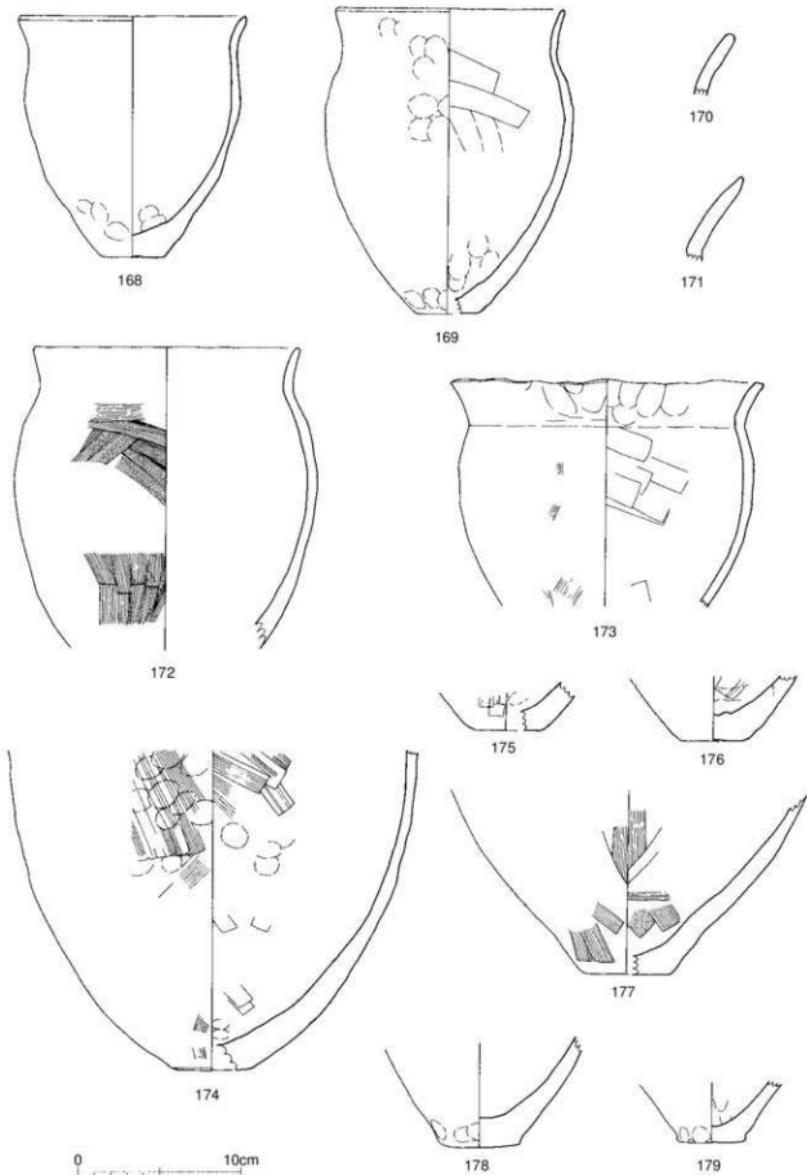
第57図 碓流れ込み堆積層範囲図 ( $S = 1/400$ )



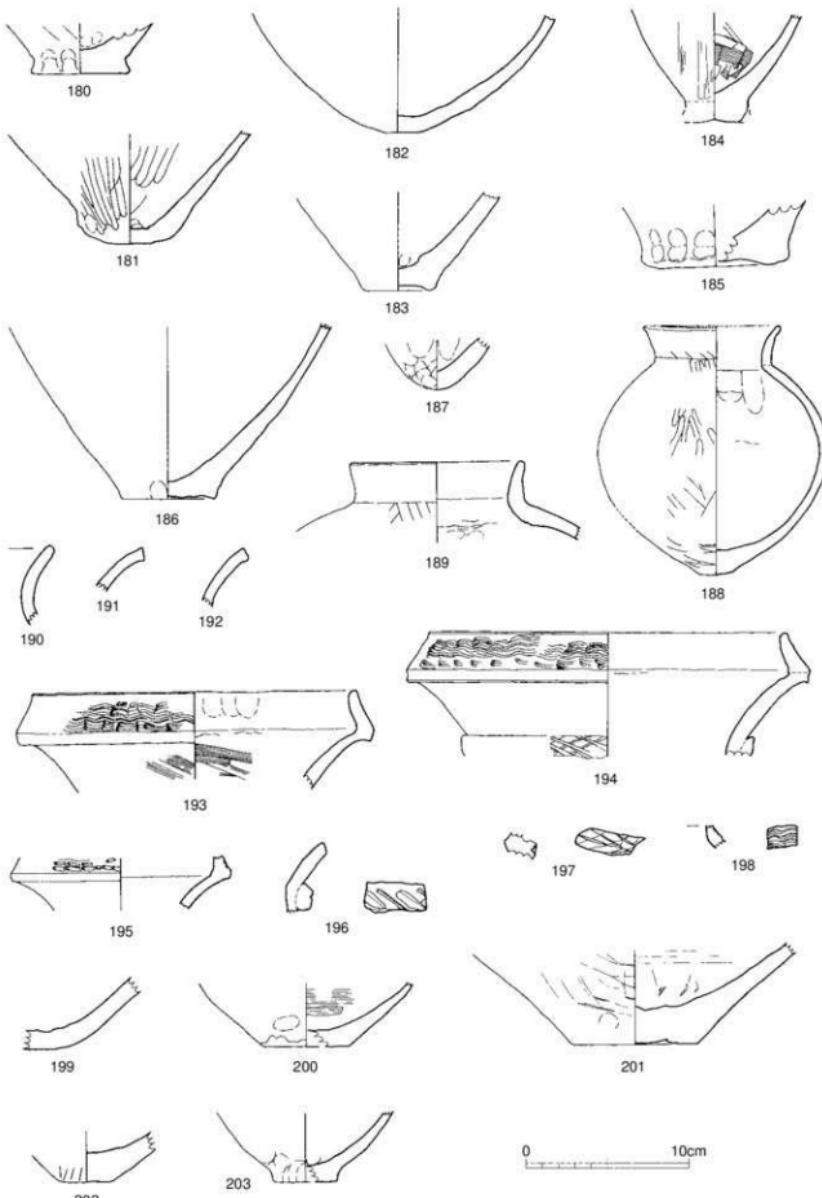
碓流れ込み堆積層注記

- 1 黒褐色土 (Hue10YR 3/1) を含む。5 cm 大の礫が多い。
- 2 褐色土 (Hue10YR 4/6) を含む。5 cm 大の角礫が多い。
- 3 黄褐色土 (Hue10YR 8/8) 細かい粒子で、粘性がある。

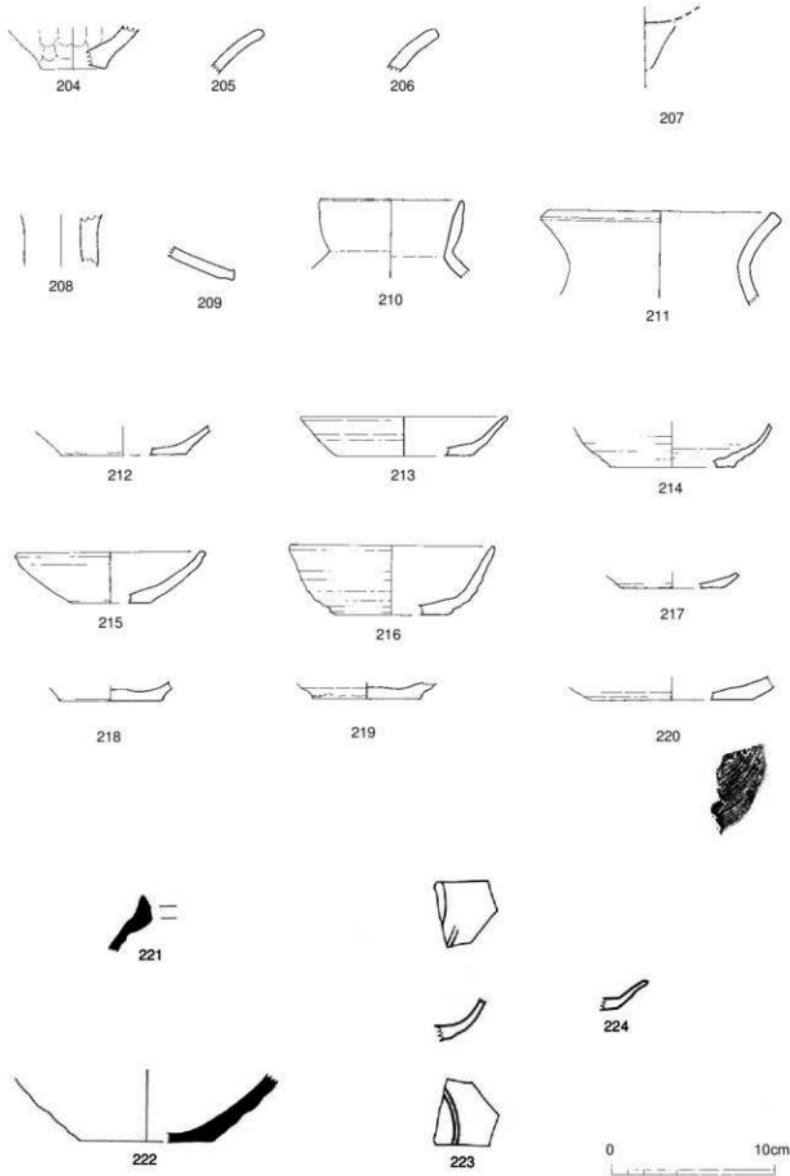
第58図 碓流れ込み堆積層断面図 ( $S = 1/800$ )



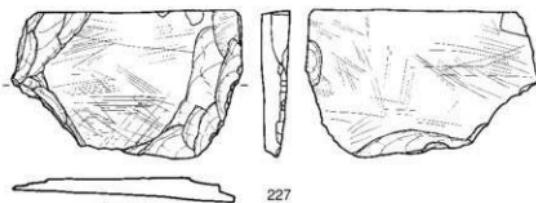
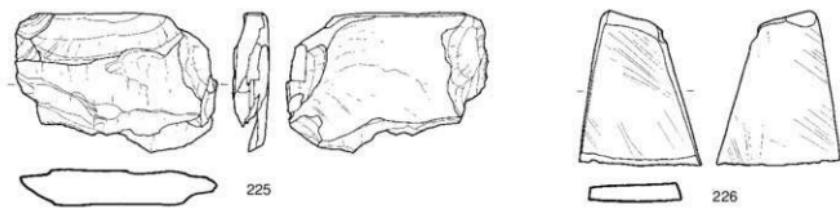
第59図 弥生土器実測図① 製① ( $S = 1/3$ )



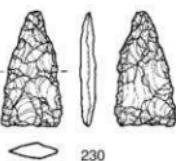
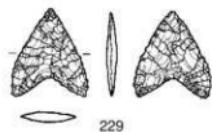
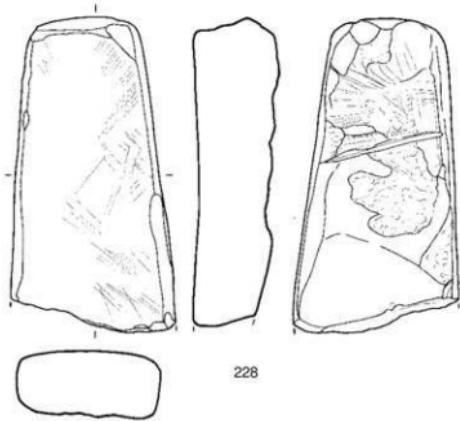
第60図 弥生土器実測図② 菓②・壺・鉢 ( $S=1/3$ )



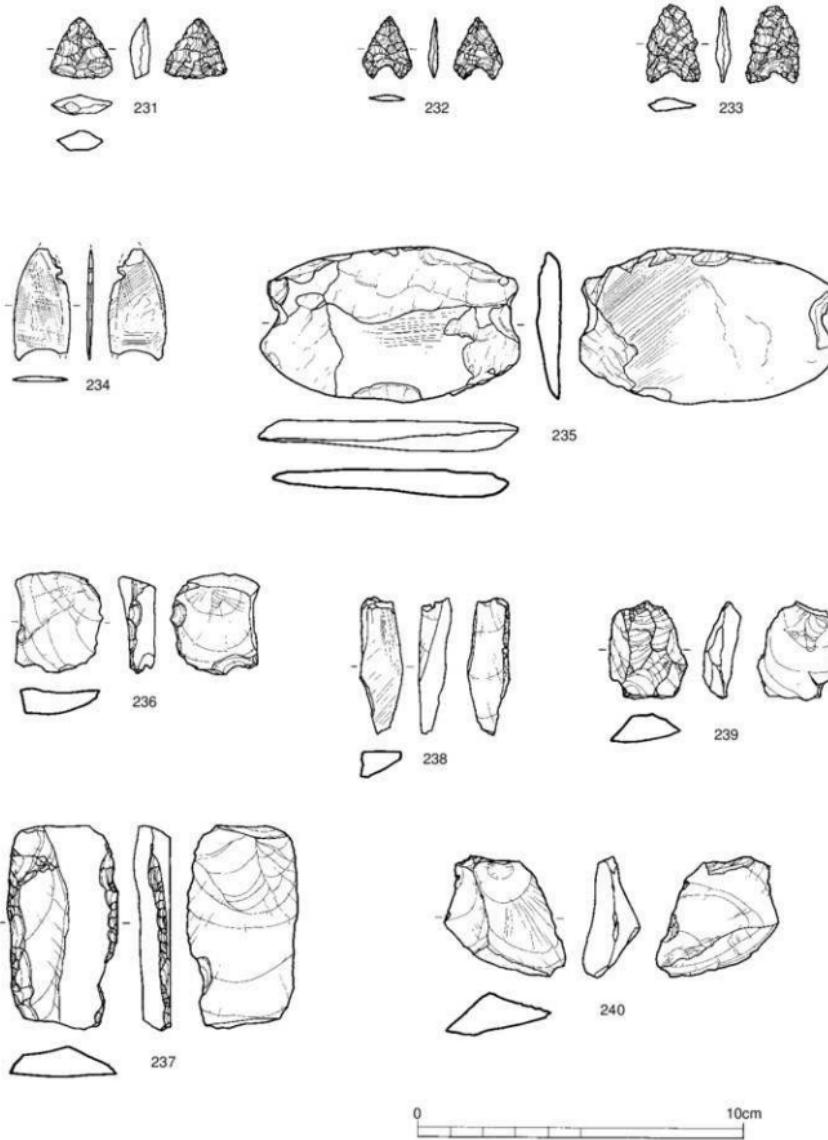
第61図 弥生土器③・土師器・須恵器・磁器実測図 ( $S=1/3$ )



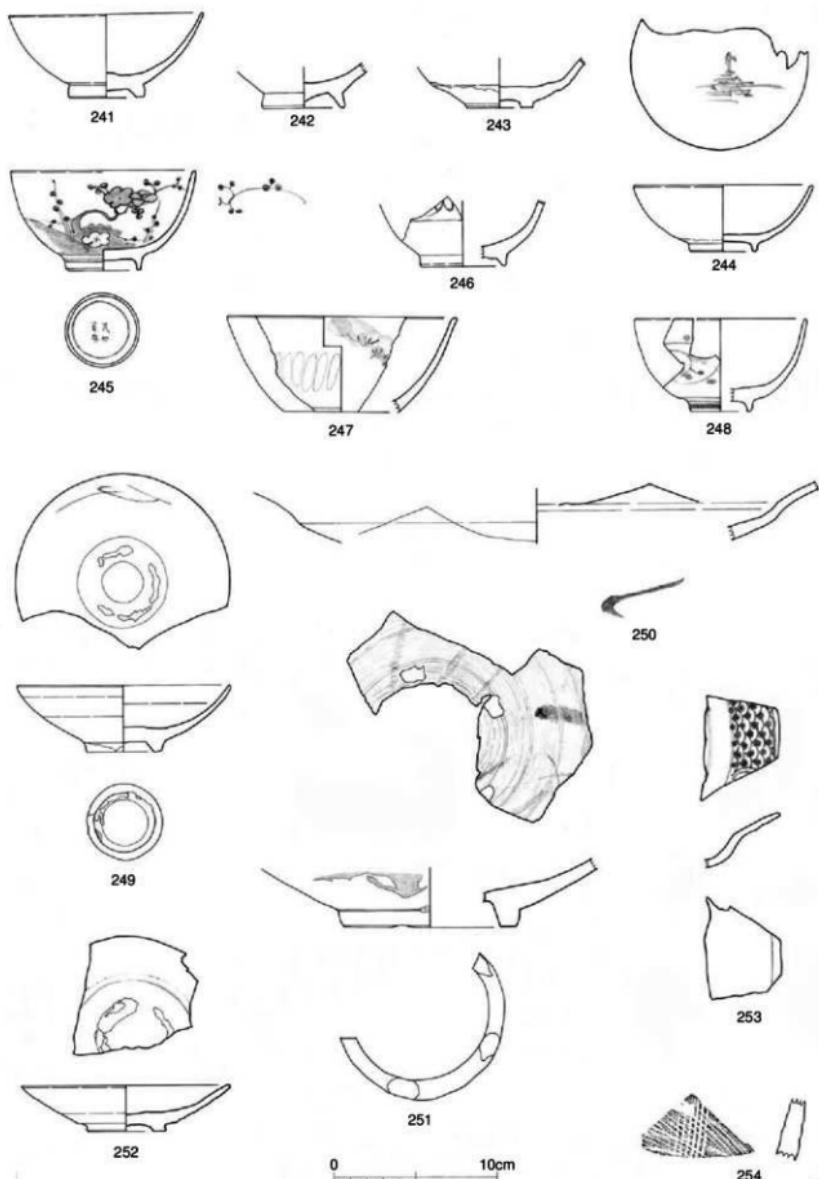
0 10cm



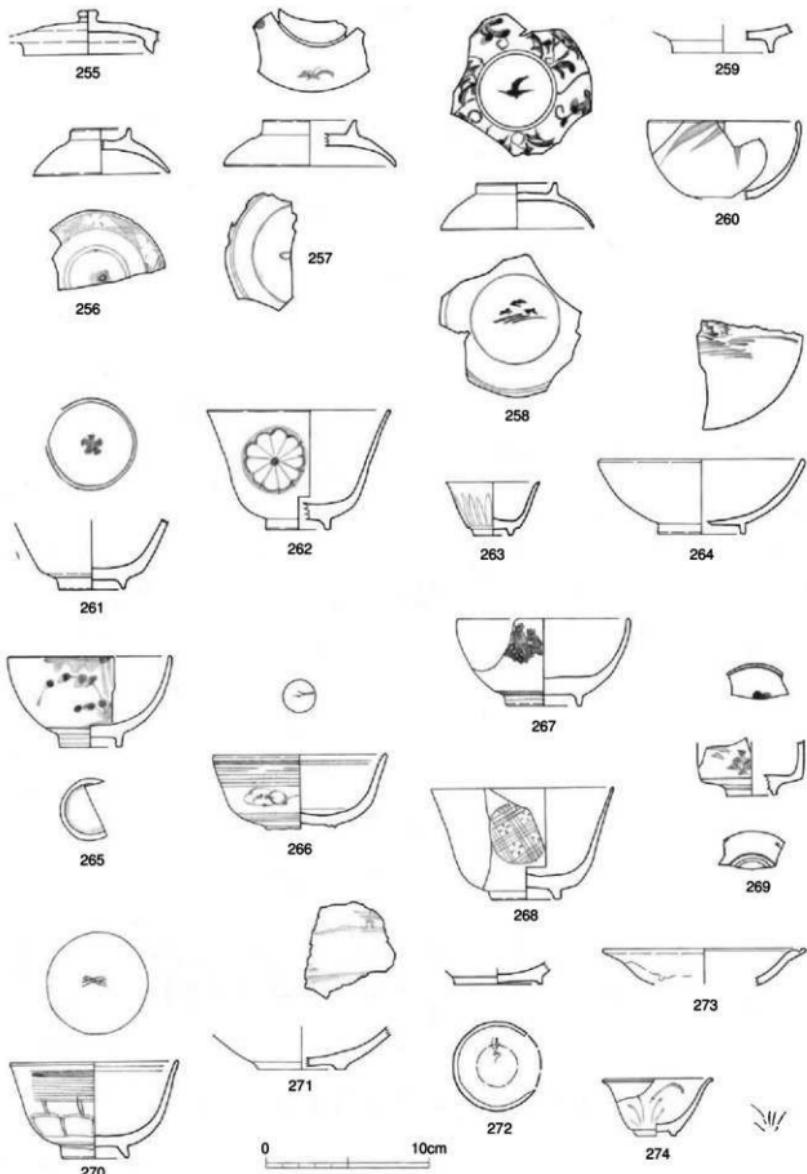
第62図 石器実測図① 砥石・石鏃① ( $S = 2/3$ )



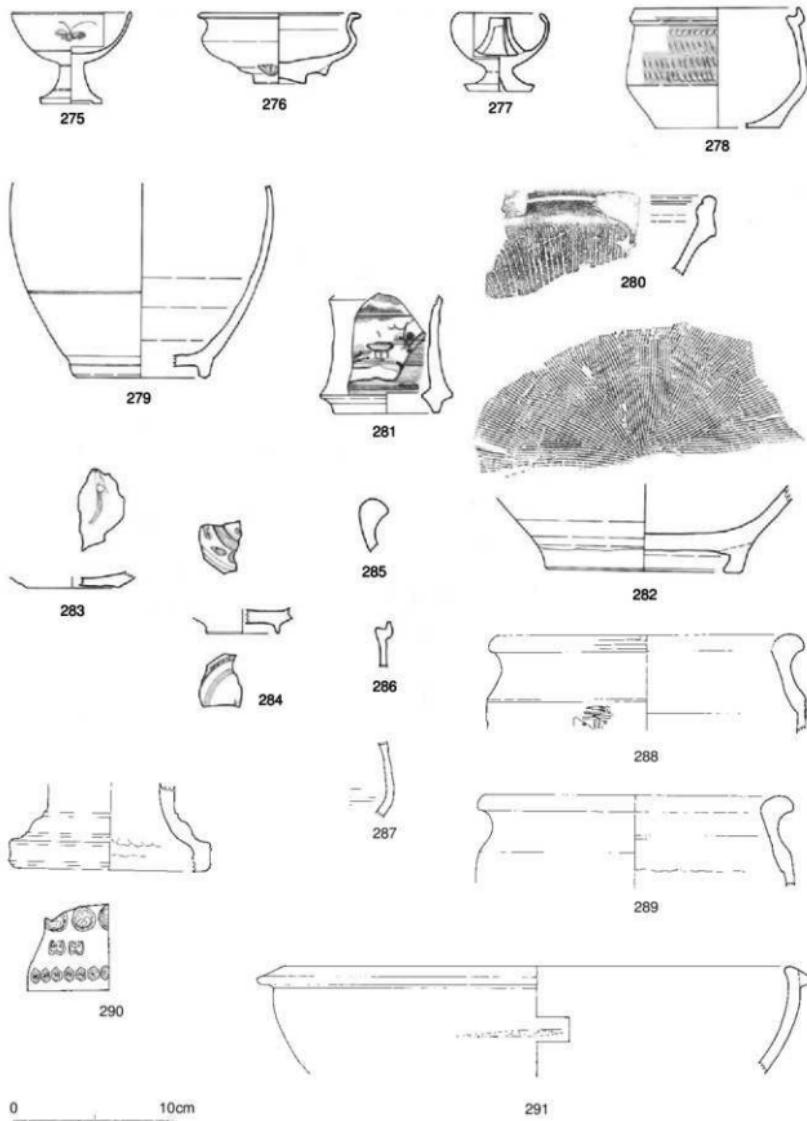
第63図 石器実測図② 石鏽②・石庖丁・二次加工剥片・スクレイパー・剥片 ( $S=2/3$ )



第64図 陶磁器実測図 ( $S = 1/3$ )



第65図 その他の出土遺物実測図① ( $S=1/3$ )



第66図 その他の出土遺物実測図② (S=1/3)

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)		手法・調整・文様ほか	色調		胎土の特徴	備考			
				口径	底計		外面	内面	外面				
168 弥生土器	甕	C	(13.9)	(3.6)		斜め方向のナデ、指押し痕	斜め方向のナデ	浅黄橙	明黄褐	2mm以下の灰白色・白色粒を多く含む。1mm以下の黒色粒を少し含む。	スス付着		
169 弥生土器	甕	C	(13.8)	(3.6)	18.6	ナデ、指押さえ、指印痕	指押さえの後板ナデ、指押さえ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm~3mmの灰白色粒を少し含む。			
170 弥生土器	甕	C	口縁	E8		ナデ、指押さえの後ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の灰白色・浅黄橙。微細な透明白色粒を少し含む。	傾き不明		
171 弥生土器	甕	C	口縁	D9		ナデ、工具による横ナデ	工具による横ナデの後、工具による横ナデ	にぶい黄橙	灰黄	1~3mmの透明白色粒を含む。2mm以下の黒色粒を含む。1mm以下の黒色粒を含む。	傾き不明		
172 弥生土器	甕	C	(16.2)			柄による調節の後のハケ目	ナデ、指押さえ、指印痕の後、ハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1~4mmのにぶい黄橙色を少し含む。	スス付着		
173 弥生土器	甕	C	(18.4)			工具によるハケ目	ナデ、指押さえ、指印痕の後、ハケ目	浅黄橙、黒褐	にぶい黄橙	2mm以下の灰白色粒・微細な透明光沢粒を少し含む。	スス付着		
174 弥生土器	甕	C	(4.2)			籠方向のハケの後	斜め方向のハケの後	にぶい黄橙、黒	浅黄、黄灰	3mm以下の灰白色・2mm以下の黒色の粒を含む。	黒斑		
175 弥生土器	甕	C	(4.0)			指押さえ、ナデ	ナデ、指押さえ	にぶい白、黒	黑褐	2.5mm以下のにぶい黄橙粒を多く、2mm以下のにぶい白を少し含む。	黒斑		
176 弥生土器	甕	C	輪	F10	3.8	ナデ	ナデ	白、にぶい白	にぶい黄橙	3mm以下の灰白色・白色粒を多く含む。			
177 弥生土器	甕	C	輪	E8	(5.3)	指によるナデの後、不定方向のハケ目の後ナデ	不定方向のハケ目の後ナデ	にぶい黄橙	褐灰	1~3mmのにぶい黄橙色。1~4mmの白色粒を少し含む。			
178 弥生土器	甕	C	輪	F10	5.0	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	黄灰、浅黄	黄灰、にぶい黄橙	4mm以下の灰白色・5mm以下の灰白色粒を多く含む。1mm以下の透明白色粒を多く含む。			
179 弥生土器	甕	C	輪	F10	3.4	ナデ、工具によるナデ	指押さえ	灰黄	灰	2mm以下の灰白色・1mm以下の透明光沢粒を少し含む。			
180 弥生土器	甕	C	輪	E9	(5.8)	工具によるナデ、工具による押さえ	指押さえ	白	白	1mm~3mmの乳白色粒を多く含む。			
181 弥生土器	甕	C	輪	E9	2.4	工具によるミガキ、指押さえ、ナデ	工具によるミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1~3mmの灰白色粒を多く含む。1mm以下の黒色粒をかなり含む。	黒斑		
182 弥生土器	甕	C	輪	F10	2.2	タタキの後ナデ、タタキ	斜め方向のナデ、ナデ、指押さえ	浅黄橙	黄灰、淡黄	1~3mmの乳白色粒・灰白色粒を少し含む。			
183 弥生土器	甕	C	輪	F10	(3.8)	風化	工具による斜め方向のナデ、指押さえ、指印痕	にぶい黄	にぶい黄橙	1~5mmの黒灰色粒・乳白色粒を少し含む。			
184 弥生土器	甕	C	輪	E9		縦・斜め方向のハケ目の後ナデ	横・斜め方向のハケ目の後ナデ	にぶい黄橙	黄灰、黒褐	縦・斜め方向のハケの後、横・斜め方向のハケの後			
185 弥生土器	甕	C	輪	E9	(7.0)	工具によるナデの後、輪による押さえ、輪による押さえ	縦方向のナデ	浅黄橙	浅黄橙	工具によるナデの後、輪による押さえ			
186 弥生土器	甕	C	輪	E9	(5.6)	ナデ、指押さえ	ナデ	白	にぶい黄橙	1~2mmの灰白色粒を多く含む。			
187 弥生土器	甕	C	輪	F9		指頭圧痕	工具による縦、横・斜め方向のナデ	白、灰黄褐、黒褐	浅黄	5mm以下の灰白色・2mm以下の黒色粒を少し含む。輪による透明白色粒を多く含む。	スス付着		
188 弥生土器	甕	C	輪	E9	8.1	10.2	1.3	横・斜め方向のナデの後押さえ、ミガキ、工具によるナデ	横・斜め方向のナデの後押さえ、ミガキ、工具によるナデ	白	黄灰、黒褐	5mm以下の灰白色・2mm以下の黒色粒を含む。1mm以下の透明白色粒を多く含む。	黒斑
189 弥生土器	甕	C	輪	E9	10.2			ナデ	白	2mm以下の灰白色粒を多く含む。	完全形		
190 弥生土器	甕	C	輪	E8			ナデ	白	灰白、灰黄褐	3mm以下の灰白色・灰白色粒を少し含む。			
191 弥生土器	甕	C	口縁	E8			ナデ	白	淡黄	1mm以下の灰・褐色の粒を少し含む。	傾き不明		
192 弥生土器	甕	C	口縁	D8		工具によるナデ、ナデ、指押さえ	(風化気味)	白	白	1mm以下の灰白・褐色・1.5mm以下の黒色光沢粒を少し含む。	傾き不明		
193 弥生土器	甕	C	口縁	C8	(19.7)	ナデ、指押さえ波状文、ハケ目の後ナデ	指押さえの後ナデ、指押さえ、横・斜め方向のハケ目	浅黄橙	黄灰	3mm以下の灰白・2mm以下の黒色粒を含む。			
194 弥生土器	甕	C	口縁	C8	(21.9)	工具による波状文、指押さえ	工具による調節の後、横ナデ、横ナデ	浅黄橙	淡黄橙	1~1.5mmの白色の透明白色粒を多く含む。			
195 弥生土器	甕	C	口縁	D8		横状工具による引き、横・斜め方向のナデ	横ナデ、ナデ	白	白	2mm以下の灰白色・透明光沢・黒色光沢粒を多く含む。			
196 弥生土器	甕	C	口縁	D8			ナデ	白	黄灰	3mm以下の灰白色粒を含む。			
197 弥生土器	甕	C	突帯	D8			斜め方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1~3mmの灰白色粒を多く含む。			
198 弥生土器	甕	C	口縁	—		柳描き波状文	(風化著しい)	白	淡黄	3mm以下の灰白色粒を少し含む。			
199 弥生土器	甕	C	輪	F10		ナデ(風化が著しい)	ナデ(風化が著しい)	白	淡黄	4mm以下の菊灰色粒・3mm以下の灰白色粒を多く含む。			
200 弥生土器	甕	C	輪	E9	(5.2)	ナデ、指頭痕	横方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の白透明白色粒・明黄褐色粒・半透明粒を含む。			
201 弥生土器	甕	C	輪	D8	(7.7)	多方向のハケ目	ナデ、指押さえ	浅黄橙	にぶい黄橙	1mm~3mmの乳白色粒・1mm~5mmの白色粒を多く含む。			

第23表 弥生土器観察表①

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
202	弥生土器	壺 C 底部 F 11		2.9			ナデ、ヘラミ ガキ	ナデ	にぶい黄橙、 黒	にぶい黄橙	4 mm以下の灰色粒を多く含む、1 mm以下の白色粒をわずかに含む。	黒斑
203	弥生土器	鉢 C 底部 D 8		(3.8)			指揮さえ	ナデ、指揮さえ	浅黄	淡黄	1 mm～3 mmの白色粒を多 く含む。	
204	弥生土器	鉢 C 脚部 D 8		(4.0)			指揮さえ	指揮さえ	灰白、黄灰	灰黄、黄灰	5 mm以下の赤色粒、0.5 mm以下の 白色粒を含む。白色粒は少く、赤色 粒が目立つ。	黒斑
205	弥生土器	高环 C 口縁 F 9					浅い旋線、ナデ	指揮さえの後ナデ	黄灰	淡黄	1 mm以下の黑色光沢粒・透 明光沢粒を多く含む。	傾き不明
206	弥生土器	高环 C 口縁 E 8					工具による横子の痕 工具による横方向のナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1 mm～3 mmの白色粒を少し含む、 4 mmの大粒の黄色粒が1個。	
207	弥生土器	高环 C 脚部 一					上下にハケ目	上下にハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄	1 mm～2 mmの白色粒を少し含む、 2 mmの赤色粒をくわびに含む。	
208	弥生土器	高环 C 充頭部 D 9					ていねいなナ デ		にぶい黄橙、 褐灰		1.5 mm以下の黒色光沢粒、1 mm以下 の黄白色粒・透明光沢粒を少し含む。	
209	弥生土器	高环 C 底部 F 10					縱方向のナデ、 横方向のナデ	縱方向のナデ、 横方向のナデ	にぶい黄橙、 にぶい黄灰	灰黄	2 mm以下の褐色光沢粒をわ ずかに含む。	傾き不明
210	弥生土器	高环 B 脚部 一	(8.6)				ナデ	ナデ	橙	橙、浅黄橙	4 mm以下の褐色光沢3 mm以下の白色 1 mm以下の透明光沢粒を多く含む。	
211	弥生土器	高环 B 口縁 D 9	(13.9)					ナデ	橙	にぶい黄橙	1～6 mmの赤色粒を含む、1～4 mmの原色	

第24表 弥生土器観察表②

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
212	土師器	环 C 口縁 F 9		(7.7)			回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙	にぶい橙	2 mm以下の赤色粒を含む。	
213	土師器	环 C 口縁 F 9	(12.7)	8.3	(24)		横ナデ、回転 ナデ	回転ナデ	橙	橙	良好	底部 黒変
214	土師器	环 C 口縁 F 9		(7.7)			回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	橙	浅黄橙	良好	
215	土師器	环 C 脚部 D 7	(12)	3.2			横ナデ、回転 ナデ	回転ナデ、指 ナデ	浅黄橙	橙	1 mm以下の暗灰色粒を わずかに含む。	スス 付着
216	土師器	环 C 口縁 E 9	(12.4)	6.8	4.3		横ナデ、回転 ヘラケズリ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	良好	
217	土師器	灯明皿 C 底部 E 8		(6.1)					灰白	灰白	良好	スス 付着
218	土師器	皿 C 底部 E 9		(6.2)			回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	浅黄橙	浅黄橙	良好	
219	土師器	皿 C 脚部 D 7		6.6			回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰黄褐	褐灰	良好	
220	土師器	环 B 脚部 D 7 G 2	(9.9)				回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙	褐灰	良好	

第25表 土師器観察表

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面			
221	須恵器	鉢 C 脚部 一					横ナデ、回転 ナデ	横ナデ、回転 ナデ	灰	黄灰	良好	東幡系	
222	須恵器	鉢 C 脚部 D 8		(8.2)			回転ナデ			灰	灰	良好	東幡系

第26表 須恵器観察表

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
223	磁器	碗 C 脚部 E 8					回転ナデ、施釉 ナデ	回転ナデ、施釉 ナデ	オリーブ	オリーブ	良好	青磁
224	磁器	皿 C 底部無釉 E 8					横ナデ、回転ナデ、 施釉、底部無釉	回転ヘラナデ、 施釉	灰	灰白	良好	青磁

第27表 中世磁器観察表

遺物番号	区	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
225	C	F 9	砥石	流紋岩	4.25	6.20	1.10	30.6	
226	C	E 10	砥石	砂岩	4.75	3.75	0.60	15.9	
227	C	F 10	砥石	綠色凝灰岩	4.50	7.05	0.75	33.0	
228	C	F 10	砥石	砂岩	(9.60)	5.10	2.60	187.9	
229	C	F 7	石礫	黑曜石	2.60	2.35	0.35	1.5	腰岱
230	C	D 7	石鉄	チャート	3.50	1.90	0.50	3.4	
231	C	E 10	石鉄	黑曜石	1.85	1.90	0.60	1.7	桑ノ木津留
232	C	—	石鉄	チャート	1.90	1.50	0.30	0.7	
233	C	—	石鉄	チャート	2.35	1.60	0.45	1.3	
234	C	F 10	磨製石器	チャート	(3.45)	1.80	0.15	1.5	
235	C	F 10	石包丁	綠色凝灰岩	4.75	8.00	0.90	45.9	
236	C	F 10	二次加工石器	流紋岩	3.10	2.70	1.10	9.1	
237	C	F 10	スクリッパー	尾鈴性質岩	6.25	3.40	1.10	26.7	
238	C	E 10	剥片	貞岩	4.20	1.30	1.00	4.7	
239	C	F 7	剥片	チャート	3.00	2.35	1.15	5.8	
240	C	F 10	剥片	流紋岩	3.70	3.75	1.80	14.1	

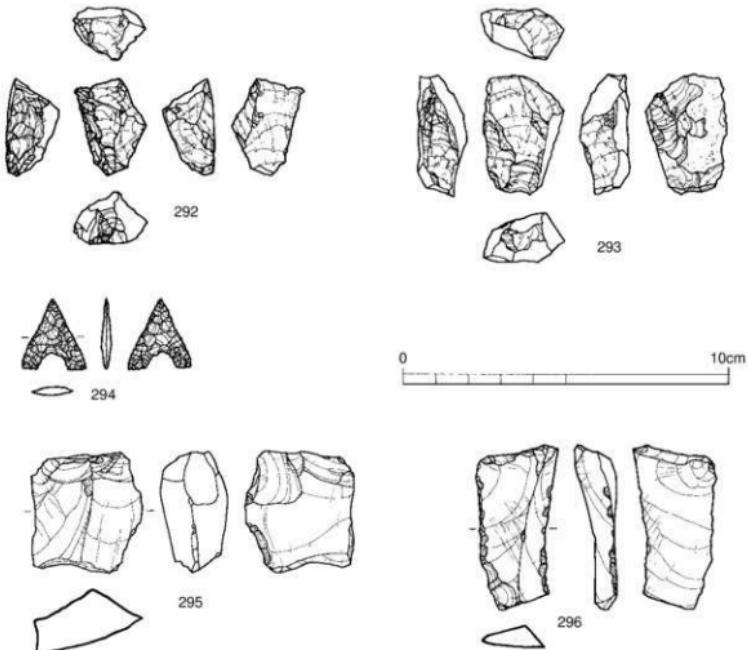
第28表 磁堆積層出土石器計測表

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
241	陶器	碗 宍形	C E8	11.9	4.6	5.2	直口テナ、頭部ハタケリ 施釉、削り出し高台(黒釉) 目輪剥ぎ	回転ナデ、施釉、 蛇の目輪剥ぎ	灰オリーブ	灰オリーブ	灰白、焼成良好	17C	
242	陶器	瓶 中・底部	C E9-F9		5.0		直口ケリ、蓋と色刷 (青)、削り出し高台	回転ナデ、施釉、 蛇の目輪剥ぎ	灰黄褐、 にぶい黃橙	黑色釉	燒成良好	近世 前半	
243	陶器	瓶 中・長部	C F10		4.0		直口ケリ、削り出し高台 (青)、削り出し高台	回転ナデ、施釉、 砂目粗粒	灰白	灰	暗灰黄、にぶい黃橙、 燒成良好		
244	陶器	瓶 中・底部	E8	10.1	4.1	4.1	回転ナデ、ナデ、 施釉、露胎	回転ナデ、施釉、 横闊、山水文	灰白	灰白	灰白、焼成良好	17C後半、 急傾き	
245	磁器	口盤・底部	C	11.3	4.4	6.1	染付、露胎	回転ナデ、施釉	明青白	明青白	明灰白、焼成良好	18C前半	
246	磁器	口盤・底部	E9-F9			(5.2)	直口テナ、露胎、刻印 模様有無、黒釉(引)	回転ナデ、施釉、 模様入り	灰白	灰白	灰白、焼成良好		
247	磁器	口盤・底部	F9				直口テナ、露胎、刻印 模様有無、黒釉(引)	回転ナデ、施釉、 模様入り	灰白	灰白	灰白、焼成良好	肥前、	
248	磁器	口盤・底部	C	(14.0)			直口テナ、露胎、刻印 模様有無、黒釉(引)	回転ナデ、施釉、 模様入り	灰白	灰白	明灰白、焼成良好		
249	磁器	口盤・底部	E9-F9	(10.5)	(3.7)	5.7	直口テナ、露胎、刻印 模様有無、黒釉(引)	回転ナデ、施釉、 模様入り	明青灰	明緑白	灰白、焼成良好		
250	陶器	口盤	C F10		13.1	4.6	4.1	回転ナデ、施釉、 削り出し高台	回転ナデ、施釉、 模様入り	灰白	灰白	灰白、焼成良好	17C
251	陶器	胴部	C E9-F9				回転ヘラケズリ、 施釉、露胎	回転ナデ、施釉、 削り出し高台、模様入り	灰	灰オリーブ	灰白、焼成良好	近世 前半	
252	陶器	底部	C E9-F9		10.5		直口ヘラケズリ、 削り出し高台、模様入り	回転ナデ、施釉、 削り出し高台	灰オリーブ	灰白、 オリーブ	灰黄褐、焼成良好	17C後半、 二彩施	
253	磁器	口盤・側部	C E10	(10.3)	(4.8)	2.8	回転ヘラナデ、削 り出し高台、露胎	回転ナデ、施釉、 砂目粗粒	灰白	灰白	にぶい橙、にぶい褐、 燒成良好	17C、 唐津	
254	陶器	握り跡	C D7				横ナデ	露胎斜め方唇に鄭状工 具痕(4本程度)	暗赤	暗赤	3mm以下の白色・無色透明、 里口、黒色釉を含む。	15-17C	

第29表 碟堆積層出土遺物觀察図

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)		手法・調整・文様ほか	色調		胎土の特徴及び焼成	備考		
				口径	底計		外面	内面	外面			
255	陶器	蓋	B 「手付」 H1	今井場 (8.0)	2.7	回転ナデ、回転ヘラケズリ、施釉 (一部無釉)	回転ナデ、無釉	浅黄	灰黄褐	灰黄褐、焼成良好	薩摩燒	
256	磁器	蓋	B 「手付」 H1	(8.4)	5.4	回転ナデ、横ナデ、施釉 (一部無釉)	回転ナデ、施釉、 五弁分、四方神文	灰白	オリーブ灰	灰白、焼成良好		
257	磁器	蓋	B 「手付」 H1	(10.5)	5.7	2.7	横ナデ、回転ヘラケズリ、 施釉、(一部無釉)	染付、團扇(3本)	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	
258	磁器	蓋	B 「手付」 H1	9.3	4.9	2.3	回転ナデ、施釉、 仙芝祝文	回転ナデ、施釉 割り出立高台	灰白	灰白	灰白、焼成良好	広東碗
259	陶器	蓋	C 底部	F10		(6.2)	横ナデ、回転ヘラケズリ、 施釉、(一部無釉)	貴人あり	青銀綠	にぶい黄緑	浅黄橙、焼成良好	
260	陶器	蓋	B 「手付」 H1	(9.2)			横ナデ、回転ヘラケズリ、 施釉、割り出立高台	回転ナデ、施釉	灰白	灰白	浅黄橙、焼成良好	
261	磁器	D	D 「手付」 H1	4.0			回転ナデ、施釉、 割り出立高台	回転ナデ、施釉、團扇 (2本)、割り出立	明青白	明青白	灰白、焼成良好	
262	磁器	蓋	B 「手付」 H1	(11.2)	4.0	7.4	横ナデ、回転ヘラケズリ、 施釉、(一部無釉)	回転ナデ、施釉	淡青灰	灰白	灰白、焼成良好	
263	磁器	蓋	B 「手付」 H1	5.3	2.3	3.3	横ナデ、施釉、割り出立高台 (無釉)	回転ナデ、施釉	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	17C半
264	陶器	C	C 「手付」 H1	(12.5)	5.3	4.6	横ナデ、回転ナデ、施釉、 割り出立高台、(無釉)	横ナデ、施釉、染付、 团扇(3本)、貴人あり	浅黄	浅黄	浅黄、焼成良好	17C
265	磁器	C・D	B 「手付」 H1	9.5	3.8	5.6	横ナデ、(一部無釉)	回転ナデ、施釉、 重ね焼き痕	灰白	灰白	灰白、焼成良好	18C後半
266	磁器	B	B 「手付」 H1	10.7	4.2		回転ナデ、施釉、 染付、團扇(1本)	回転ナデ、施釉、 重ね焼き痕	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	18C後半、 薩摩燒
267	磁器	B・D	B 「手付」 H1	(10.6)	4.6	5.3	横ナデ、回転ナデ、 施釉、(一部無釉)	回転ナデ、施釉	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	
268	磁器	B	B 「手付」 H1	(11.1)	4.1	(6.9)	横ナデ、回転ナデ、 施釉、染付	回転ナデ、施釉	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	
269	磁器	B	B 「手付」 H1		(3.1)		回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉、 團扇	灰白	灰白	灰白、焼成良好	
270	磁器	蓋	B 「手付」 H1	(10.3)	4.1	5.9	横ナデ、(一部無釉)	回転ナデ、染付、 施釉、團扇(3本)	明青色	明青色	灰白、焼成良好	18C後半、 薩摩燒
271	陶器	D	底部		(5.4)		横ナデ、施釉、(一部無釉)	回転ナデ、施釉、 染付、櫻蘭山文	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	中世～近 世前半
272	陶器	C	底部		(5.4)		横ナデ、(一部無釉)	回転ナデ、施釉、 貴人あり	灰白	淡黄	淡黄、焼成良好	17C後半、 京焼
273	陶器	蓋	「手付」 H1	(12.4)			横ナデ、回転ヘラケズリ、 (一部無釉)	回転ナデ、施釉	灰オーライ	灰オーライ	灰白、焼成良好	17C前半、 清酒
274	磁器	—	B 「手付」 H1	(6.6)	2.4	3.5	横ナデ、(一部無釉)	回転ナデ、施釉	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	17C中
275	磁器	C	B 「手付」 H1	(7.3)	3.7	5.6	回転ナデ、施釉、 染付	回転ナデ、施釉	灰白	灰白	灰白、焼成良好	18C
276	磁器	D	B 「手付」 H1	(9.4)	3.1	4.3	横ナデ、回転ヘラケズリ、 (一部無釉)	回転ナデ、施釉、 重ね焼き痕	明綠灰	明綠灰	灰白、焼成良好	
277	陶器	火芯	B 「手付」 H1	(5.0)	3.9	4.8	横ナデ、回転ナデ、 施釉、系切口底	回転ナデ、施釉	にぶい赤褐	にぶい赤褐	灰白、焼成良好	
278	陶器	B	B 「手付」 H1	(10.0)	7.6	(7.4)	横ナデ、(一部無釉)	回転ナデ、施釉	にぶい黄緑	にぶい黄緑	浅黄橙、焼成良好	ヌス 付着
279	磁器	B	B 「手付」 H1	(8.0)			横ナデ、(一部無釉)	回転ナデ、無釉	明青灰	灰白	灰白、焼成良好	
280	陶器	B	B 「手付」 H1				回転ヘラケズリ	御目(單位7本)	灰赤	灰赤	灰黄褐、焼成良好	粟。
281	磁器	D	B 「手付」 H1		(6.4)		回転ナデ、施釉	無釉、ヘラケズリ	淡い青灰	灰白	灰白、焼成良好	
282	陶器	壺	底部		11.8		回転ヘラケズリ、 回転ナデ、施釉	板目痕	暗赤灰、 黒	橙	橙、2mm以下の乳白色粒 を多く含む	
283	陶器	C	底部		(5.8)		施釉、(一部無釉)	施釉、重ね焼き痕	灰白	灰白	灰、焼成良好	灰、 清酒
284	磁器	—	底部		(4.4)		田字ナデ、施釉、染付、 (一部無釉)	回転ナデ、施釉、 染付	明青色	明青色	明灰白、焼成良好	17C
285	陶器	B	B 「手付」 H1				横ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	にぶい褐	褐	焼成良好	ヌス 付着
286	陶器	B	B 「手付」 H1				横ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	にぶい黄緑	浅黄橙、焼成良好	ヌス 付着	
287	陶器	B	B 「手付」 H1				横ナデ、施釉、(一部無釉)	回転ナデ、施釉	にぶい黄緑	浅黄橙、焼成良好	ヌス 付着	
288	陶器	B	B 「手付」 H1	(18.2)			横方向のミガキ、回 転ナデ、(一部無釉)	回転ナデ、(一部無 釉)	灰黄	明褐灰	焼成良好	
289	陶器	B	B 「手付」 H1	(18.4)			横ナデ、回転ナデ、 (一部無釉)	回転ナデ、(一部無 釉)	暗灰黄	灰黄	焼成良好	
290	陶器	C	B 「手付」 H1	(11.9)			スタンプ(三文巴) 羅作文、草文甲	横ナデ、しづり	浅黄	灰黄	焼成良好	
291	陶器	B	B 「手付」 H1	(31.1)			回転ナデ、施釉、 貴人あり	回転ナデ、施釉	淡黄	淡黄	淡黄、焼成良好	

第30表 その他の遺物観察表



第67図 表土及び攢乱土出土石器実測図 (S=2/3)

遺物番号	区	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
292	B	F 1	スクレイバー	黒曜石	2.95	2.20	1.60	6.9	日東系
293	B	F 2	スクレイバー	黒曜石	3.65	2.50	1.50	12.2	日東系
294	B	G 2	石礫	チャート	2.15	1.95	0.30	0.9	
295	B	—	二次加工剥片	流紋岩	3.75	3.40	2.10	24.6	
296	B	F 2	剥片	流紋岩	4.70	3.45	1.05	17.0	

第31表 表土及び攢乱土出土石器計測表

## 第6節 E・F区の調査

### 1 概要

調査の経過と方針で述べたとおり、E・F区は、急速調査することになったが、共に遺構は検出できなかった。E区は、耕作土直下にⅦ層以下の層が残存していた。耕作土直下の自然流路内から、後期旧石器時代～近世の遺物が出土している。Ⅶ層以下の層からは、層毎に遺物が出土しているが、旧石器時代から自然流路ができていたことが判明し（第68図）、遺物はその自然流路脇の影響を受けた層の安定していない位置に集中している。

F区は、耕作土直下にC区の疊の流れ込み堆積層が一部残存しており、黒色土、K-Ahを削平している。K-Ah面まで掘り下げたが、湧水量が多く、遺物も出土していないため、調査を中止した。

### 2. E区出土遺物

#### (1) 旧石器時代層出土遺物

XIII～VII層にかけて、細石刃1点、細石核1点、スクレイバー1点、剥片18点の計21点の石器が出土している。そのうち、8点を図化した。

#### 細石刃（第69図297）

流紋岩製である。XIII層中より出土しているが、

出土位置が現自然流路より古い時期に存在した自然流路脇に位置し、流れ込んだ可能性が高い。

#### 細石核（第69図298）

桑ノ木津留系の黒曜石製であり、両側縁・端部の一部及び裏面に自然面が残る。主に正面上面から剥離しているが、裏面では横方向の剥離も見られる。

#### スクレイパー（第69図299）

灰白の流紋岩製で、1～3mm大の灰色の不純物が含まれる。剥片形で、1側縁全体と反対側縁の基部に裏面から調整加工されている。

#### 剥片（第69図300～304）

300・301は流紋岩製、302・304は砂岩製、303は頁岩製である。

#### (2) 自然流路内出土遺物

自然流路内から石器や陶磁器が出土している。10点を図化した。

#### 碗（第70図305～308）

305は陶器で、口縁部から底部全体に施釉してある。内面は均一に施釉されているのに比べ、外面は釉の厚さが一定ではなく、胴部下半から高台部にかけては、釉の厚さの差で凹凸を呈し、外面の至るところで露胎している。近世前半と思われる。306は磁器で、内面見込蛇ノ目釉剥ぎ部に白濁したアルミニナが塗布されている。近世後半と思われる。307は陶器碗で見込蛇ノ目釉剥ぎされ、内外面に刷毛目文様が施されている。高台置付・内面見込部に砂目積痕が見られる。308は陶器碗で内外面全体に施釉されているが、僅かに露胎も見られる。

#### 皿（第70図309）

309は陶器皿で、見込蛇ノ目釉剥ぎされ、高台脇から高台内にかけて、無釉である。刷毛目文様が施されている。

#### 小鉢（第70図310）

310は陶器の小鉢で、内面から外面腰部にかけて施釉されている。内面見込部に砂目積痕がはっきりと残っており、置付には重ねた際に付着した釉痕が見られる。低い高台で、近世前半と思われる。

#### 瓶（第70図311）

311は磁器瓶で、頸部に近い胴部と思われる。

#### 擂鉢（第70図312）

312は埠系の擂鉢で、擂目は9条単位の櫛状工具で施されている。

#### 細石核（第70図313）

チャート製で、裏面及び1側縁に自然面が残る。左側面端部に作業面を設定し、その作業面を上にして剥離した後、上側面の作業面を90°転移し、打面として剥離させている。

#### 石斧（第70図314）

ホルンフェルス製で、基部は半折れしており、かなり風化している。握り部の形は明確でないが、両側縁に刃部が形成されている。

#### (3) その他の遺物

表土や耕作土から縄文土器、須恵器、陶器碗、弥生土器、石器が出土している。7点を図化した。

#### 縄文土器（第71図315）

破片であるが、外面に山形押型文が施されている。

#### 須恵器（第71図316）

破片で傾きが不明であるが、外面に格子目タタキを施している。甕の胴部と思われる。

#### 陶器碗（第71図317）

置付部以外の内面・外面全体に施釉されている。

#### 弥生甕（第71図318・319）

318は、内外面共にナデが施されている。319は、耕作土除去時に出土した。上げ底で、内面は板状工具によるナデである。

#### 石器（第71図320・321）

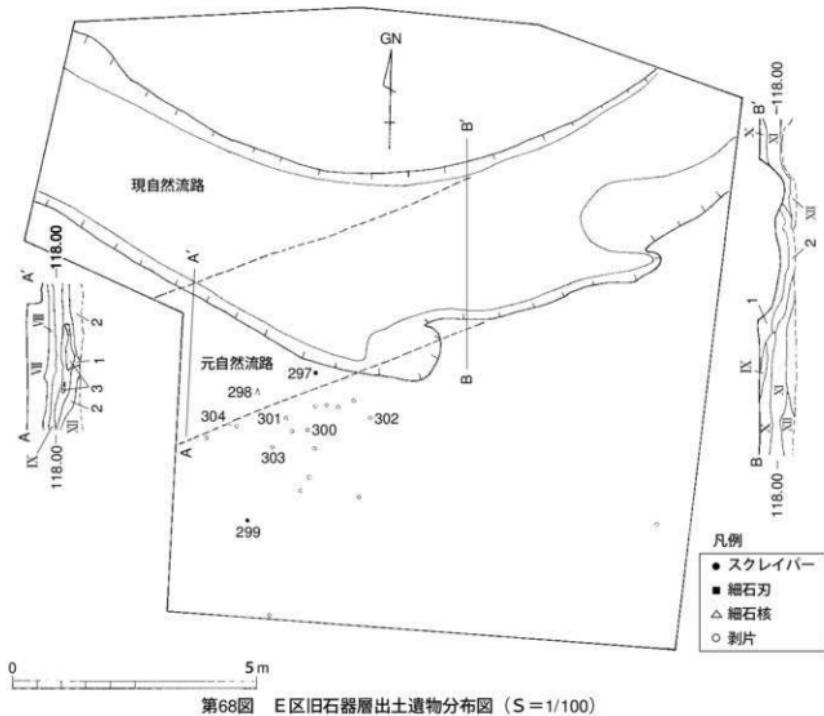
2点共、表採である。320は、チャート製の石核である。基本的に上側面を打面にして剥離している。321は、流紋岩製のナイフ形石器である。

#### 3 F区出土遺物（第72図322）

磁器皿が1点出土している。置付部から高台内にかけては、無釉である。

#### 4 小結

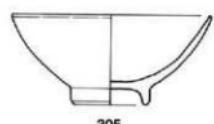
E区出土の遺物の内、細石刃や細石核等が東九州基本土層のMB 2～3相当層より出土しているが、この2点の石器を含む19点が古い時期に形成された自然流路脇の層から出土しており、流れ込みの可能性が高い。また、遺物や地形から検証してみたが、現有自然流路の上流を特定することはできなかつた。



第68図 E区旧石器層出土遺物分布図 ( $S = 1/100$ )



第69図 E区旧石器層出土石器実測図 (2/3)



305

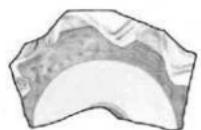


306

307



308



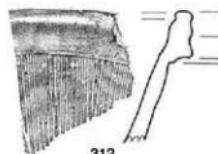
309



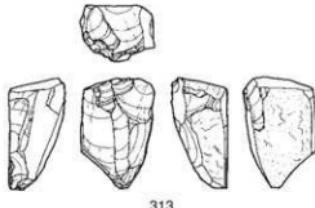
0 310 (S=1/3) 10cm



311

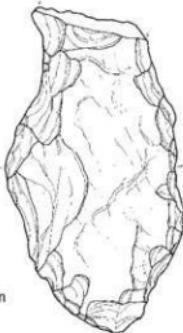


312



313

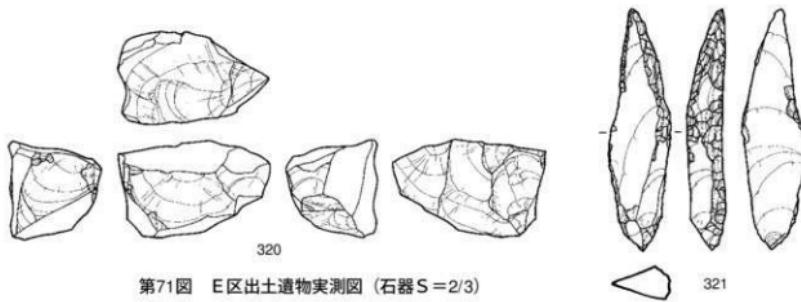
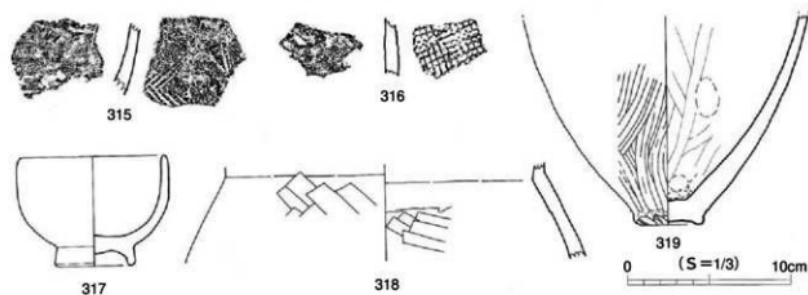
0 (S=2/3) 10cm



314

0 (S=1/2) 10cm

第70図 E区自然流路出土遺物実測図



第71図 E区出土遺物実測図 (石器S = 2/3)



第72図 F区出土遺物実測図 (S = 1/3)

番号	区	グリッド	層	器種	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル
297	E	19	XIII	細石刃	流紋岩	1.85	0.65	0.20	0.3	-85115.97	47945.72	117.604
298	E	19	XIII	細石核	輝石(安/橄)岩	2.75	1.90	0.75	3.3	-85115.61	47946.89	117.658
299	E	19	IX	スクレイパー	流紋岩	4.35	2.50	1.10	10.9	-85112.94	47947.09	118.150
300	E	19	XI	剥片	流紋岩	2.00	1.20	0.60	0.9	-85114.62	47945.89	117.891
301	E	19	XII	剥片	流紋岩	1.90	2.40	0.50	1.4	-85115.03	47946.32	117.652
302	E	19	XIII	剥片	砂岩	2.70	1.50	0.95	3.4	-85115.06	47944.65	117.578
303	E	19	X	剥片	頁岩	3.10	1.75	0.75	4.0	-85114.42	47946.59	118.055
304	E	19	X	剥片	砂岩	3.55	1.35	1.10	4.8	-85114.93	47947.46	118.038

第32表 E区旧石器層出土石器計測表①

番号	区	グリッド	層	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル
E 19	VIII		剥片	ホルンフェルス	3.90	2.50	1.10	10.3	-85110.99	47946.65	118.262	
E 19	VIII		剥片	砂岩	1.10	2.30	0.60	1.3	-85115.29	47945.50	118.245	
E 19	VIII		剥片	頁岩	3.50	3.10	0.40	5.4	-85115.27	47945.73	118.200	
E 19	IX		剥片	黒曜石(巻)和静岩	1.60	0.90	0.60	0.9	-85114.63	47947.95	118.139	
E 19	IX		剥片	砂岩	1.60	1.50	0.80	2.2	-85113.44	47944.61	118.314	
E 19	IX		剥片	流紋岩	1.00	1.15	0.15	0.3	-85113.61	47946.02	118.192	
E 19	XI		剥片	流紋岩	0.90	1.30	0.30	0.5	-85115.41	47944.94	118.000	
E H9	XI		剥片	砂岩	1.50	1.40	0.30	0.8	-85112.78	47938.72	118.149	
E 19	XI		剥片	砂岩	3.50	3.10	0.50	5.2	-85115.26	47945.26	118.042	
E 19	XI		剥片	黒曜石(巻)巻	1.60	0.70	0.80	1.2	-85113.82	47945.64	118.010	
E 19	XI		剥片	黒曜石(巻)	1.90	1.50	1.00	4.0	-85114.85	47947.37	117.826	
E 19	XIII		剥片	砂岩	1.00	0.60	0.20	0.1	-85114.76	47946.19	117.723	
E 19	XIII		剥片	ホルンフェルス	6.00	3.00	1.70	29.0	-85114.42	47945.73	118.335	

第33表 E区出土石器計測表① 図化資料外

遺物番号	種別	器種	出土部位	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
305	陶器	碗	E区自 [直]~E区 然流路	(12.1)	5.5	(4.4)	縁ナ、底ペラブリ、垂 乳頭、貢あり、脚部孔、台 面	回転ナデ、施釉、 貢入り	浅黄	浅黄	灰白、焼成良好	近世前半
306	磁器	瓶	E区自 [直]~E区 然流路		(4.0)		回転ナケズリ、施 釉、割り出し、高台	回転ナデ、施釉、 鉢	灰白	灰白	灰白、焼成良好	近世後半
307	陶器	瓶	E区自 [直]~E区 然流路		4.1		自回ナケズリ、施釉、削 り出し台面、貢あり	回転ナデ、施釉、 鉢	灰黄、 暗火緑	灰白	灰黄、焼成良好	近世前半、刷毛目
308	陶器	碗	E区自 底部 然流路		(5.5)		回転ナケズリ、施 釉、削り出し高台	回転ナデ、施釉、 鉢	灰白	灰白	灰白、焼成良好	
309	陶器	皿	E区自 [直]~E区 然流路		(7.2)		回転ナケズリ、施 釉、削り出し、脚部孔、 刮付	施釉、鉢の目輪 削り、貢入り	淡黄、 黄灰	淡黄、黄灰	灰褐、にぶい黄橙、燒成 良好	刷毛目
310	陶器	小鉢	E区自 [直]~E区 然流路	(13.0)	3.2	(5.5)	縁ナ、底ペラブリ、垂 乳頭、脚部孔、脚部 削り	回転ナデ、施釉、 鉢	灰白	灰白	灰オリーブ、にぶい褐、燒成良好	17C~
311	磁器	瓶	E区自 [直]~E区 然流路				回転ナデ、塗付、 施釉	回転ナデ、 施釉	灰白	灰白	灰白、焼成良好	
312	陶器	瓶	E区自 [直]~E区 然流路				横ナデ、回転ナ ラケズリ	横ナデ、 鉢	暗赤褐、 鉢	灰赤	赤、焼成良好	堆系、近世

第34表 E区出土遺物(自然流路)観察表

遺物番号	区	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
313	E	自然流路	細石核	チャート	3.40	2.25	1.70	14.7	
314	E	自然流路	石斧	ホルンフェルス	(13.35)	7.45	1.85	200.8	

第35表 E区出土石器 計測表②

遺物番号	種別	器種	出土地点	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
315	調文 土器	鉢	E区 脣部				山形押型文の後、 竜方向のナデ	指押さえナデ	にぶい褐	褐灰	3mm以下の灰白色、2mm以下 の透明光沢を多く含む。	傾き不明
316	須恵 土器	瓶	E区 脣部				格子目タキ	ナデ	にぶい橙	褐灰	3mm以下の乳白色、明赤褐色、 白色透明、灰白色を含む。	傾き不明
317	陶器	瓶	E区 [直]~E区 然流路	8.8	4.6	6.8	縁ナ、底ペラブリ、垂 乳頭、脚部孔、脚部 削り	回転ナデ、施釉、 鉢	浅黄	浅黄	灰白、焼成良好	
318	弥生 土器	瓶	E区 脣部				斜め方向のナデ	斜め方向のナ デ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白色、4mm以下の乳白色 光沢、1mm以下の灰白色を多く含む。	
319	弥生 土器	瓶	E区 [直]~E区 然流路				不定方向に工具によ るナデ、鉢による 削り	工具によるナ デ、鉢による 削り	にぶい橙	にぶい黄橙	1~5mm大の灰白色を多く、2~ 5mm大の黒褐色を無数に含む。	黒斑、 煤付

第36表 E区出土遺物(表土・耕作土)観察表

遺物番号	区	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
320	E	—	石斧	チャート	3.00	4.65	2.85	41.5	
321	E	—	ナイフ形石器	流紋岩	7.40	1.90	1.20	14.4	

第37表 E区出土石器 計測表③

遺物番号	種別	器種	出土地点	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
				口径	底計	器高	外面	内面	外面	内面		
322	磁器	皿	E区 [直]~E区 然流路		(5.5)		回転ナデ、施釉、 鉢	回転ナデ、施釉	明緑灰	明緑灰	灰、焼成良好	

第38表 F区出土遺物観察表

## 第V章 自然科学分析の結果

### 第1節 銀座第2 遺跡における放射性炭素年代測定

#### 1 目的

本遺跡は、川南町市街地から北西へ約3km、唐瀬原面との境目付近の標高約145mの丘陵から東方向に広がる標高約122~117mに位置する唐瀬原面扇状地上に立地する。本遺跡の北東部に位置するD地区は、K-Ah以下の層序が良好に残存している。しかし、示準となるテフラが確認しづらく、K-Ah以下の層の年代がはっきりしない。また、周辺の銀座第1 遺跡及び銀座第3 A 遺跡ではK-Ah層以下の層序

堆積状況が悪く年代が特定できず、東九州道川南工区の調査も始まったばかりで標準土層が確定できていない。そこで、層序の年代を確定し、標準土層を作成する資料として活用するために自然科学分析を実施した。各層から検出した土壤の中に含まれる極微細な炭化物で年代を測定するためにはAMS法が最適と考えられ、この方法を採用した。分析資料は、D区の①黒褐色土層（本遺跡基本層序VI層）、②黒褐色土層（本遺跡基本層序VII層）、③黄褐色土層（本遺跡基本層序VIII層）から採取された3点である。

#### 2. 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代(西暦)	測定No. (Beta-)
①	8720±50	-23.2	8750±50	交点：cal BC 7770 1 σ : cal BC 7930~7720 2 σ : cal BC 7970~7610	175698
②	10770±70	-22.4	10810±70	交点：cal BC 10940 1 σ : cal BC 11040~10860, 10780~10700 2 σ : cal BC 11150~11120, 11070~10840 10800~10690	175699
③	12090±70	-21.3	12150±70	交点：cal BC 12170 1 σ : cal BC 13270~12760, 12380~12120 11970~11900 2 σ : cal BC 13330~12720, 12400~12090 12000~11890	175700

#### 文献

- Stuiver, M., et al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p. 1041-1083.  
中村俊夫 (1999) 放射性炭素法, 考古学のための年代測定学入門, 古今書院, p. 1-36.

### 第2節 銀座第2 遺跡における自然科学分析(樹種同定)

#### 1 目的(抜粋)

本遺跡南西部(C区)の近世の造成土と思われる検出面より、掘立柱建物2棟及び柱穴やビットが多数検出されている。掘立柱建物(SB1)と認定した柱穴及び近接する柱穴から木柱片5点が出土した。柱穴内や同じ検出面で寛永通宝を主とする銭貨が17枚出土しており、近世の建物跡としての可能性も考えられるが、遺物の出土していない柱穴や1柱穴内から200~300年差のある遺物が共伴している例もあり、時代比定が困難である。また、本遺跡に近接し

て川南神社、さらに約50m北側には薬師堂が建立されており、関連も想定される。

そこで、これらの木材の樹種や材質を明確にできれば、薬師堂等の使用建材との比較等により、当時の高鍋藩領内村落における神社仏閣等の普請用木材の入手先や入手経路の解明できる可能性もあり、当時のこれらの建材の領内における植生や建築技法等を考える参考資料を提供することとなる点でも有意義である。また、C14年代測定を実施することによ

って、掘立柱建物（SB1）や不明柱穴の建立時期を、柱穴内から検出した他の遺物との比較検証によりある程度明確に絞ることが可能なので、当遺跡の性格や近接する2つの歴史的建造物との関係を解明する手掛かりとしたいと考え、自然科学分析（樹種同定）を実施した。分析資料は、①SB1-③、②SB1-⑤、③SB1-⑦、④SH5、⑤SH6から採取された木柱片5点である。

## 2. 測定結果

### (1) 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
①	SB1-③	木材（ヤブニッケイ）	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	AMS
②	B1-⑤	木材（ヤブニッケイ）	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	AMS
③	SB1-⑦	木材（ヤブニッケイ）	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	AMS
④	柱穴、SH5	木材（ヤブニッケイ）	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	AMS
⑤	柱穴、SH6	木材（クスノキ）	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	AMS

\*AMSは加速器質量分析法：Accelerator Mass Spectrometry.

クスノキ *Cinnamomum camphora* Presl クスノキ  
科（第73図）

横断面：中型から大型の道管が、単独および2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。これらの軸方向柔細胞の中には、油を含み大きく膨れ上がったものも存在する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、道管の内壁にらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞の中には、しばしば大きく膨れ上がったものがみられる。

以上の形質よりクスノキに同定される。クスノキは、関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑の高木で、通常高さ25m、径80cmぐらいであるが、高さ50m、径5mに達するものもある。材は堅硬で耐朽性が強く、保存性が高く芳香がある。建築、器具、楽器、船、彫刻、ろくろ細工などに用いられ

る。

ヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum* Sieb. クスノキ科（第74図）

横断面：小型の道管が、単独および2～3個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔および数の少ない階段穿孔で、道管の内壁にらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～3細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞のなかには、油を含み大きく膨れ上がったものがみられる。

以上の形質よりヤブニッケイに同定される。ヤブニッケイは、関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑の高木で、高さ15m、径1mに達する。材は強さ中庸で、家具、器具、建築、薪炭などに用いられる。

## 文献

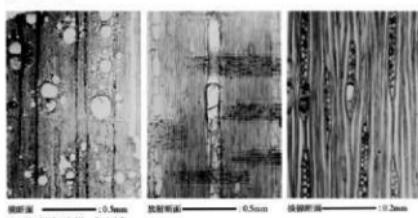
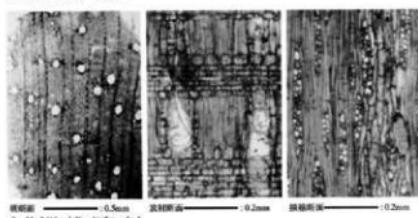
- 佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞、木材の構造、文  
永堂出版、p. 20-48.  
佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文  
永堂出版、p. 49-100.

- 島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧、雄  
山閣、p. 296  
山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献  
集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p. 242

## 2. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	$^{14}\text{C}$ (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代(西暦)
①	184031	$700 \pm 40$	-26.9	$670 \pm 40$	交点: cal AD 1300 $1\sigma$ : cal AD 1290~1310, 1370~1380 $2\sigma$ : cal AD 1270~1400
②	184032	$350 \pm 40$	-26.6	$320 \pm 40$	交点: cal AD 1530, 1560, 1630 $1\sigma$ : cal AD 1500~1640 $2\sigma$ : cal AD 1460~1660
③	184033	$360 \pm 40$	-25.4	$350 \pm 40$	交点: cal AD 1510, 1600, 1620 $1\sigma$ : cal AD 1470~1530, 1550~1630 $2\sigma$ : cal AD 1450~1650
④	184034	$300 \pm 40$	-24.2	$310 \pm 40$	交点: cal AD 1530, 1550, 1630 $1\sigma$ : cal AD 1510~1600, 1620~1650 $2\sigma$ : cal AD 1470~1660
⑤	184035	$370 \pm 30$	-26.5	$350 \pm 30$	交点: cal AD 1510, 1600, 1620 $1\sigma$ : cal AD 1480~1530, 1560~1630 $2\sigma$ : cal AD 1460~1640

遺跡遺跡の木材

SH 6 - 出土 木柱片  
クスノキSB 1 - 出土 木柱片  
ヤブニッケイ

## 第VI章　まとめ

銀座第2遺跡は、後期旧石器時代における3文化層、縄文時代早期、K-Ah以降に分けてまとめた。しかし、後期旧石器時代から近世にかけての断続的な礫の流れ込みによって複数の時代の遺物が混在して出土したり、耕作地への転用や道路整備のため削平されたりして、厳密に整理して報告することはできなかった。

以下、それぞれの時代について考察した。

### 旧石器時代

第I文化層では、調査範囲と遺物の出土量が少ないので全容はつかみにくい。また、土層断面の状況から層の堆積状況が不安定な区域も一部見られた。礫群1基と尾鈴酸性岩製の礫及び石器が確認されているが、本遺跡北東域に限定されている。遺物の石材は8点中7点が流紋岩である。第II文化層では、第I文化層と同じで調査範囲は狭いが、遺物出土量が増加し、出土範囲が拡大すると共に、石器の器種や石材の種類も増加する。特に第II文化層だけで見る黒曜石の出土率が高い。また、散礫の分布は東側に移動し、より広くなっている。第III文化層では、遺物の出土量が第I・II文化層に比べ圧倒的に増え、石材も多様化するが、流紋岩の使用率が特に高い。接合資料も1点であるが確認された。反面、礫は全く出土せず、遺構も検出されなかった。ここでは、D区に小規模な自然流路が確認された。これらのことから、旧石器時代の本遺跡は、遺跡に流れ込む自然流路の変遷によって、利用される区域が徐々に変遷していくとともに、流出する可能性もあり長期にわたる利用はできなかつたのではないかと言える。そして、本来の利用地は、東側調査区外に広がる可能性が高い。石器製作については、流紋岩がどの文化層でも主として利用されていることから遺跡近辺に採取地があったものと考えられる。また、第II文化層で黒曜石の消費が見られることから、当地においても旧石器時代に他地域との交流や交易が行われてたことがわかる。

### 縄文時代早期

遺物の出土量は極めて少ないが、尾鈴酸性岩製の

礫が特にB区に集中する。礫の赤化度が低く接合資料も少なく集石遺構も検出されなかった。この期においても礫の流れ込み堆積跡がB区で確認されている。また確認調査の結果から、A区においては筋状の流水跡が広い範囲で確認されている。

これらの事実から、縄文時代早期は断続的に流水域となっており、湿地化したものと思われる。

### K-Ah降灰以降

K-Ah降灰以降も礫の流れ込み跡や流水跡から生活地としては適していなかったことが、遺物の出土量の少なさからも窺い知れる。しかし、中・近世になって竹林の植生や整地などによって開発が進められ、B区やC区の一部に見られるように生活域として利用された区域が出てきたものと言える。C区西北部の黒色土（IIb層）面の掘立柱建物及び柱穴群から出土した木柱片は、ヤブニッケイとクスノキであった。自然科学分析の結果、SB1柱穴出土のヤブニッケイは、強さは中庸であるが、建築でも利用されている木材である。また、SH6出土のクスノキは強堅で、耐久性が強く、檜や櫟と共に神社等で使用される木材である。SH6出土のクスノキはほぼ方形に材製され、建築用として使用されていることから、神社との関連も想定できる。黒色土（IIb層）から出土した土師器の内1点は、灯明皿として使用されていたと思われる。また、火打ち金も出土している。近世陶磁器も出土していることから、この地は中世～近世に継続して生活地として利用されていたと思われる。

その中で、C区西北部で検出された掘立柱建物2棟、土坑3基、柱穴群、不明遺構1基の時期差については明確に区別できなかった。しかし、SB1及びSB2は、柱穴径及び深さ、柱間の相違はあるものの、棟方位がほぼ平行する点では共通している。また、SC1は、主軸方位がSB1の梁行方位とほぼ平行し、しかもSB1内の一番広い柱間に位置している点を考慮すると、SB1に伴う遺構とも考えられる。次に、SX1の構築期や性格は不明であるが、共に黒色土から掘り込んでいる点から当初SB1と同時期の遺構と考えていた。しかし、SX1の主軸は、SB1の主軸とずれており、共伴する遺物も

(流れ込みの可能性はあるものの) SB 1 出土遺物と異なる時期の遺物と思われる。これらのことから、SX 1 は SB 1 と異なる時期の遺構と考えられる。また、柱穴群として認定した遺構は、別の掘立柱建物跡の存在を意味する。

本遺跡内出土遺物の内、近世以降の陶磁器については、碗と皿に分け、近世前半と近世後半に分けて出土点数及び重量を計測した。その結果、近世前半が陶器の碗及び皿の量が多く、後半では減少している。逆に近世前半に少なかった磁器碗・皿が、後半では数量共に増加していると言える。しかし、それ以上の結果は見いだせなかった。生産地は、ほぼ肥前系が主であった。

以上、乏しい資料をもとに拙い論を述べてきたが、残された課題も多い。近接する川南神社や薬師堂との関連は、見いだせなかった。今後の良好な資料の発見をもって、推考していく必要がある。

#### 参考文献

- 「筑紫郡太宰府町所在御笠川南条坊遺跡(4)」1978 考古学ライブラリー(ニューサイエンス社)
- 「肥前陶磁」2001 「宮崎県における槍先形尖頭器の出現と消滅」 松本 茂 2003 九州旧石器研究会
- 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第87集 「東畦原第3遺跡」2004
- 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第48集 「倉岡第2遺跡」2001
- 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第90集 「下那珂遺跡」2004
- 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第70集 「八幡遺跡」2003
- 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第15集 「西下本庄遺跡」1999
- 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第16集 「鶴野内中水流遺跡」1999
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(35) 「高井田遺跡」2002
- 兵庫県埋蔵文化財調査報告 第171冊 「神出窯跡群」1998
- 宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書 第1集 「山内石塔群」1984
- 山口県埋蔵文化財調査報告 第56集 「下右田遺跡」1999
- 九州近世陶磁学会「九州陶磁の編年」2000
- 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第8集



SI 1 (北から)



縄文時代早期層 磁集中区 (西から)



C区北西部黒色土遺構検出状況 (南から)



SC 1 完掘 (南東から)



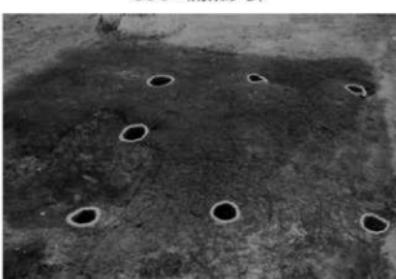
SC 2 (南東から)



SC 3 (南東から)



SX 1 (北から)



SB 3 完掘 (西から)

図版 2



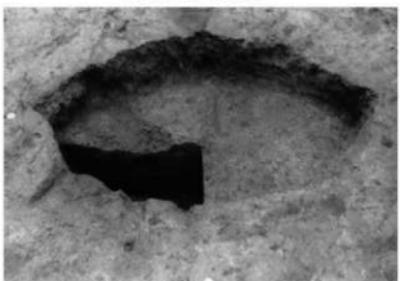
SC 4 完掘（南西から）



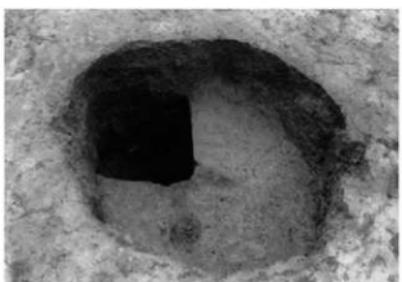
SC 5 完掘（東から）



SC 6 完掘（東から）



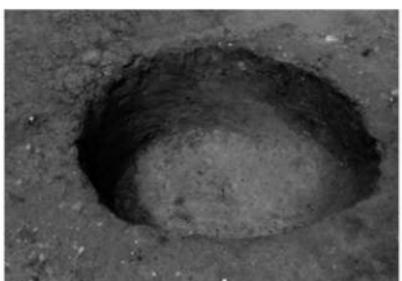
SC 7 完掘（北東から）



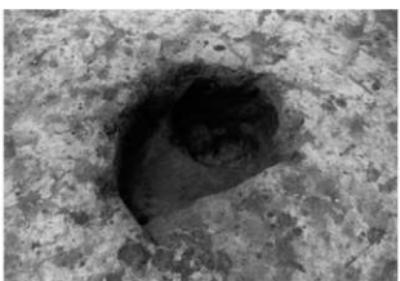
SC 8 完掘（北東から）



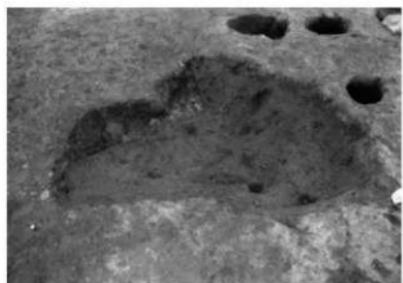
SC 9 完掘（東から）



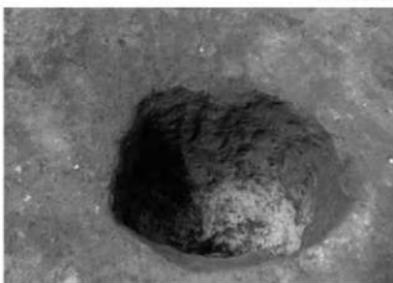
SC 10（北から）



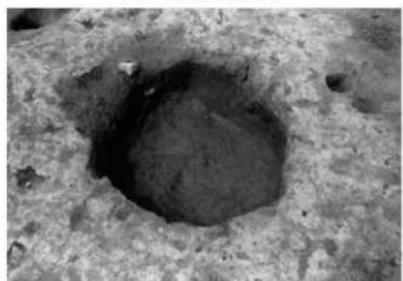
SC 11完掘（東から）



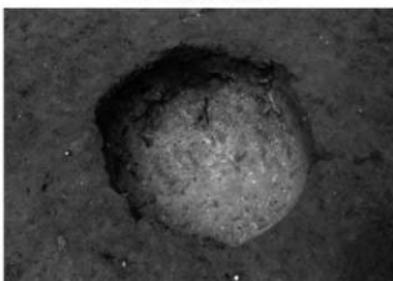
SC12完掘（東から）



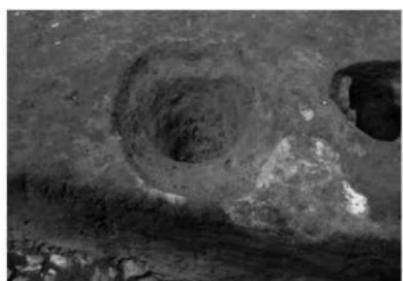
SC13完掘（東から）



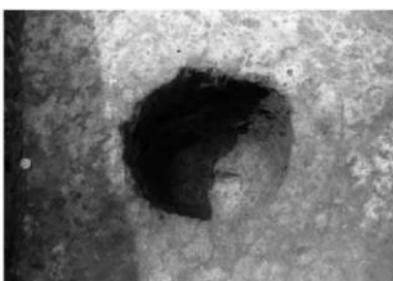
SC14完掘（南から）



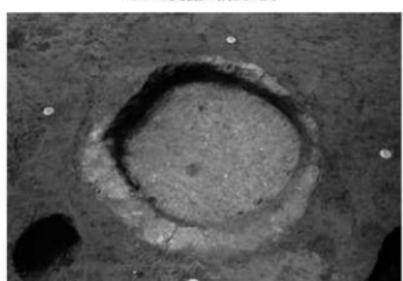
SC15完掘（北から）



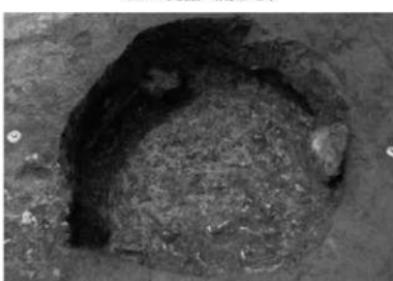
SC16完掘（東から）



SC17完掘（南から）



SC18（東から）

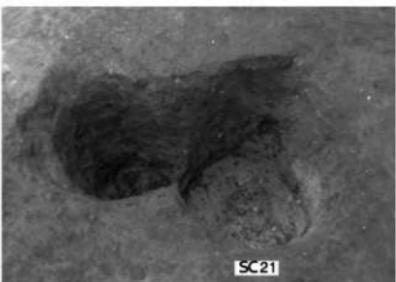


SC19完掘（東から）

図版4



SC20完掘（東から）



SC21完掘（南西から）



SE1・2完掘（東から）



礫堆積層検出状況



礫堆積層断面



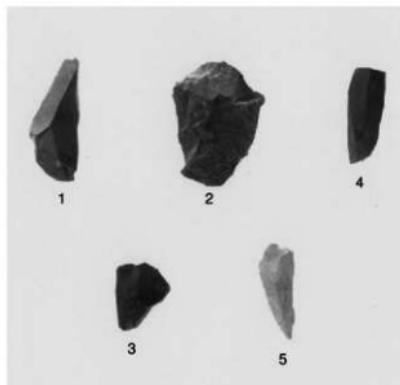
礫堆積層出土遺物



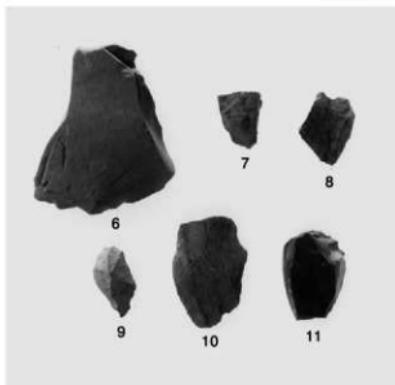
E区自然流路完掘（南から）



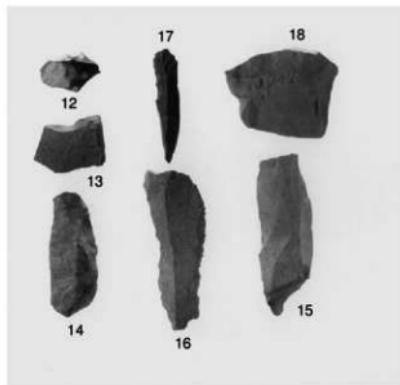
E区旧石器層遺物出土状況（西から）



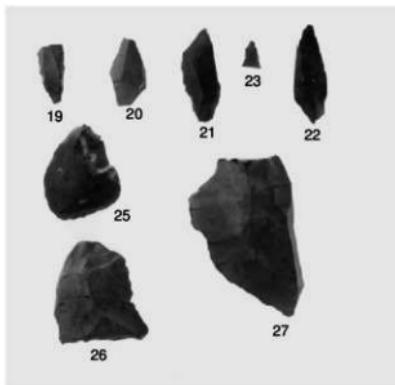
旧石器第Ⅰ文化層出土遺物



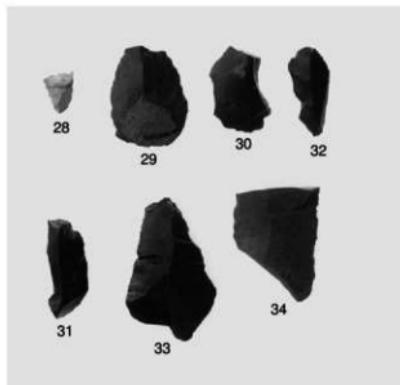
旧石器第Ⅱ文化層出土遺物①



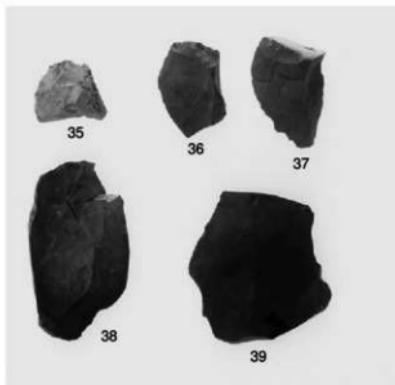
旧石器第Ⅱ文化層出土遺物②



旧石器第Ⅲ文化層出土遺物①

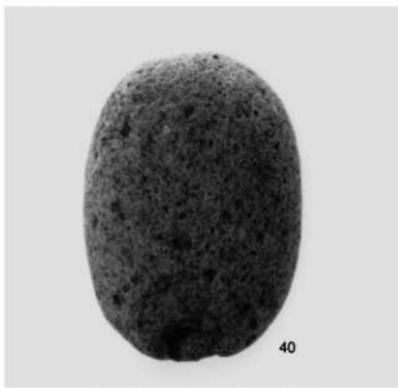


旧石器第Ⅲ文化層出土遺物②

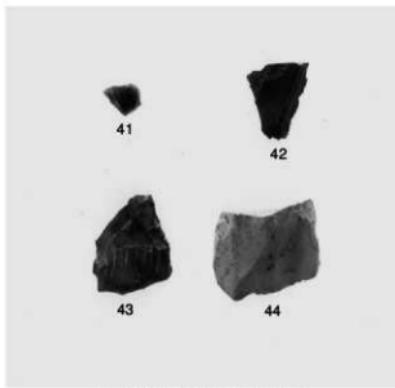


旧石器第Ⅲ文化層出土遺物③

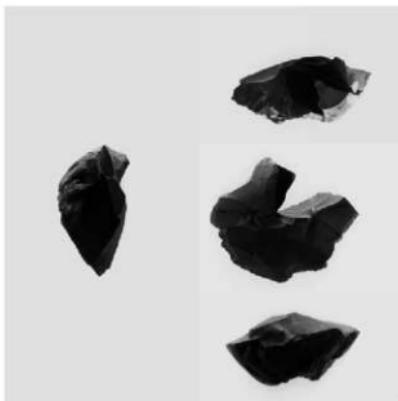
圖版 6



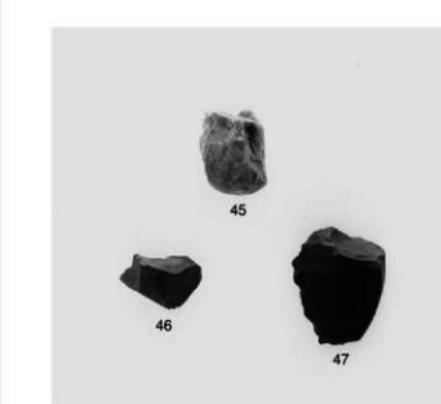
旧石器第III文化層出土遺物④



旧石器第III文化層出土遺物⑤

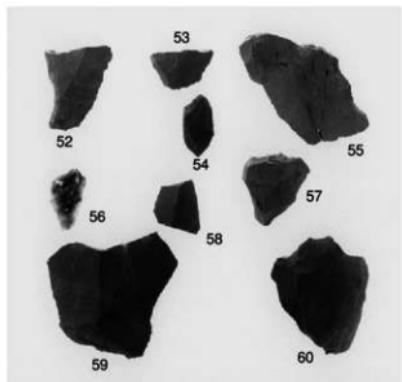


接合資料 1

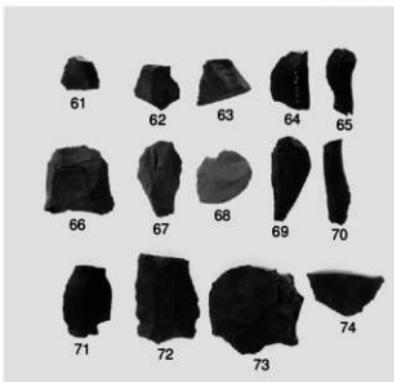


旧石器第III文化層出土遺物⑥

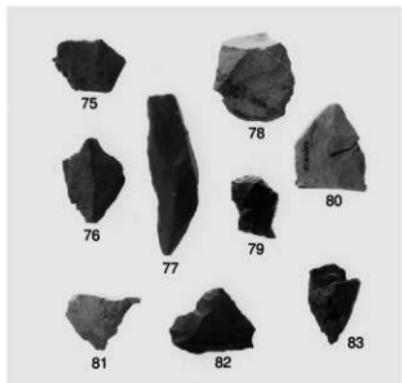
旧石器第III文化層出土遺物⑤



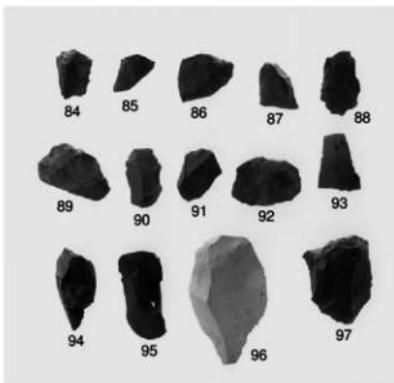
旧石器第III文化層出土遺物⑦



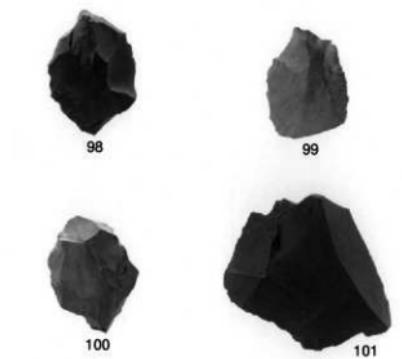
旧石器第III文化層出土遺物⑧



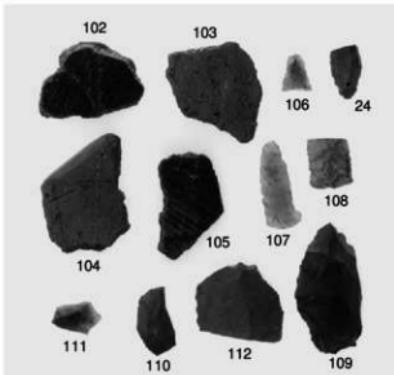
旧石器第III文化層出土遺物⑨



旧石器第III文化層出土遺物⑩

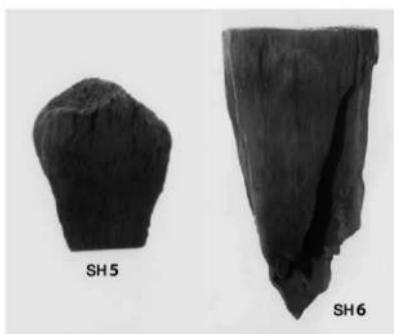
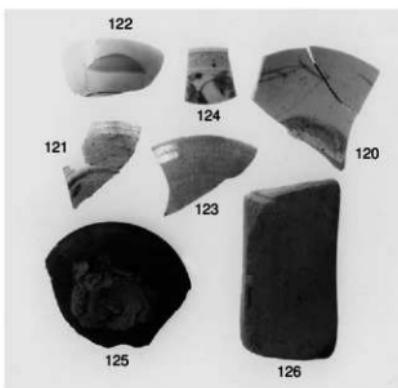


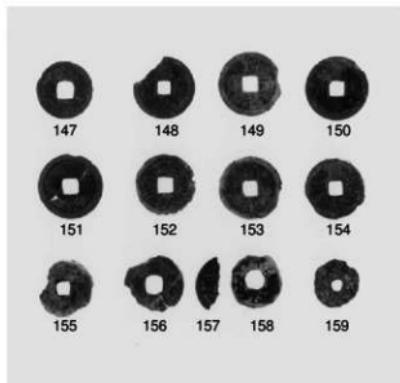
旧石器第III文化層出土遺物⑪



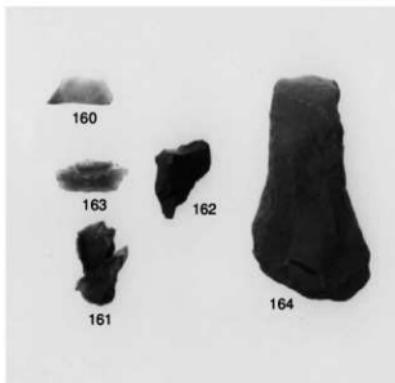
縄文時代早期層出土遺物

图版 8





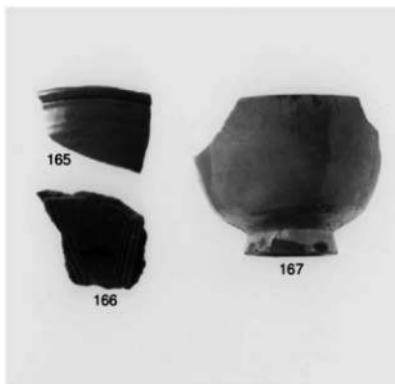
C区黒色土（IIb）出土遺物②



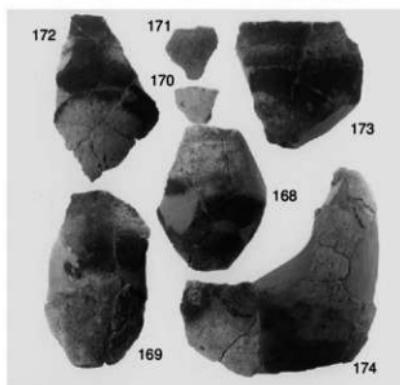
C区黒色土（IIb）出土遺物③



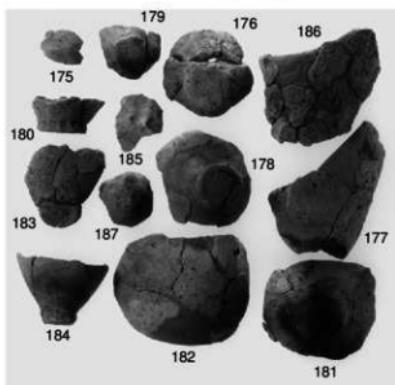
C区黒色土（IIb）出土遺物（図化資料外）



SC17・SE1 出土遺物



碟堆積層出土弥生土器①

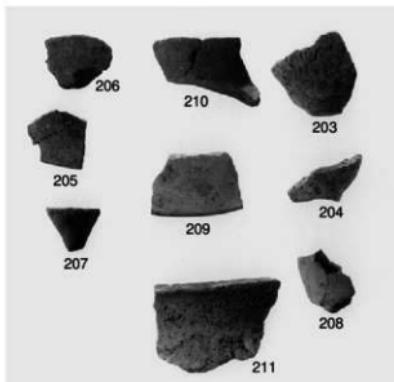


碟堆積層出土弥生土器②

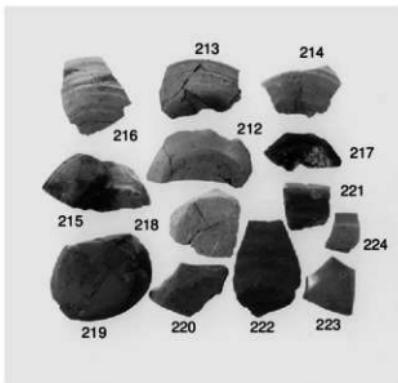
図版10



碟堆積層出土弥生土器③



碟堆積層出土弥生土器④



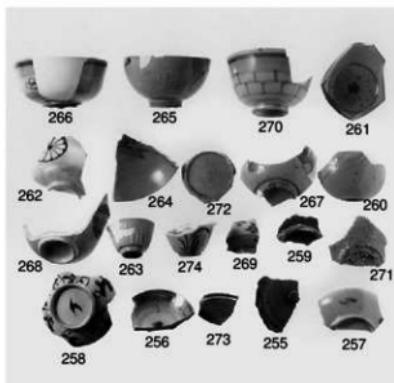
碟堆積層出土土師器



碟堆積層出土石器

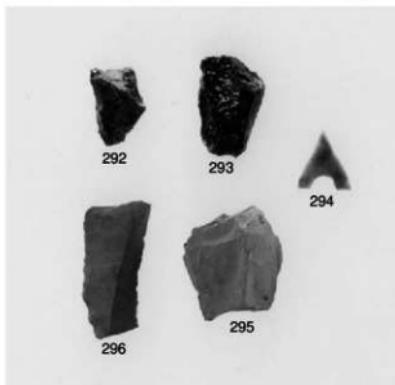


碟堆積層出土陶磁器





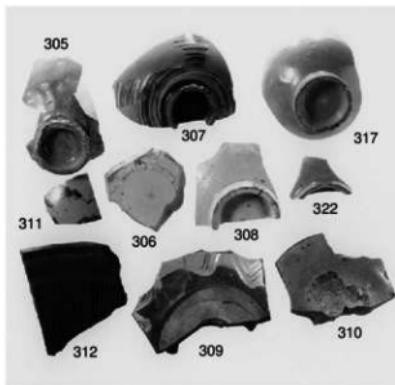
遺跡内出土陶磁器②



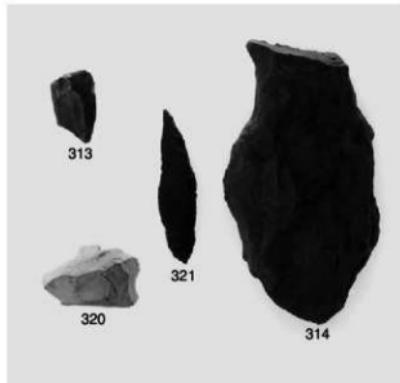
表土及び攢乱土出土土器



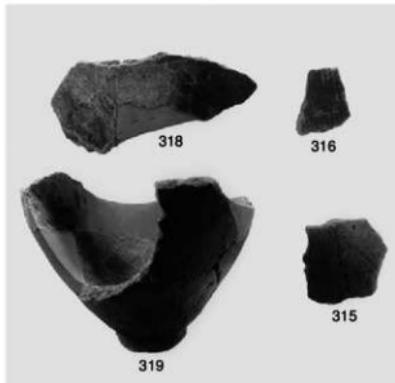
E区旧石器時代層出土石器



E区自然流路・F区出土陶磁器



E区自然流路内出土遺物



E区表土出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	ぎんざだい2いせき					
書名	銀座第2遺跡					
副書名	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次	20					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘報告書					
シリーズ番号	第115集					
執筆・編集担当者名	承田 和久					
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171					
発行年月日	2005年9月26日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
銀座第2遺跡	宮崎県 児湯郡 川南町 大字黒岩	32° 14' 4"	131° 30' 23"	2002.7.8 ～ 2003.3.28	7,500m <sup>2</sup>	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
銀座第2遺跡	散布地	旧石器時代 縄文時代早期 弥生時代 中世 近世	礫群 掘立柱建物 土坑 不明遺構	3基 3棟 21基 1基	ナイフ形石器・尖頭器・台形石器・石核・スクレイパー 縄文土器・尖頭器・石礫 弥生土器・石包丁・土師器・須恵器 陶磁器・錢貨	

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第115集  
銀座第2 遺跡

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書20

2005年

発行 宮崎県埋蔵文化財センター  
〒880-0212 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地  
TEL 0985 (36) 1171 FAX 0985 (72) 0660

印刷 株式会社 宮崎南印刷  
〒880-0911 宮崎県宮崎市大字田吉350-1  
TEL 0985 (51) 2745 FAX 0985 (52) 2682

---